

【アドベンチャーツーリズムナレッジ集別冊】

海外調査結果

国土交通省 観光庁 観光地域振興部 観光資源課
(新たなインバウンド層の誘致のためのアドベンチャーツーリズム推進事業)

令和4年3月



観光庁
Japan Tourism Agency

海外調査結果の要点サマリー(1/2)

【推進体制】

海外のアドベンチャーツーリズム供給先進国であるスイスとニュージーランドでは、観光業界全体として必要な情報やツールを各種業界団体・DMO等が集約し、事業者が利用出来るように提供することで、アドベンチャーツーリズムの効率的な推進を図っています。

- スイスやニュージーランドでは、アドベンチャーツーリズムに特化した情報サイトが開設(※)されており、事業者は安全管理に役立つ情報や手続きに必要な書類をサイトから入手することが可能となっています。
- 必要情報が一元化され、常にわかりやすく提示されていることによって、事業開始時の手続きや推進していく際に、非常に効率的に情報を取得することができ、情報収集や書類の作成に要する時間等の削減に繋がっています。

【コンテンツ造成】

文化的コンテンツに対するニーズは世界中で高まっており、スイスやニュージーランドでも、自然環境で行うアクティビティに加え、文化的要素を取り入れることがトレンドとなっています。

- スイスやニュージーランドでも、単に自然環境で行うアクティビティに参加するだけでなく、アクティビティを体験しながら、その土地の歴史を学ぶことができたり、地元の人と交流することができたりするなど、文化体験を伴うコンテンツの需要が高まっています。この傾向は、アドベンチャーツーリズム顧客像調査からも見られます。

【情報発信】

政府観光局やDMOが主体となり、データ収集や情報発信機会の提供、事業者間での連携等を積極的に推進することで、国外に対しての国全体のプレゼンス向上や事業者からの効率的な情報発信を実現しています。

- スイスやニュージーランドでは、政府観光局やDMOが市場動向データの収集及び事業者への提供、商談イベント開催等を行っています。
- それにより、国外に対しての国全体のPRに繋がると共に、小規模事業者においても顧客動向に関するデータを効率的に入手することができ、ターゲットに合わせた情報発信が可能となります。また、商談会を開催することで、事業者単独ではアプローチが難しい顧客とも関係を築くことができる機会を提供しています。

【価格設定】

スイスやニュージーランドでは、アクティビティやツアーの価格は、地域内の競合商品と比較した際の付加価値や、国外から見た際の相場観等を基に設定されています。

- 多くの事業者は、ツアーの運営に必要なコストと利益を積算していますが、国外の取引先旅行会社等からの意見も参考に、地域内の他社商品以上の「付加価値」が盛り込まれていると判断した場合には、他社よりも高い価格を設定します。
- また、安価な商品では安全性に不安を感じる顧客もいるため、多くの事業者は、安価で提供しようという意識はありません。

海外調査結果の要点サマリー(2/2)

【リスク管理(免責・保険・事故発生時の対応)】

スイスやニュージーランドでは、多方面でのリスク管理が行われています。

- スイスやニュージーランドでは、リスクに備えた免責・事業者保険への加入・事故発生時の対応など、リスク管理のための多方面での取組が徹底されています。
- 例えば、旅行者に対してはウェーバーフォーム(※)/利用規約への同意を徹底し、事業者はアドベンチャーアクティビティが対象となる保険に加入しています。また、事故発生時に備えて、民間のスキー場や救助組織との連携など、対応方法が確立されています。

【リスク管理(法規制・認定制度)】

スイスやニュージーランドでは、業界団体による品質管理に関する制度の整備により、アドベンチャーアクティビティの品質が担保されています。

- スイスやニュージーランドでは、主に業界団体が提供する、アドベンチャーアクティビティに特化した安全規制や品質認定制度が存在しています。このような制度により、アドベンチャーアクティビティ実施時の安全性担保や、継続的な品質向上に向けた取組を促す活動に繋がっています。
- また、旅行者にとっても品質が担保された事業者を見分けやすくなり、安全な事業者の選択に繋がります。

【ガイドの確保】

スイスやニュージーランドでは、国内人材のみでのガイド人材確保が容易ではないため、外国籍のガイドが活躍しています。

- 特にスイスには、世界中から集まるガイドのコミュニティが形成されており、ガイド事業者に所属する既存ガイドが、国外にいる友人ガイドを雇用者に紹介するリファラル採用によって、外国籍のガイドを確保することが一般的です。
- 外国籍ガイドの在留資格については、スイスでは特別な在留・就労許可を得ずに就労することが認められているEU圏内からの労働者を中心に雇用し、ニュージーランドでは、一定期間の在留・就労資格が与えられるワーキングホリデービザを活用した労働者を中心に雇用しています。

【ガイドの育成】

業界団体により提供されているトレーニング等により、アドベンチャーツーリズム提供事業者全体の技術の向上やガイドの客観的な信頼性の判断が可能となっています。

- スイスやニュージーランドでは、業界団体により提供されている資格認定・資格取得のためのトレーニングがあります。
- 各アクティビティにおいてレベルが統一化・体系化された資格が存在することで、客観的な指標に基づく技術の向上が図られると同時に、旅行者にとってもガイドの信頼性についての判断が容易になります。

目次

I. 顧客像調査編

1章 アドベンチャーツーリズム旅行者の全体像

2章 アドベンチャーツーリズム旅行者のセグメント別調査結果

II. スイス編

III. ニュージーランド編

アドベンチャーツーリズム顧客像調査で使した調査

アドベンチャーツーリズム顧客像調査に使用した既存調査の概要

	欧米アドベンチャーツーリズム旅行者層に対するオンライン調査	アドベンチャーツーリズム旅行者や文化的旅行者の消費動向調査
調査時期	<ul style="list-style-type: none"> 2019年10月29日～11月13日 	<ul style="list-style-type: none"> 2019年4月30日～5月17日
調査方法	<ul style="list-style-type: none"> オンライン調査 	<ul style="list-style-type: none"> オンライン調査 SNSのデジタルスクリーニング
対象国	<ul style="list-style-type: none"> ドイツ、イギリス、フランス、アメリカ合衆国、カナダ、オーストラリア、イタリア、スペイン、ロシアの9カ国 	<ul style="list-style-type: none"> アメリカ合衆国、オーストラリアの2カ国
サンプル数	<ul style="list-style-type: none"> 1,800名(各国200名、20・30・40・50代の男女それぞれ25名ずつ) 	<ul style="list-style-type: none"> 2,514名(米国:1,239名、オーストラリア:1,275名) 8億件のソーシャルメディア投稿
調査項目	<ul style="list-style-type: none"> 属性項目およびパッケージ利用や特性等、旅行に関する設問 	<ul style="list-style-type: none"> 属性項目および旅行に対する意識・態度等に関する設問
分析手法	<ul style="list-style-type: none"> クラスター分析 	<ul style="list-style-type: none"> クラスター分析

2つの既存の旅行者調査から旅行者像分析を実施

出典: ATTA & IFC「Shaping the Future of Adventure and Cultural Travel」、北海道運輸局「2019年度アドベンチャートラベルコンテンツ造成事業最終報告書」
 ※ Adventure Travel Trade Association

アドベンチャーツーリズム顧客像調査の項目

分析項目の全体像

カテゴリー	分析項目
アドベンチャーツーリズム 旅行者全体像	<ol style="list-style-type: none">1. アドベンチャーツーリズム旅行者数2. 今後訪れたい国3. ホテル・パッケージ利用傾向4. 好むアクティビティの傾向5. 旅行者セグメントとその分布
セグメント別 アドベンチャーツーリズム 旅行者像	<ol style="list-style-type: none">6. 属性と特徴7. アクティビティの傾向<ul style="list-style-type: none">- 人気のアクティビティの種類- 文化的アクティビティのニーズ8. 旅行購入関連の傾向9. 情報収集の傾向<ul style="list-style-type: none">- 活用される情報媒体の種類- 活用される具体的なSNS・ウェブサイト

アドベンチャーツーリズム顧客像調査の主な調査結果サマリー

【アドベンチャーツーリズム顧客全体像】

- アドベンチャーツーリズムの旅行者規模は9カ国合計1,671万人と推計され、特に米国は491万人と最も多くなっています。今後行きたい旅行先としては、欧州やニュージーランド等に加え、日本への関心が高くなっています。
- 4つ星以上のホテル利用者が多く、パッケージ利用者が少ないことから、**ハイエンドな旅行者が多い**と推測されます。
- 食文化体験など、**その土地の文化を体験できるアクティビティが人気**であり、体を動かすアクティビティでも、ハイキングやサイクリング、トレッキングといった**専門的なスキルが求められないソフトなもの**が人気です。
- アドベンチャーツーリズムの主要旅行者は、それぞれの特徴から大きく3つのセグメントに分けることができます。

【S1 文化的地域探検者：年齢層が高く、より文化的な体験を好む層】

- **平均年齢が43.7歳と高く**、パッケージ利用率とエコノミークラス利用率は平均よりも高くなっています。
- **ハードアクティビティが旅行の目的でない**ため、ハイキングやトレッキング、野生動物観察といったアクティビティ以外の参加率が平均よりも低い一方で、**文化的な体験が可能なアクティビティには積極的に参加する**傾向にあります。
- 旅行は前もって、一般的な情報源、**特に旅行会社の情報を活用**し、時に他人と共に計画するのが一般的です。

【S2 体験詰め合わせ型挑戦者：比較的若く、幅広いアクティビティに参加する最もハイエンドな層】

- 20-30代が半数以上を占め、他セグメントと比較して**平均年齢が37.8歳と若い**ですが、ファーストクラスやビジネスクラスの利用率が高く、パッケージ利用率も低いことから、3つの中で**最もハイエンドなセグメント**となっています。
- **ハード・ソフト関係なく、幅広くアクティビティに挑戦する傾向**があります。
- 旅行直前に自身で予定を立て、一般的な情報源に加え、自然雑誌やラジオなど、**幅広いメディアを活用**し情報収集を行っています。

【S3 アドベンチャー集中型自然・文化探検者：本格的な体験を好む最もコアな層】

- 上記S1、S2のセグメントと比較すると、ロシア以外では**最も割合が少なく**、**平均年齢は40.2歳**です。
- 年齢層やパッケージ利用率等の特徴がS1と似ているが、S1と比べてより**本格的な体験を好む層**になっています。
- **ハード・ソフト関係なく定期的に行えるアクティビティを好む傾向**にあります。
- 旅行直前に自身で計画を立て、情報収集は**プロのSNS投稿や専門メディア**なども含め、**オンラインで行う傾向**にあります。

目次

I. 顧客像調査編

1章 アドベンチャーツーリズム旅行者の全体像

2章 アドベンチャーツーリズム旅行者のセグメント別調査結果

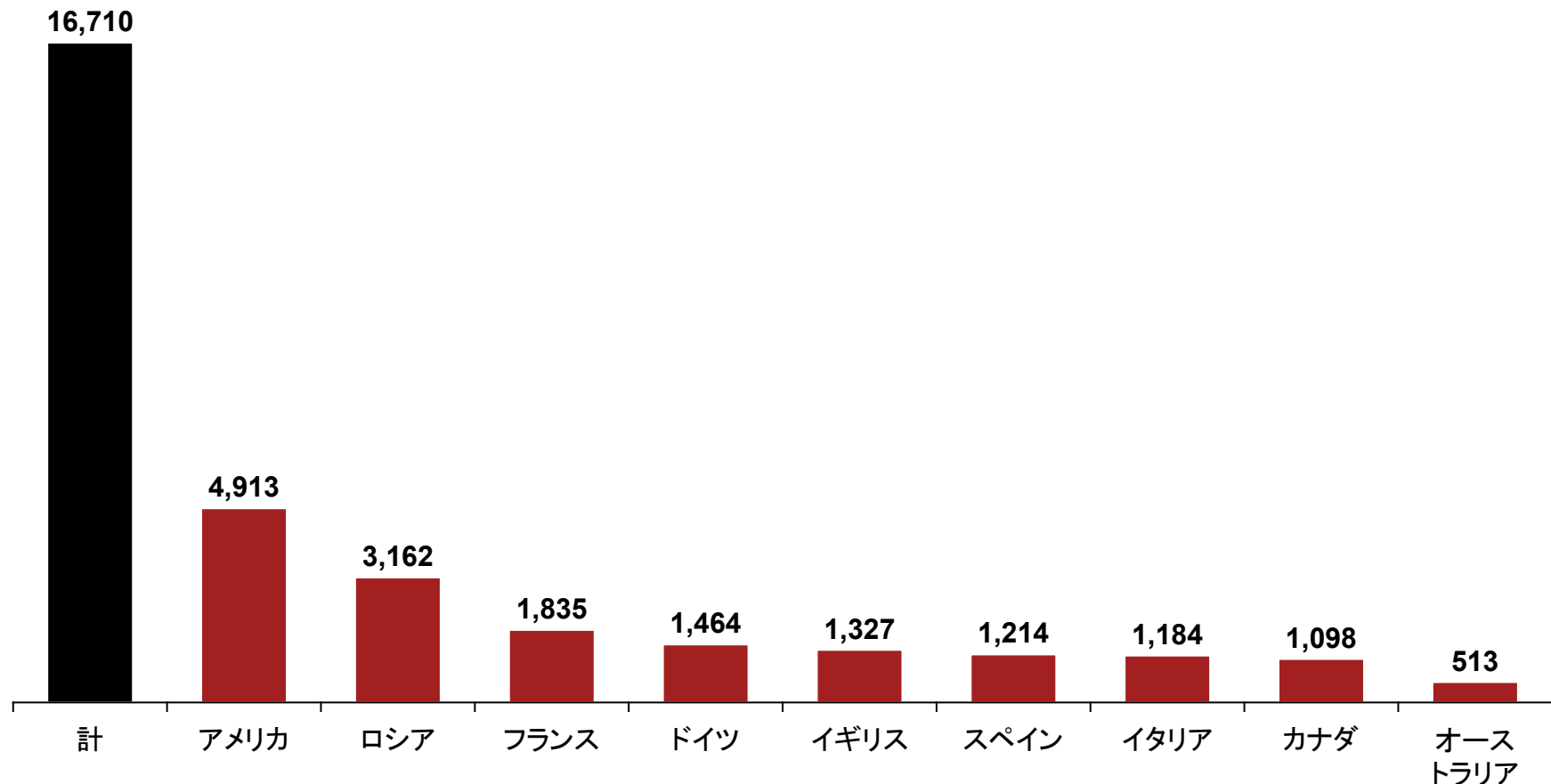
II. スイス編

III. ニュージーランド編

アドベンチャーツーリズムの国別市場規模

9カ国における国別のアドベンチャーツーリズム旅行者数の推計(千人)

アドベンチャーツーリズムの旅行者規模は9カ国合計で1,671万人と推計され、特に米国は491万人と最も多くなっています。



アドベンチャーツーリズム旅行者が今後訪れたい国

9カ国のアドベンチャーツーリズム旅行者が今後海外旅行で訪れたい上位10カ国

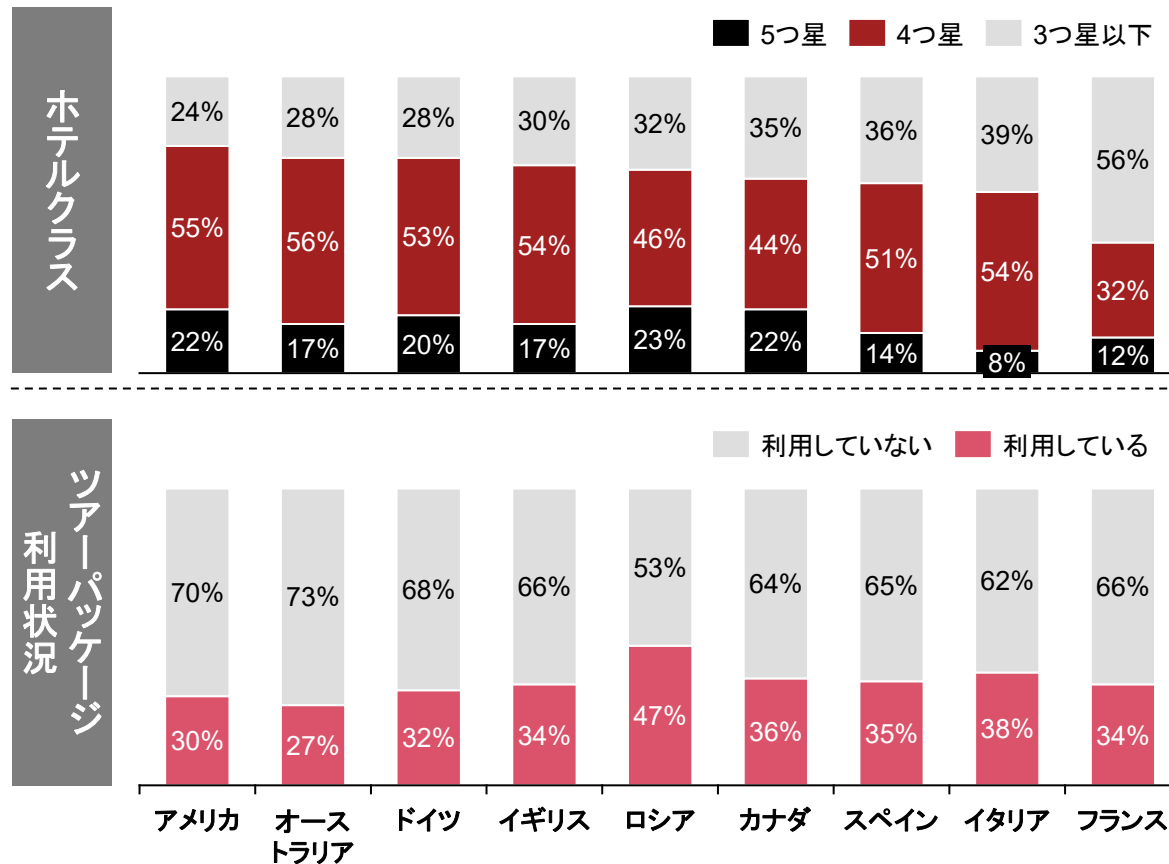
調査対象の9カ国のうちイギリス、フランス、カナダ、オーストラリア、イタリア、スペイン、ロシアの7カ国のアドベンチャーツーリズム旅行者が日本を最上位の渡航意向国に選択しています。

	ドイツ	イギリス	フランス	アメリカ	カナダ	オーストラリア	イタリア	スペイン	ロシア
1位	ニュージーランド	日本	日本	オーストラリア	日本	日本	日本	日本	日本
2位	オーストラリア	オーストラリア	カナダ	日本	イタリア	アメリカ西海岸	オーストラリア	アメリカ西海岸	イタリア
3位	フランス	アメリカ西海岸	タイ	ニュージーランド	アメリカ西海岸	ニュージーランド	アメリカ西海岸	メキシコ	オーストラリア
4位	イギリス	ニュージーランド	アメリカ東海岸	イタリア	オーストラリア	イギリス	ハワイ	オーストラリア	ドイツ
5位	イタリア	ハワイ	アメリカ西海岸	イギリス	ニュージーランド	アメリカ東海岸	イギリス	フランス	タイ
6位	アメリカ西海岸	カナダ	イタリア	フランス	フランス	中国	メキシコ	アメリカ東海岸	トルコ
7位	トルコ	トルコ	オーストラリア	スペイン	ドイツ	イタリア	タイ	イタリア	ハワイ
8位	メキシコ	メキシコ	メキシコ	ドイツ	ギリシャ	カナダ	ギリシャ	イギリス	ベトナム
9位	日本	スペイン	スイス	メキシコ	ハワイ	スイス	ブラジル	タイ	スペイン
10位	中国	ブラジル	フィンランド	カナダ	スイス	ハワイ	カナダ	カナダ	メキシコ

アドベンチャーツーリズム旅行者のホテル・パッケージ利用傾向

9カ国のアドベンチャーツーリズム旅行者のホテルクラスとツアーパッケージ利用状況

アドベンチャーツーリズム旅行者には4つ星以上のホテル利用者が多く、個人で自由度の高い旅を好む、ハイエンドな旅行者であることが窺えます。



- 4カ国で4つ星以上のホテル利用比率が70%を超えるため、アドベンチャーツーリズムにはハイエンドな旅行者が多いと推測される。
- また、パッケージ利用率は50%以下と低く、個人で自由度の高い旅を好む傾向が高いと考えらる。

アドベンチャーツーリズム旅行者が好むアクティビティの傾向

9カ国のアドベンチャーツーリズム旅行者が旅行時に好むアクティビティ(■各国の上位10アクティビティ)

アドベンチャーツーリズム旅行者は文化体験、食文化体験、野生動物観察、ハイキングなどのソフトなアクティビティを好む傾向にあります。

	ドイツ	イギリス	フランス	アメリカ	カナダ	オーストラリア	イタリア	スペイン	ロシア
食文化体験	73%	68%	72%	75%	71%	62%	72%	73%	58%
文化体験	65%	64%	66%	74%	63%	59%	73%	70%	70%
ハイキング	62%	54%	67%	68%	58%	48%	80%	67%	76%
野生動物観察	47%	60%	65%	65%	60%	55%	60%	58%	69%
サイクリング	57%	47%	36%	44%	45%	41%	37%	38%	52%
トレッキング	30%	48%	33%	39%	35%	43%	51%	69%	23%
キャンピング	34%	34%	36%	43%	43%	40%	34%	39%	34%
釣り	27%	30%	26%	47%	38%	36%	31%	25%	43%
スキー	29%	24%	38%	34%	29%	30%	40%	34%	42%
サファリ体験	33%	34%	32%	31%	35%	35%	36%	28%	26%
マウンテンバイク	30%	26%	41%	31%	28%	26%	45%	31%	26%
カヤッキング	23%	28%	32%	39%	38%	31%	23%	30%	14%
スキューバダイビング	20%	24%	25%	33%	26%	27%	34%	31%	37%
カヌーイング	25%	24%	34%	37%	36%	30%	28%	24%	17%
乗馬	26%	22%	25%	33%	26%	24%	36%	28%	26%
セイリング	23%	22%	32%	40%	32%	26%	24%	26%	17%
ラフティング	18%	21%	24%	29%	24%	24%	23%	22%	21%
SUP	21%	17%	26%	31%	25%	25%	22%	21%	16%
山登り	25%	23%	21%	26%	27%	28%	23%	17%	13%
スノーボード	21%	17%	23%	23%	24%	24%	25%	20%	21%
サーフィン	20%	20%	24%	23%	21%	29%	21%	18%	19%
ロッククライミング	17%	21%	25%	25%	22%	21%	21%	18%	17%
ケイビング	20%	20%	17%	22%	24%	25%	21%	16%	15%
スカイダイビング	19%	13%	20%	21%	18%	21%	16%	16%	16%
カイトサーフィン	14%	12%	18%	23%	13%	23%	17%	15%	10%
ヘリスキー	14%	13%	16%	18%	14%	15%	14%	15%	13%

アドベンチャーツーリズム旅行者のセグメントと分布(1/2)

ターゲットとなる3つのアドベンチャーツーリズム旅行者のセグメントと概要

ターゲットとなるアドベンチャーツーリズム旅行者セグメントは3つ存在し、特にS2「体験詰め合わせ型挑戦者」およびS3「アドベンチャー集中型自然・文化探検者」は、ハード系アクティビティを好む層となっています。

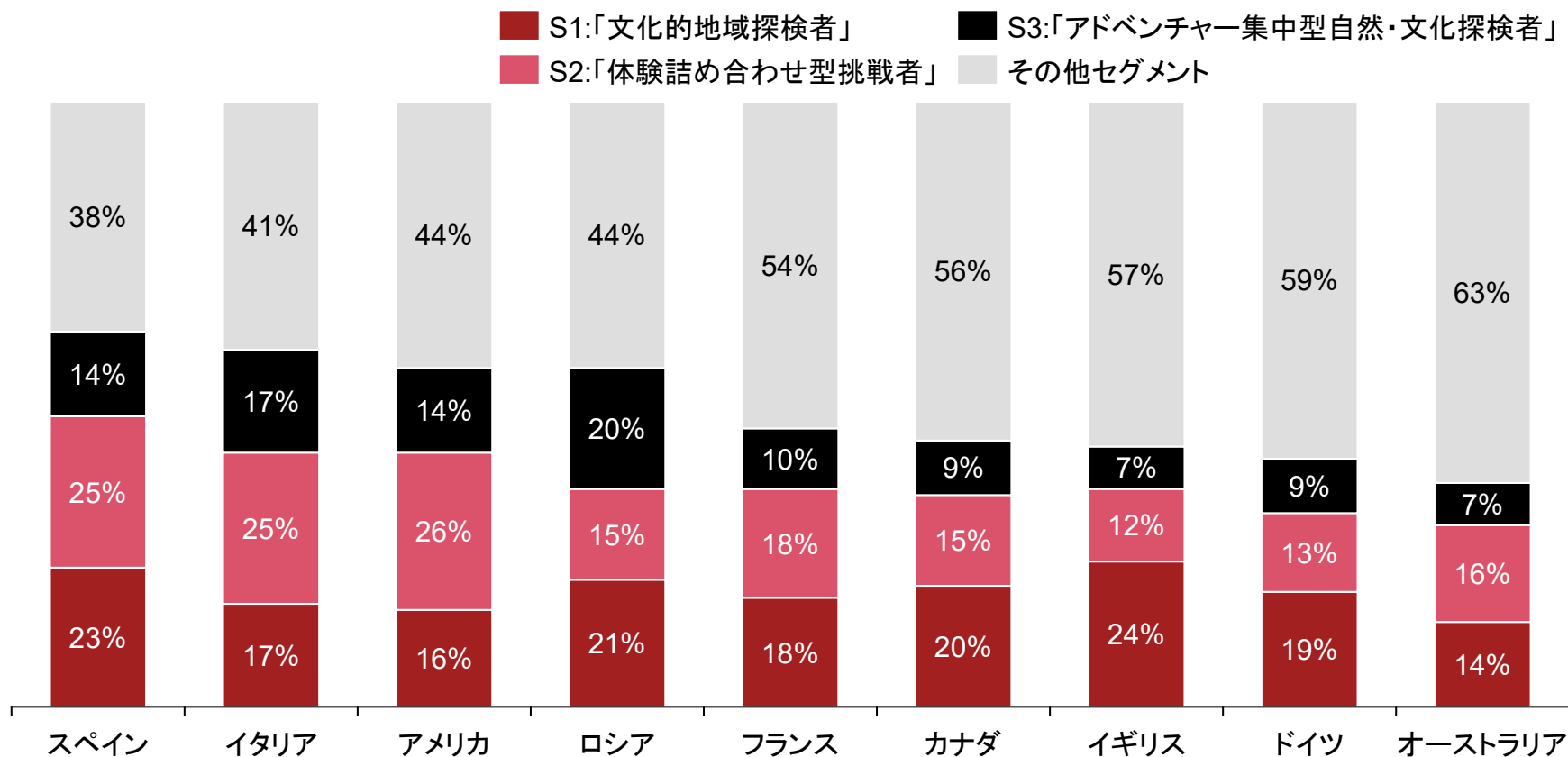
凡例 ハード系ATを好むか: ○ ハード系ATを好む、× ハード系ATを好まない
 経済的余裕があるか: ○ 年収が平均より10%以上多い、△ 年収が平均と比較し±10%未満

#	セグメント名	概要	ハード系ATを好むか	経済的余裕があるか
S1	文化的地域探検者	<ul style="list-style-type: none"> 新しいことを学び、新しい体験を積極的に訴求する その土地ならではの自然・伝統・文化に強い関心を持ち、自然や風景を平均以上に楽しむ 旅行中はバランスよく色々なことを行う 一方で、危険を冒したり、競争することは好まない 	×	△
S2	体験詰め合わせ型挑戦者	<ul style="list-style-type: none"> 新しいことを学び、経験することへの興味が高い 自然や文化に限らず、広く浅く、様々な分野に好奇心があり、特に環境に対する関心も強い 多くの体験のために多少のリスクは惜しまないことに加え、一流の体験にはお金は惜しまない 一方で、移動や宿泊にお金をかけるなど、快適さは訴求する 	○	○
S3	アドベンチャー集中型自然・文化探検者	<ul style="list-style-type: none"> 自然・文化に対して好奇心が旺盛であり、興味のあることは深く掘り下げる そのため、面白い経験のためには過酷な状況に耐えることも厭わない 限界に挑戦すること、勝つことを重視するため、本格的なアクティビティや文化体験を好む 	○	△

アドベンチャーツーリズム旅行者のセグメントと分布(2/2)

9カ国におけるアドベンチャーツーリズム旅行者セグメントの分布

国によって、アドベンチャーツーリズム旅行者のセグメント分布は異なり、スペイン、イタリア、アメリカ、ロシアでは、特にS2「体験詰め合わせ型挑戦者」、S3「アドベンチャー集中型自然・文化探検者」が多い傾向にあります。



目次

I. 顧客像調査編

1章 アドベンチャーツーリズム旅行者の全体像

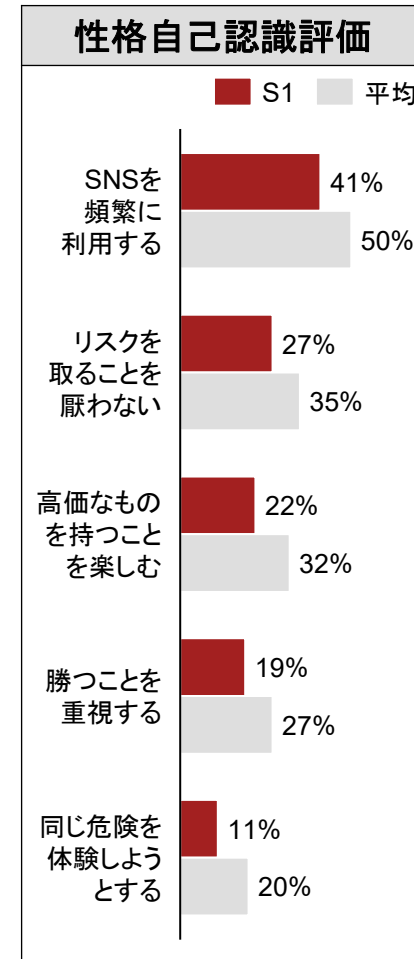
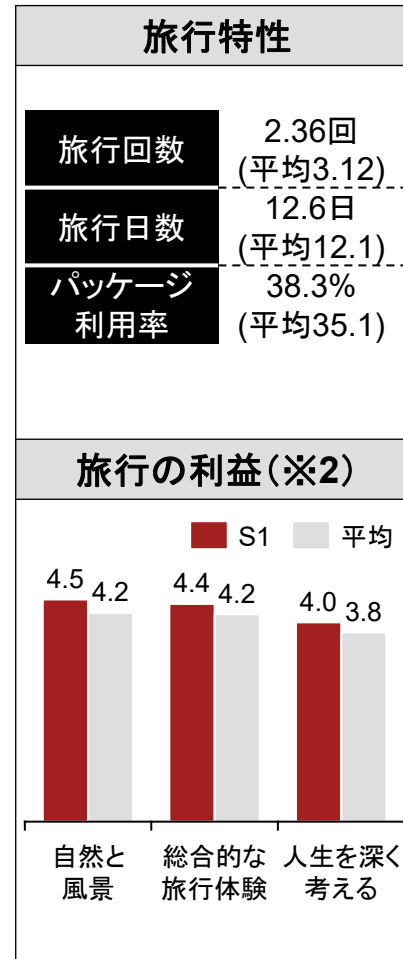
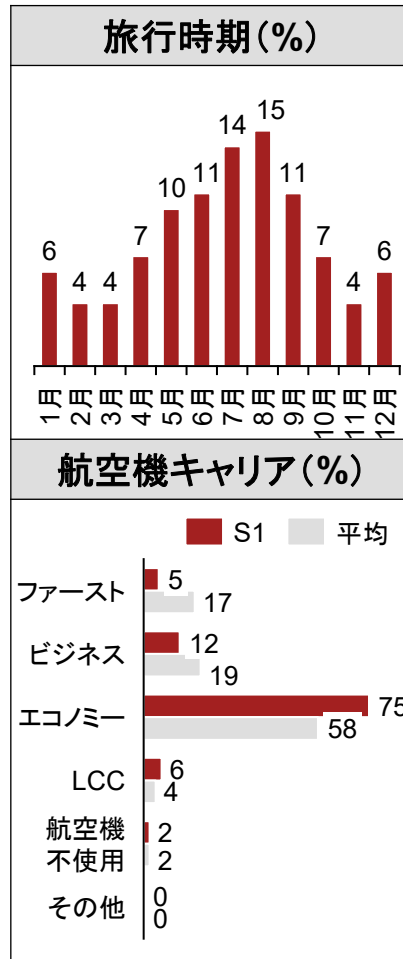
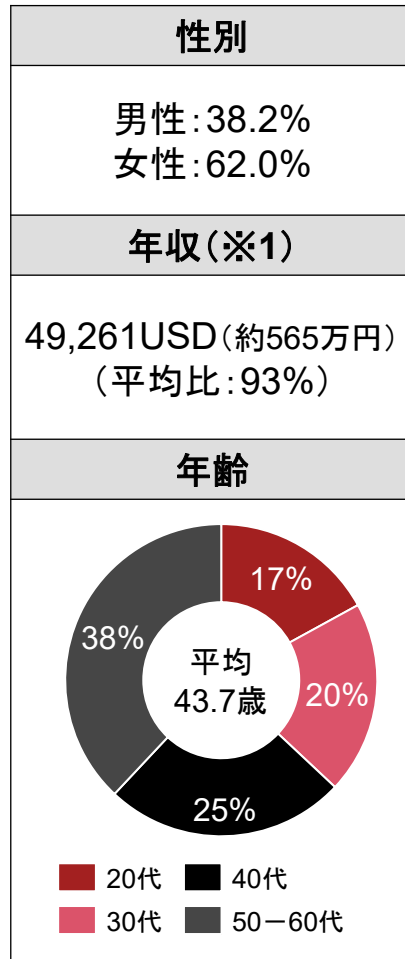
2章 アドベンチャーツーリズム旅行者のセグメント別調査結果

II. スイス編

III. ニュージーランド編

セグメントの属性と特徴： S1「文化的地域探検者」

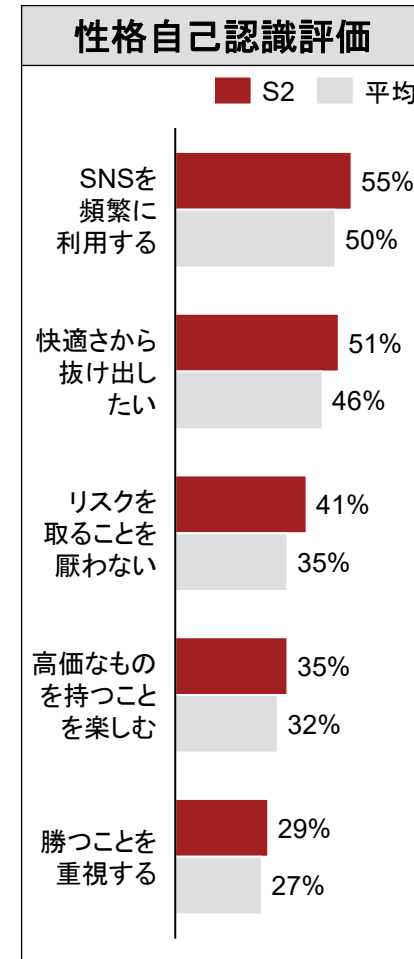
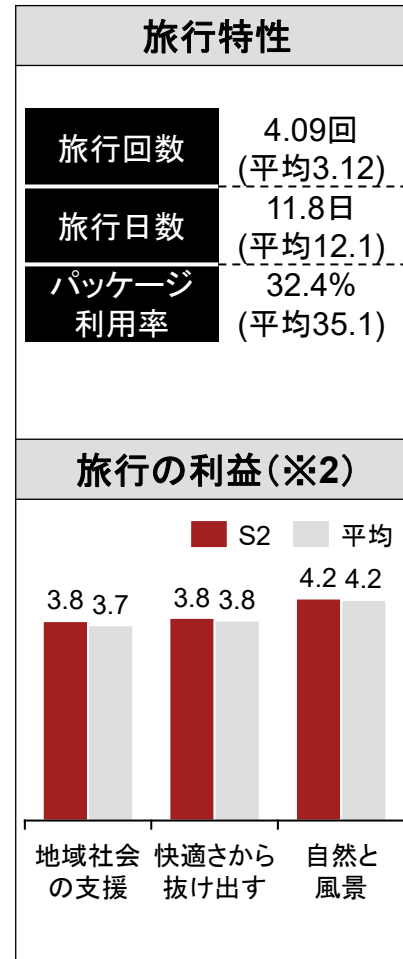
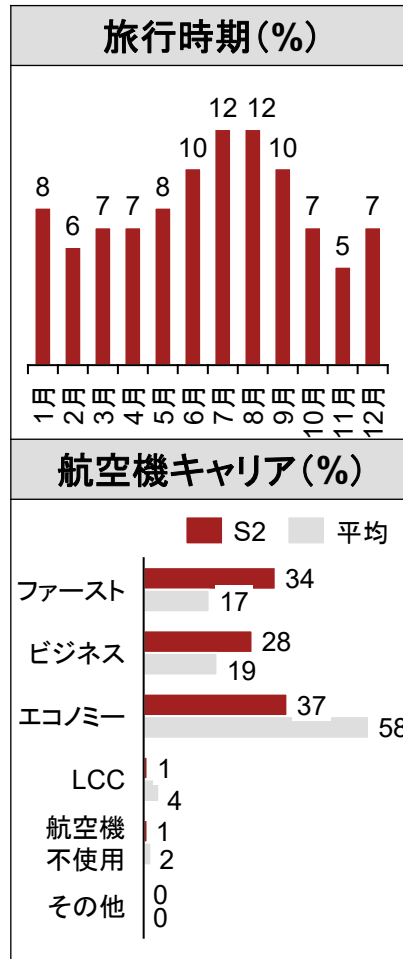
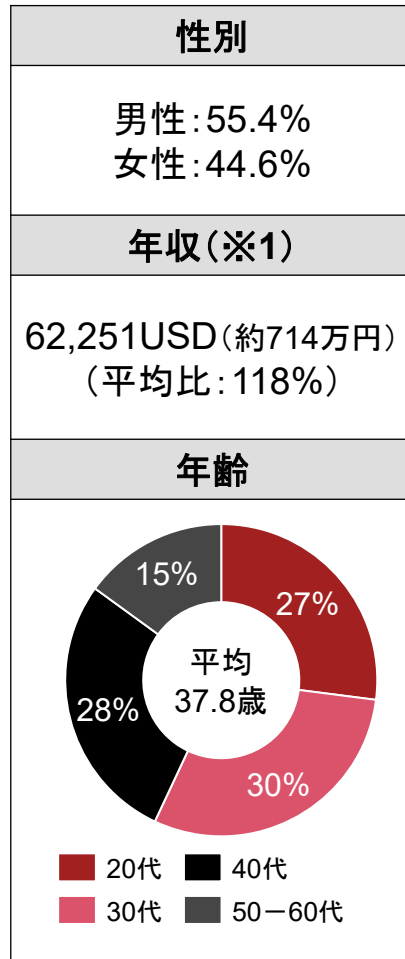
基本属性と特徴



出典: ATTA & IFC「Shaping the Future of Adventure and Cultural Travel」JP.31、北海道運輸局「2019年度アドベンチャーラベルコンテンツ造成事業最終報告書」JP.65
 ※1 2022年2月時点レート(1USD(米ドル)=115円)を使用 ※2 平均から最も乖離していた回答上位3つ

セグメントの属性と特徴： S2「体験詰め合わせ型挑戦者」

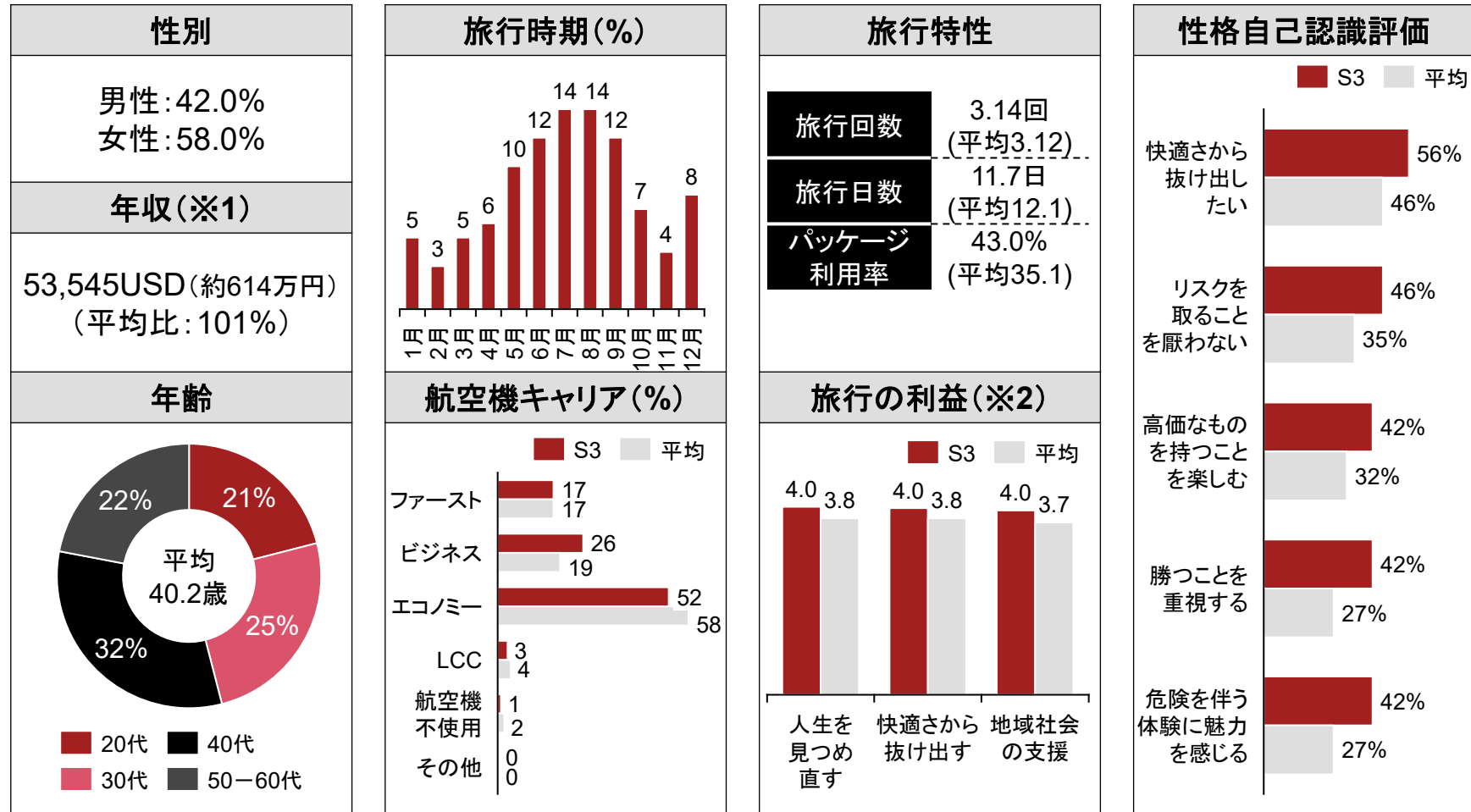
基本属性と特徴



出典: ATTA & IFC「Shaping the Future of Adventure and Cultural Travel」JP.18、北海道運輸局「2019年度アドベンチャーラベルコンテンツ造成事業最終報告書」JP.67
 ※1 2022年2月時点レート(1USD(米ドル)=115円)を使用 ※2 平均から最も乖離していた回答上位3つ

セグメントの属性と特徴： S3「アドベンチャー集中型自然・文化探検者」

基本属性と特徴

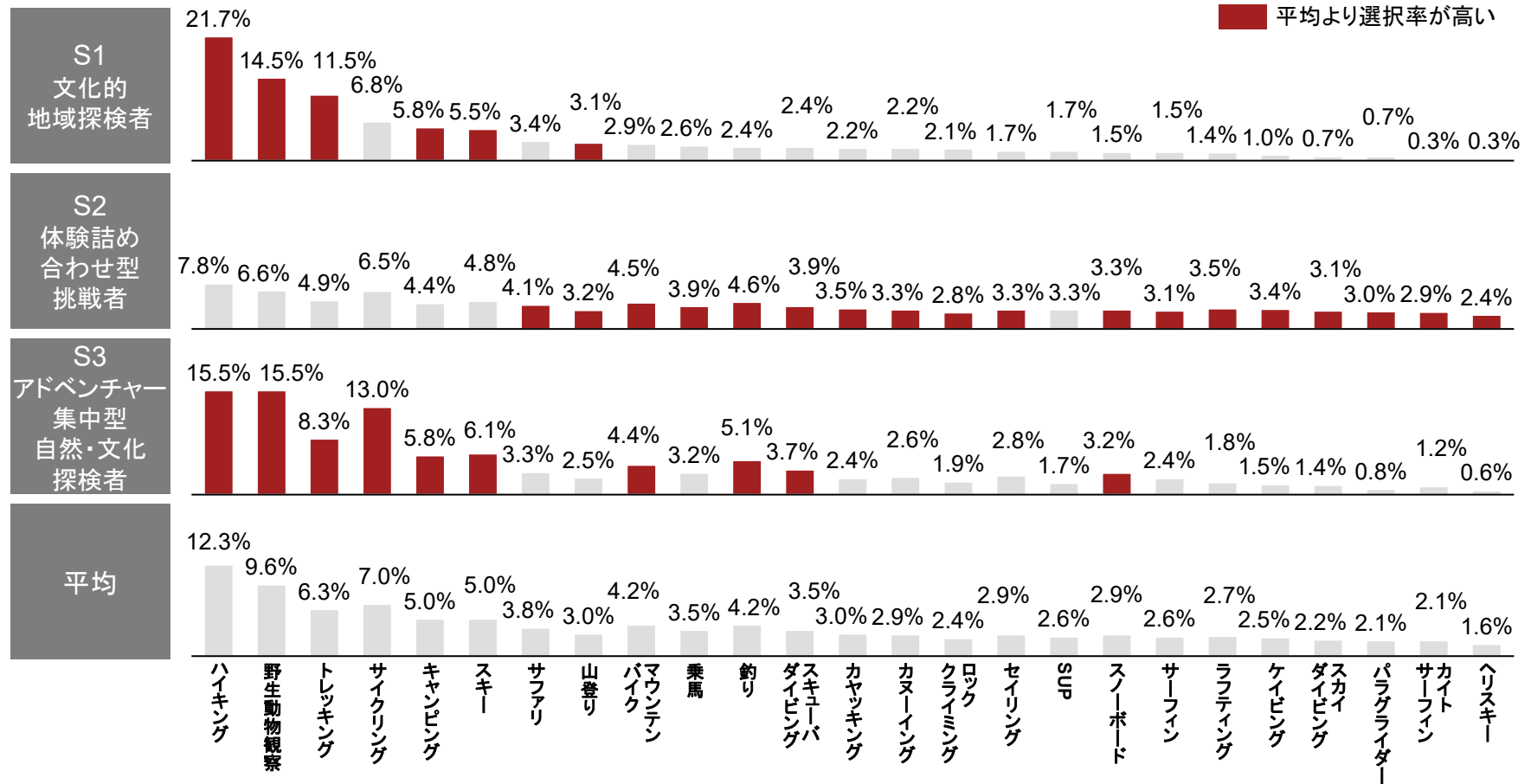


出典: ATTA & IFC「Shaping the Future of Adventure and Cultural Travel」JP.5
 ※1 2022年2月時点レート(1USD(米ドル)=115円)を使用 ※2 平均から最も乖離していた回答上位3つ

アクティビティの傾向：人気のアクティビティの種類

アクティビティ参加傾向と好むアクティビティ

S1・S3は、ハイキングといった定番のソフトのアクティビティを好む一方で、S2はハード系も含め幅広くアクティビティに挑戦する傾向にあります。



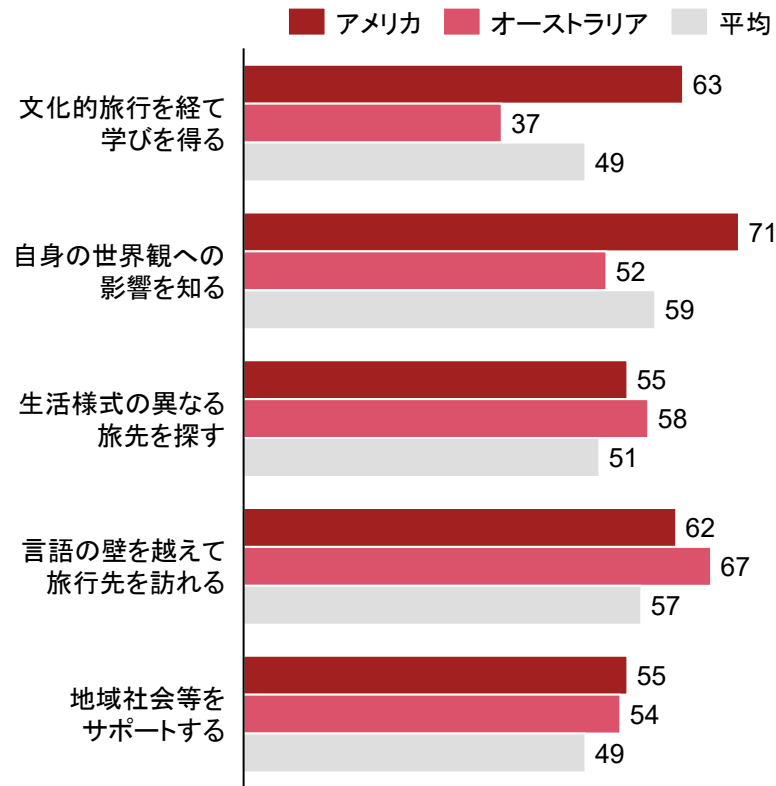
出典：北海道運輸局「2019年度アドベンチャートラベルコンテンツ造成事業最終報告書」P.72

アクティビティの傾向：文化的アクティビティのニーズ S1「文化的地域探検者」

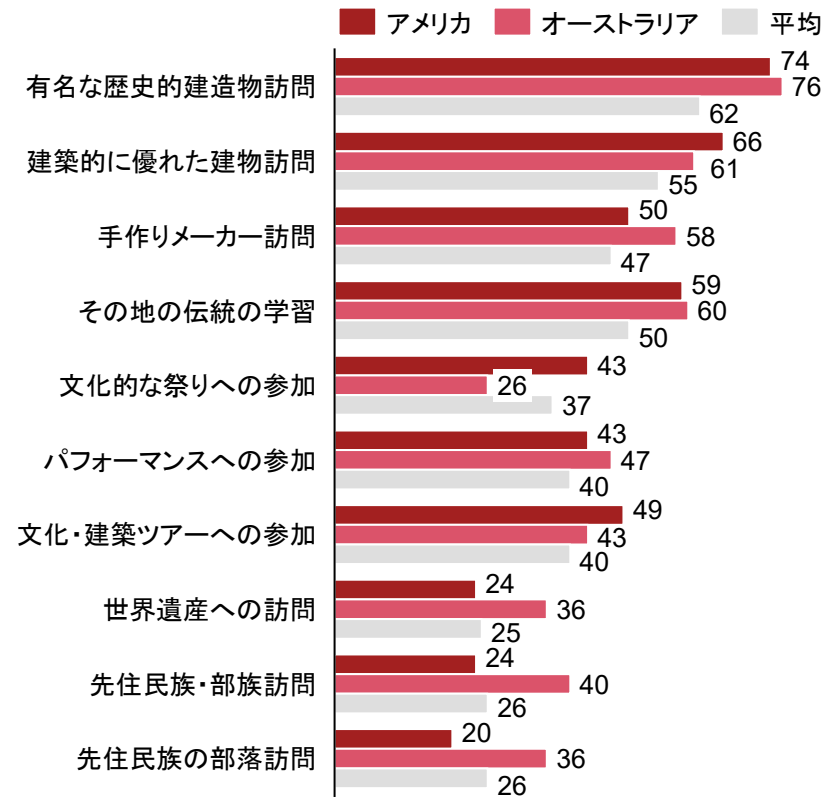
文化的アクティビティへの期待と参加傾向

S1は言語の壁を越えて旅行先を訪れることや異なる生活様式を期待し、全てのアクティビティで参加傾向が高くなっています。

文化的アクティビティに期待すること(%)



文化的アクティビティ参加傾向(%)

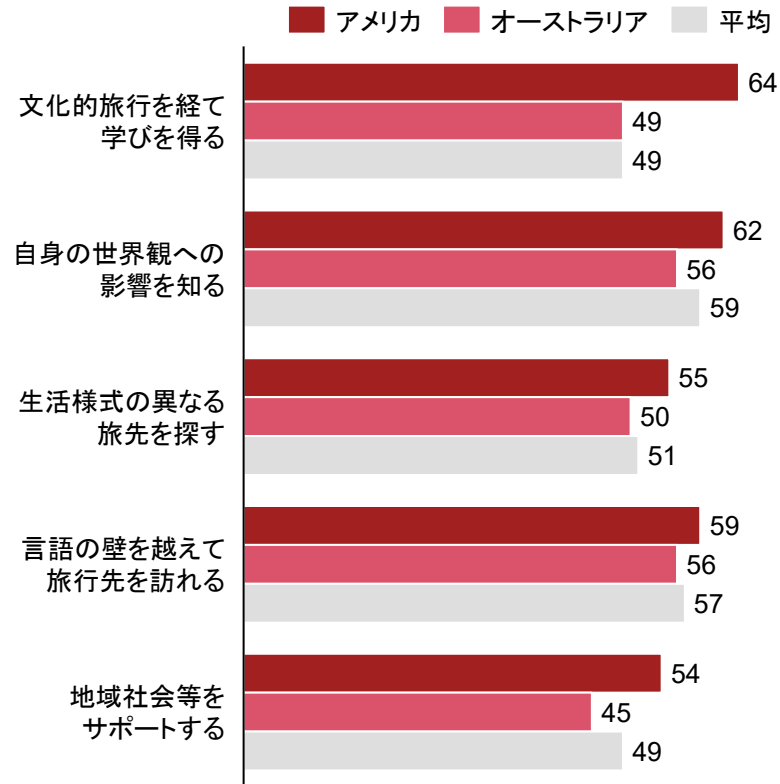


アクティビティの傾向：文化的アクティビティのニーズ S2「体験詰め合わせ型挑戦者」

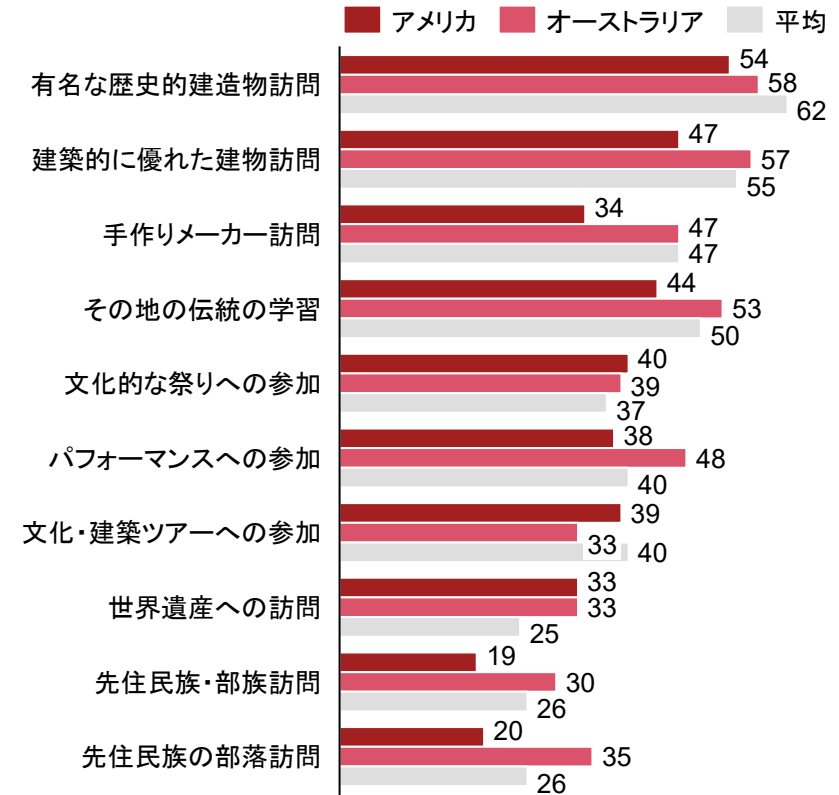
文化的アクティビティへの期待と参加傾向

S2は異文化からの学びや影響を期待する傾向にあります。文化的アクティビティへの参加傾向は国によりばらつきがあります。

文化的アクティビティに期待すること(%)



文化的アクティビティ参加傾向(%)

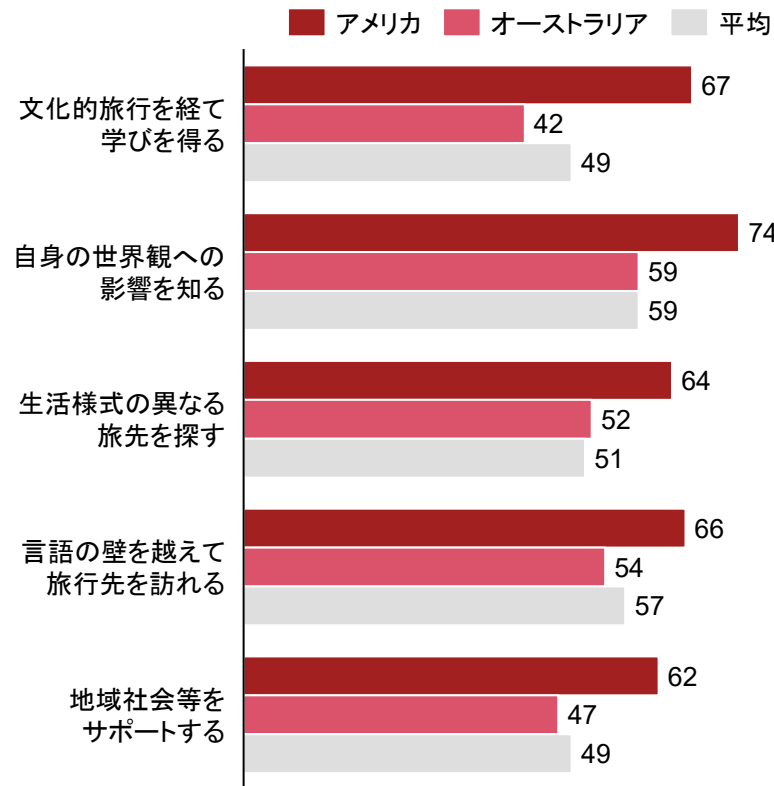


アクティビティの傾向：文化的アクティビティのニーズ S3「アドベンチャー集中型自然・文化探検者」

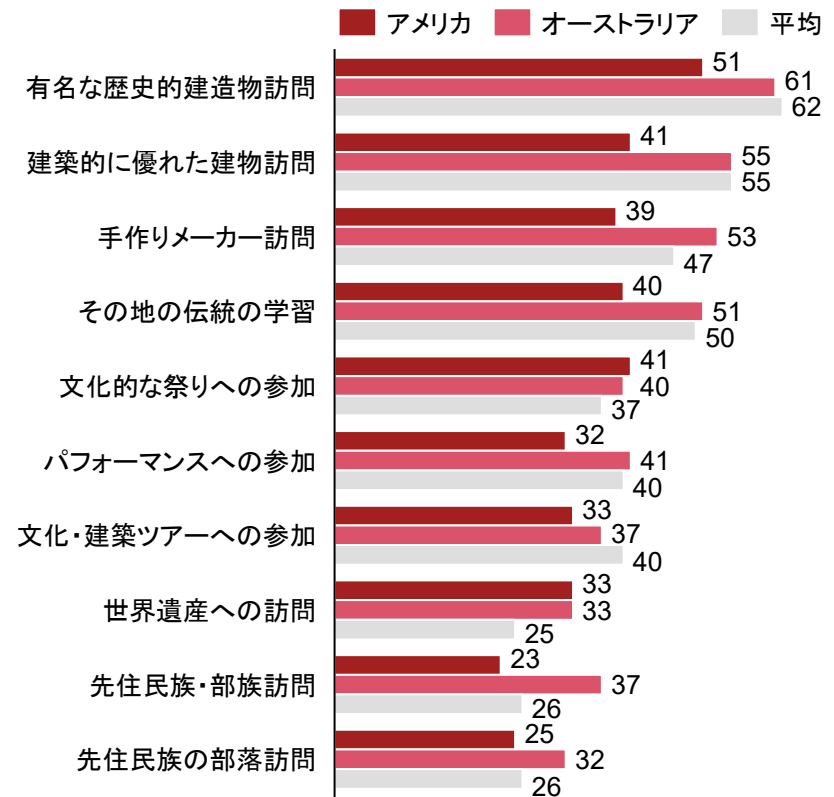
文化的アクティビティへの期待と参加傾向

S3は、異なる生活様式に触れることや、その文化的アクティビティを通して自身への影響を期待しますが、単に建造物等を訪問するツアーへの参加率は低い傾向です。

文化的アクティビティに期待すること(%)



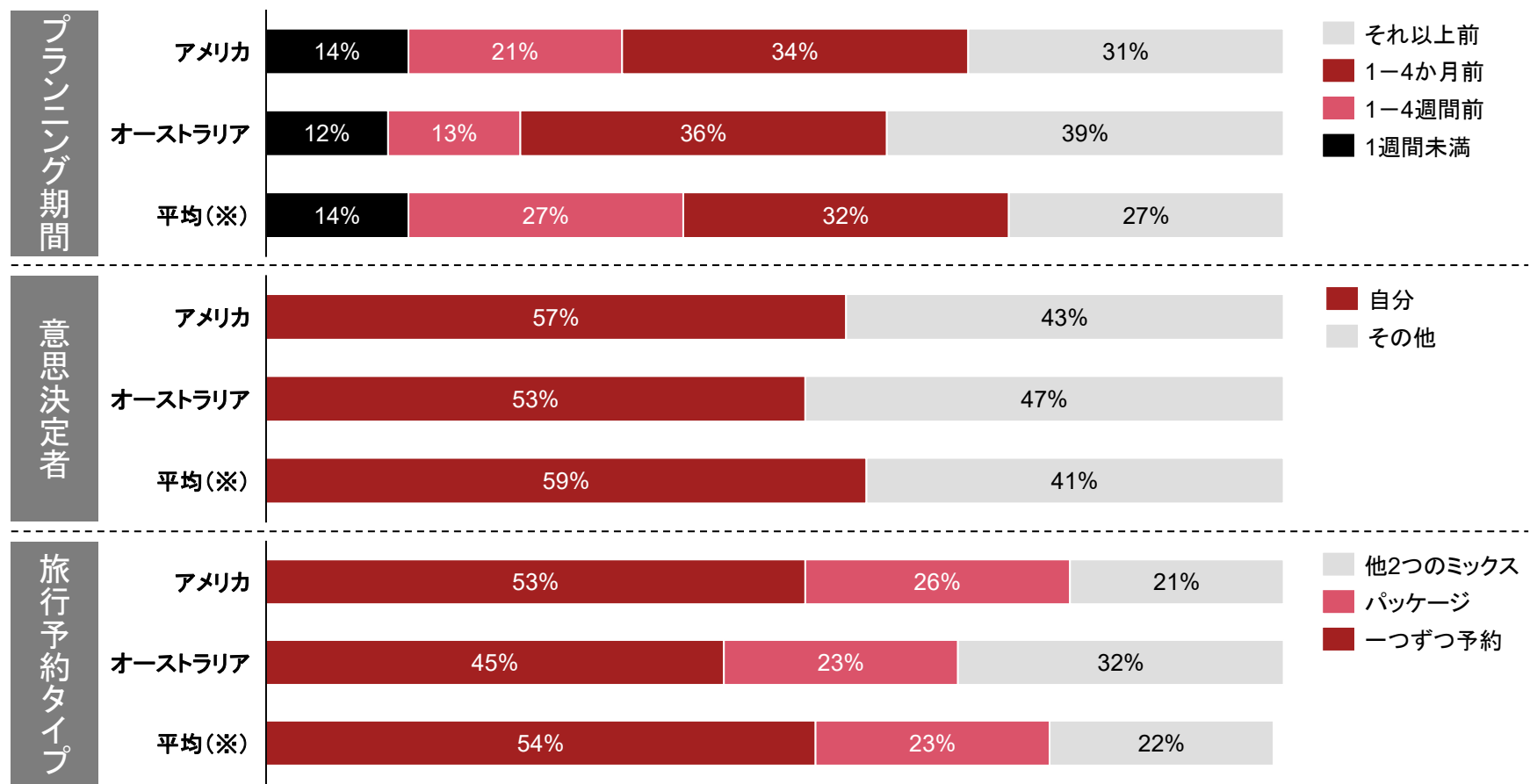
文化的アクティビティ参加傾向(%)



旅行購入関連の傾向： S1「文化的地域探検者」

アドベンチャーツーリズム旅行購入時の習性と割合

S1は1か月以上前から旅行の予定を立てる割合が最も多くなっています。

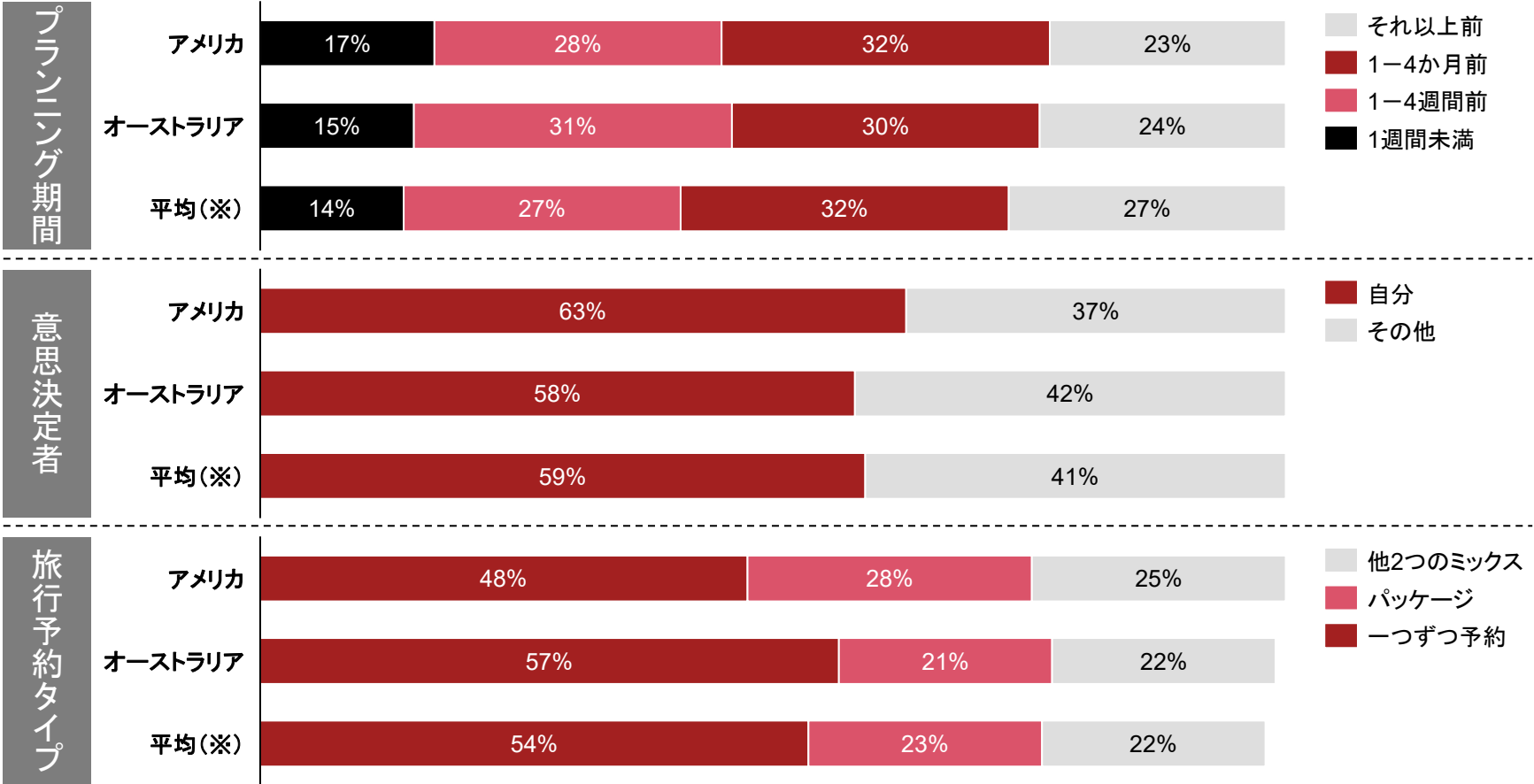


出典: ATTA & IFC「Shaping the Future of Adventure and Cultural Travel」JP.36
 ※ S1~S3に該当する全ての調査対象者の平均

旅行購入関連の傾向： S2「体験詰め合わせ型挑戦者」

アドベンチャーツーリズム旅行購入時の習性と割合

S2は比較的短い期間で旅行の予定を立てる傾向にあります。

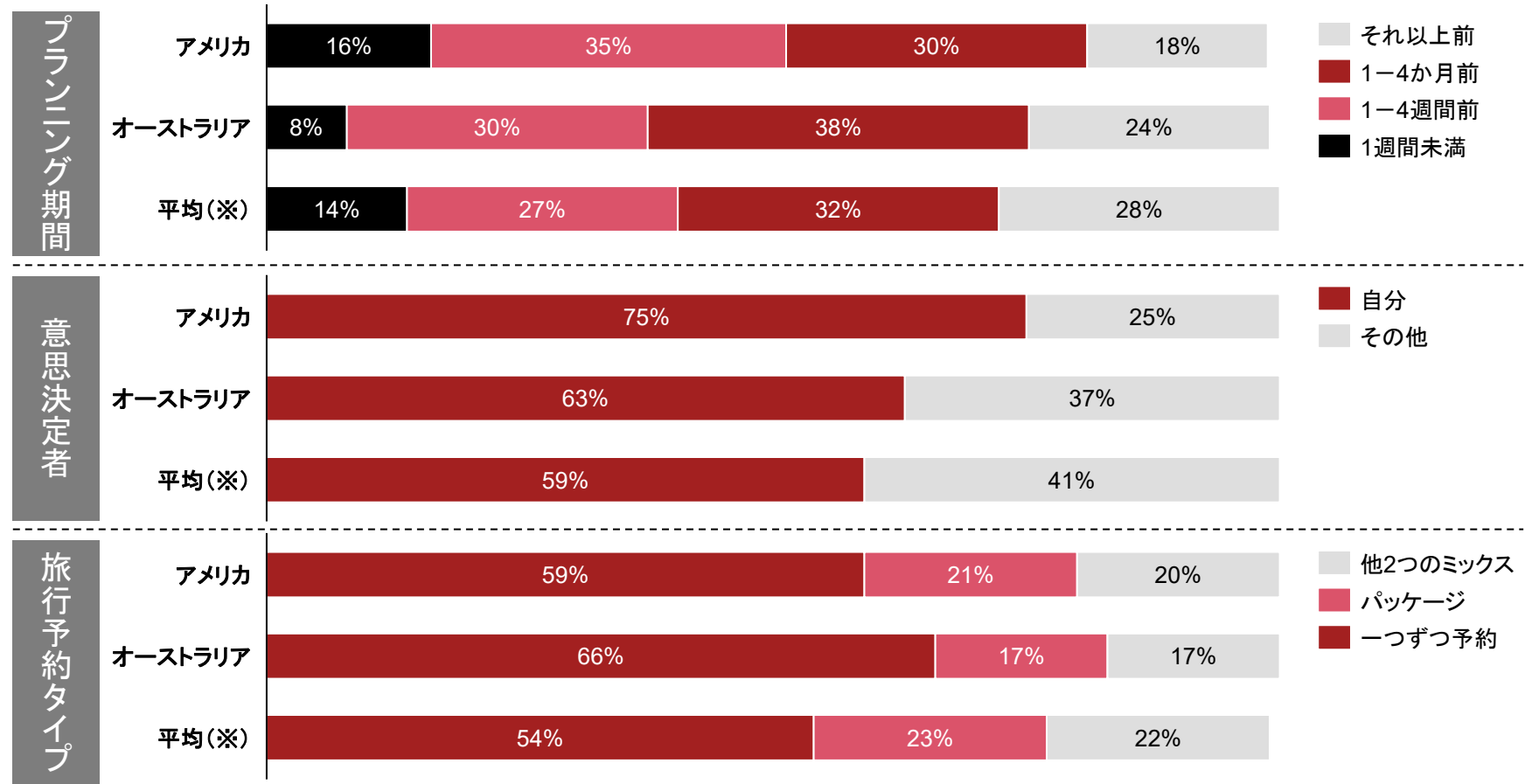


出典: ATTA & IFC「Shaping the Future of Adventure and Cultural Travel」JP.23
 ※ S1~S3に該当する全ての調査対象者の平均

旅行購入関連の傾向： S3「アドベンチャー集中型自然・文化探検者」

アドベンチャーツーリズム旅行購入時の習性と割合

S3はパッケージを利用せず、自身でアクティビティ等を手配する傾向が最も高くなっています。

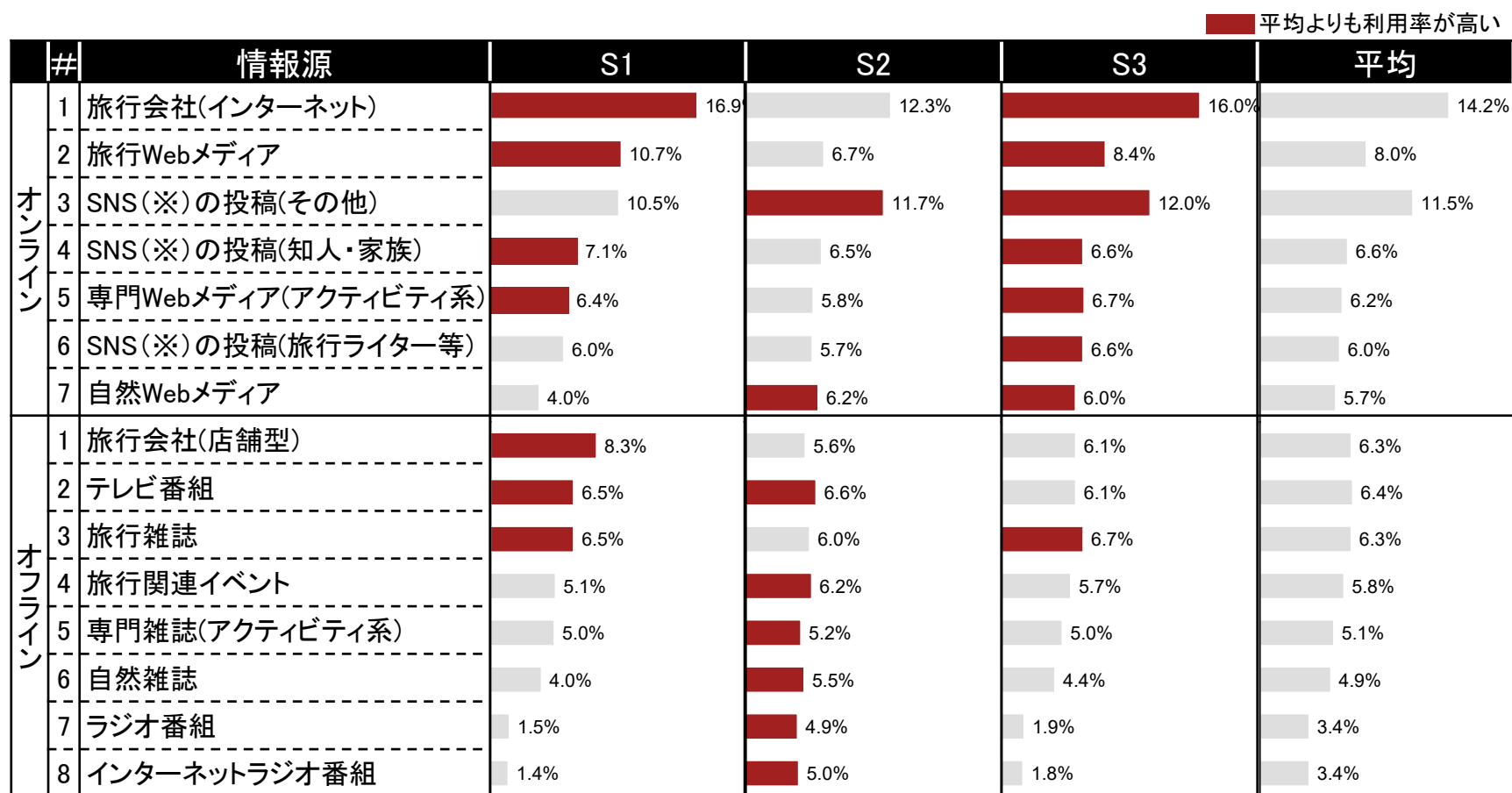


出典: ATTA & IFC「Shaping the Future of Adventure and Cultural Travel」JP.10
 ※ S1~S3に該当する全ての調査対象者の平均

情報収集の傾向：活用される情報媒体の種類

利用する情報源とその割合

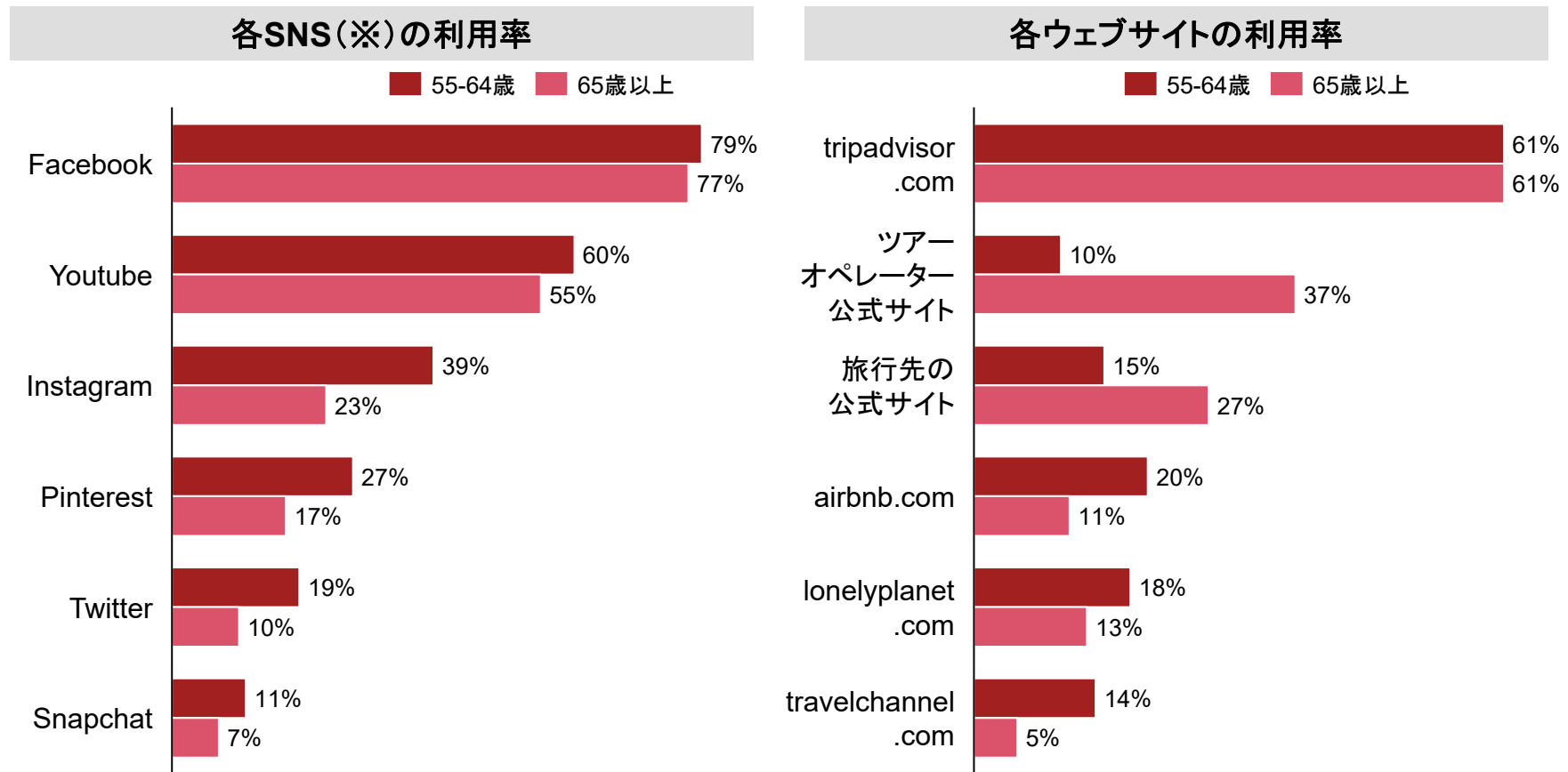
S1はオン/オフライン共に旅行会社の情報を活用しています。S2はS1・S3よりもオフラインの幅広いメディアから情報を収集する一方で、S3は基本的にオンラインでの情報を参考にします。



情報収集の傾向：活用される具体的なSNS・ウェブサイト S1「文化的地域探検者」

S1の代表的な属性(55～64歳、65歳以上)が利用するSNS(※)およびウェブサイト

S1の高年齢層(65歳以上)は約8割が「Facebook」を利用しています。ツアーオペレーターや旅行先の公式サイト利用率は65歳以上の利用率が高くなっています。



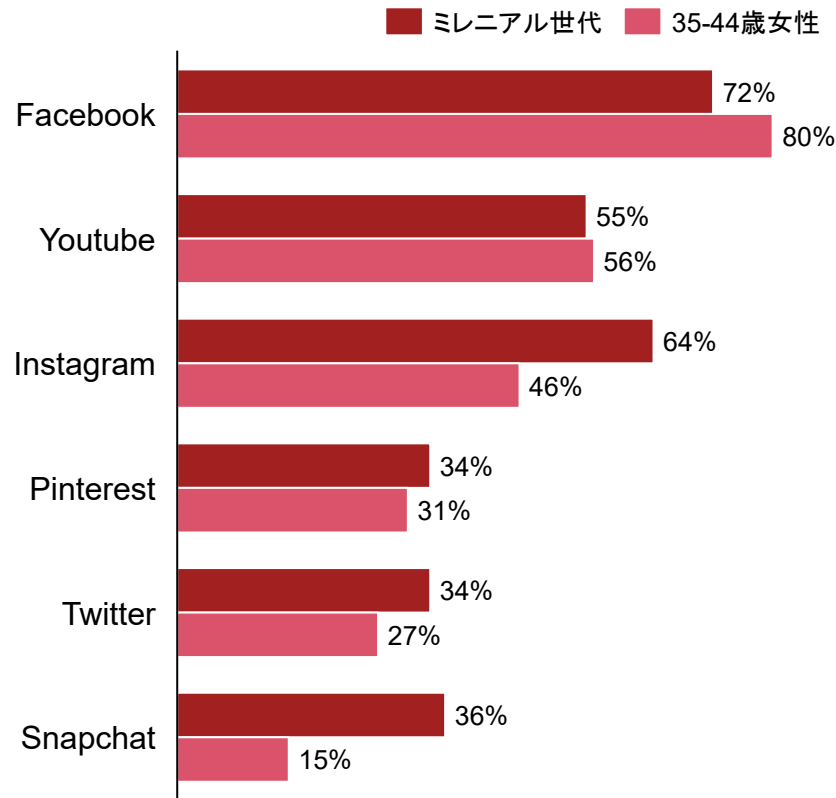
出典: ATTA & IFC「Shaping the Future of Adventure and Cultural Travel」P.40
※ ソーシャル・ネットワーキング・サービス

情報収集の傾向：活用される具体的なSNS・ウェブサイト S2「体験詰め合わせ型挑戦者」

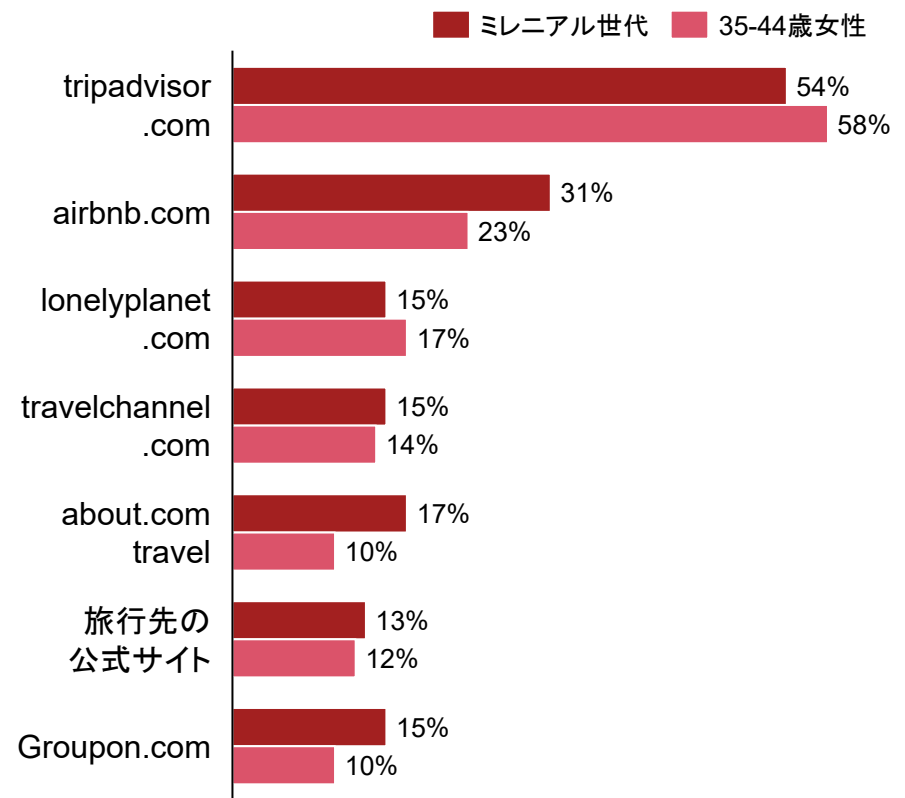
S2の代表的な属性(ミレニアル世代(※1)と35～44歳女性)が利用するSNSおよびウェブサイト

S2においては「Instagram」や「TripAdvisor」等、ミレニアル世代と35歳～44歳の女性で利用するSNS(※2)やウェブサイトが多数存在しています。

各SNS(※)の利用率



各ウェブサイトの利用率



出典: ATTA & IFC「Shaping the Future of Adventure and Cultural Travel」P.27
※1 1980年代前半から1990年代中盤に生まれた世代
※2 ソーシャル・ネットワーキング・サービス

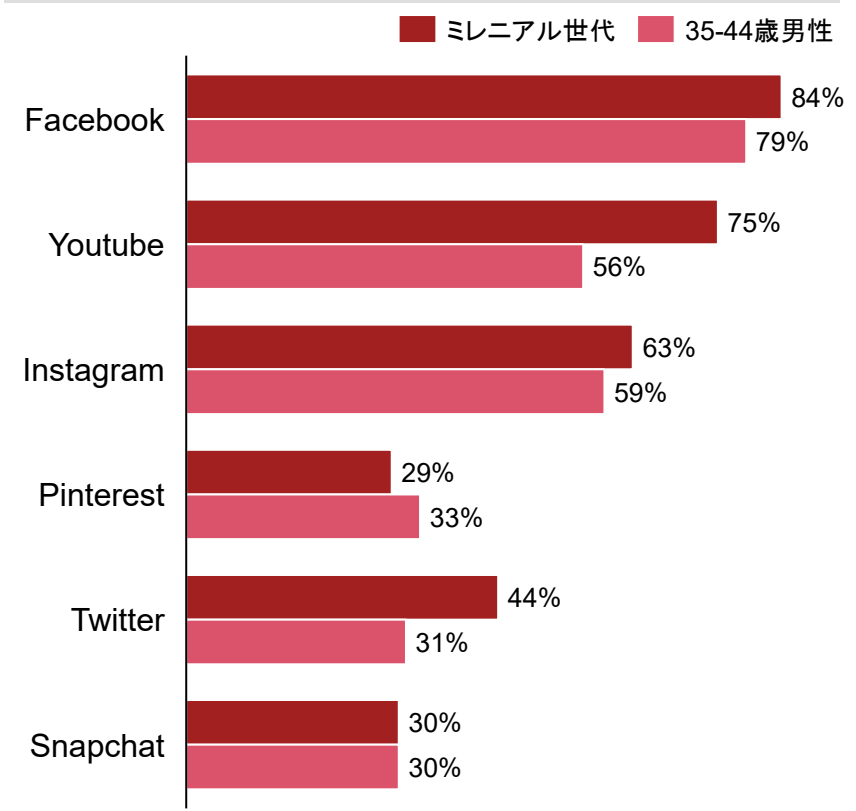
情報収集の傾向：活用される具体的なSNS・ウェブサイト

S3「アドベンチャー集中型自然・文化探検者」

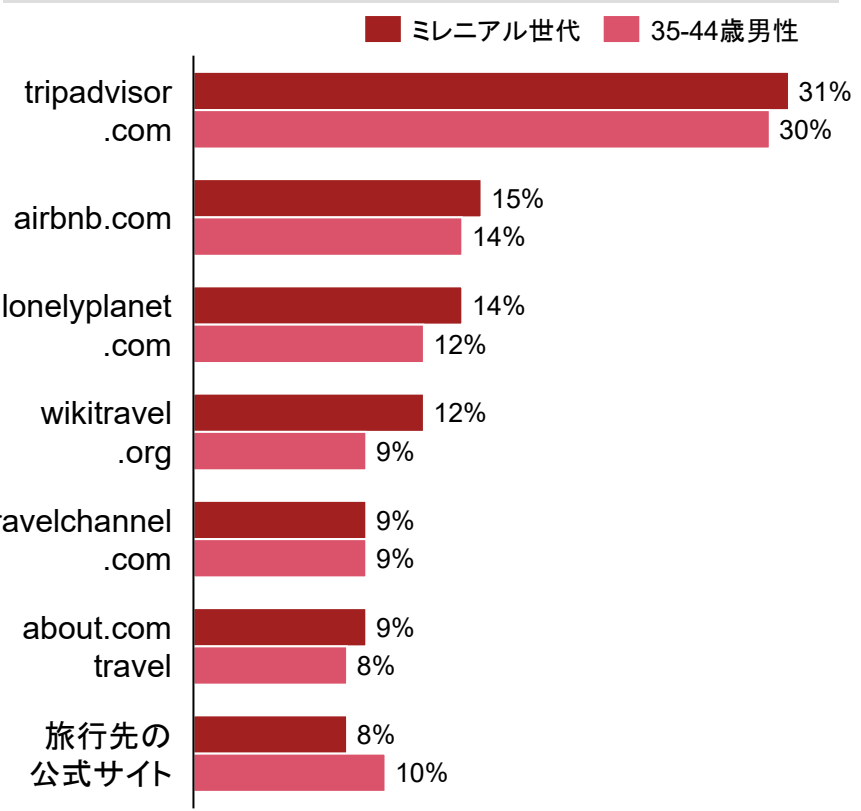
S3の代表的な属性(ミレニアル世代(※1)と35~44歳男性)の利用するSNSおよびウェブサイト

S3は世代に関係なく、「Facebook」、「Instagram」および「TripAdvisor」といった情報サイトを
 活用する傾向にあります。

各SNS(※2)の利用率



各ウェブサイトの利用率



出典: ATTA & IFC「Shaping the Future of Adventure and Cultural Travel」P.14
 ※1 1980年代前半から1990年代中盤に生まれた世代
 ※2 ソーシャル・ネットワーキング・サービス

目次

I. 顧客像調査編

II. スイス編

1章 アドベンチャーツーリズムの特徴

2章 アドベンチャーツーリズムに対する取組内容

III. ニュージーランド編

スイス全体のAT像

アドベンチャーツーリズムが提供されている代表的な州

(★) 後続ページに地域紹介あり



出典: スイス政府観光局ウェブサイト、各種文献調査
※画像はPixabayから取得

スイスの主な調査結果サマリー

(詳細及び出典は後続ページに記載)

【旅行者の属性】

- アルプス山脈等豊富な自然資源に恵まれ、主に**ハイキングやスキー**、その他にもパラグライダーやロッククライミングなど、**様々なアドベンチャーアクティビティが盛んな国**です。
- **新型コロナウイルス感染症の拡大前は、一部エリアでは、アジア・北米・中東からの旅行者が多く、スイス国内や近隣諸国からの旅行者の多くはハイキングやスキーを目的に訪れていました。**

【推進体制】

- **スイス政府観光局を頂点に、各地域のDMO(※)と事業者が役割分担・連携を通じたピラミッド型の体制で一丸となって、情報収集、発信及び販売活動等を行うことで、アドベンチャーツーリズムの効率的な推進を図っています。**
- 広域DMOはターゲット市場への訪問など、**物理的な接点の構築を通じた地域のプレゼンス向上に取り組んでいます。**
- 広域DMOよりも狭い地域を取りまとめているDMOや事業者は、**スイス政府観光局や広域DMOのリソースを活用しながら、各地域や個別商品に関するオンラインでの情報発信等に取り組んでいます。**

【リスク管理】

- 過去の事故をきっかけに、**国・事業者がアドベンチャーツーリズムの安全性に関する取組を徹底しています。**
- **国はアドベンチャーツーリズム事業者及びガイドに対して安全に対する厳格な規定の順守や証明書の取得を義務付けているほか、事業者側においても事故発生時の対応を行うことが多いガイドに対して安全に関する訓練を実施しています。**

【アドベンチャーツーリズムに関わるガイドの確保・育成】

- スイスのアドベンチャーツーリズムでは、大きく、**スルーガイドとアクティビティガイド**が旅行者を案内します。スルーガイドは一般的に一部の富裕層に利用が限定されています。一方、ほぼ全ての旅行者の体験価値や安全性を担保する上で重要な役割を担う**アクティビティガイドは、大部分が外国籍であり、雇用形態や給与形態、働き方は様々**です。
- **多くはオールシーズンのフルタイム雇用者か期間雇用者で、一部、フリーランスのガイドが存在しています。多くのガイドは、夏と冬の繁忙期に集中して働き、閑散期には、フルタイム雇用者は社内の事務作業等の別業務、期間雇用者は旅行や他職業に従事しています。**
- 一部のガイド職を除き、**アクティビティガイドの給与水準は他の職業と比較すると高くなく、長期間にわたり継続するガイドは多くありません。一方、外国籍のガイドからの雇用応募が多いため、業界全体としてガイド人員に不足はありません。**

出典：アドベンチャーツーリズムを扱うスイスの事業者・DMO・ガイドへのヒアリング
※ DMOとは、Destination Management/Marketing Organizationの略称。日本では、「観光地域づくり法人」と呼ばれ、観光地域づくりの舵取り役を担う法人と位置付けられている。

目次

I. 顧客像調査編

II. スイス編


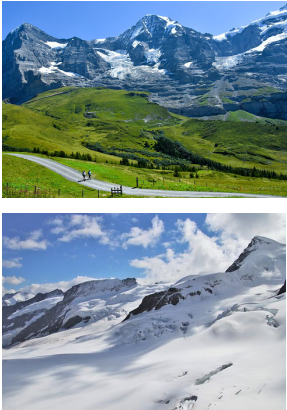
1章 アドベンチャーツーリズムの特徴

2章 アドベンチャーツーリズムに対する取組内容

III. ニュージーランド編

スイスにおける主力地域の特徴： ベルン州の紹介(1/3)

地域の概要

<p>主な アドベンチャー ツーリズム資源</p>	<ul style="list-style-type: none"> 世界遺産の「ユングフラウ三山」を中心としたアルプス山脈 湖 氷河 	<p>所在地</p>	
<p>主要エリア</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「ユングフラウ」、「インターラーケン」、「グリンデルワルト」、「ブリエンツ」、「エメンタール」、等 		
<p>地域の概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> アドベンチャーツーリズムを提供する代表的な州であり、特に「ユングフラウ三山」の玄関口の街、「インターラーケン」は、ソフトアクティビティからハードアクティビティまで、幅広い体験を提供しています。 「ユングフラウ三山」等のアルプス山脈、湖、氷河の自然・景観及び旧市街・村が人気のコンテンツです。 夏季にはハイキングやトレッキングに加え、サイクリングなど様々なアクティビティが人気であり、冬季にはスキーやウインターハイキングを楽しむ旅行客が訪れます。 		
<p>地域の魅力</p>	<ul style="list-style-type: none"> 山をはじめとした自然が豊富なエリアですが、それ以外にも、スイスでは珍しく遅くまで店が営業している、様々な国のレストランが揃っているなど、旅行者が楽しめる環境が整っています。 		
<p>代表的な アクティビティ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ハイキング/トレッキング <ul style="list-style-type: none"> 「ユングフラウ三山」に加え、「アイガー北壁」や「グリンデルワルトの村」といった雄大な景色を楽しめるハイキングが人気 初心者も挑戦できる2.5～5kmほどのコースも存在し、コースに点在する標識で所要時間・行先の確認が可能 サイクリング <ul style="list-style-type: none"> 雄大な景色及び「ベルン旧市街」といった街を観光するサイクリングが人気 ウインタースポーツ <ul style="list-style-type: none"> 約200kmに及ぶスキーコースなど、スイス屈指のスキーリゾート地が存在し、スキーやスノーボードが盛ん クロスカントリースキーやウインターハイキングのトレイルも整備されている その他 <ul style="list-style-type: none"> パラグライディング、カヌーイング、スカイダイビング等も盛ん 	<p>エリアのイメージ(※)</p> 	

出典：アドベンチャーツーリズムを扱うスイスの事業者・DMO・ガイドへのヒアリング、スイス観光局ウェブサイト
※画像はPixabayから取得

スイスにおける主力地域の特徴： ベルン州の紹介(2/3)

アドベンチャーツーリズムの特徴に関する現地関係者ヒアリング結果(「インターラーケン」の例) (1/2)

顧客属性

<新型コロナウイルス感染症の拡大前>

- 毎年約10万人のアドベンチャーツーリズム旅行者が「インターラーケン」を訪れていました。
- 約45%の旅行者は韓国、中国、インド等のアジア人旅行者で、特に韓国からの旅行者が一番多く訪れていました。「インターラーケン」を訪れる韓国人の中でも、特に若い旅行者がアドベンチャーツーリズムを好んで体験していました。
- 米国やGCC諸国(※1)も主要な顧客市場でした。
- アクティビティごとに顧客の国籍に傾向があり、様々なアクティビティポートフォリオを持っています。このような形態は、特定の市場からの顧客の増減に影響されすぎることなく、リスク分散ができるため、「インターラーケン」のアドベンチャーツーリズムの強みとなっています。
- 顧客ポートフォリオの例
 - 登山:60%はスイス国内の旅行者であり、残りの40%のほとんども中央ヨーロッパからの旅行者が占めています。また、日本人旅行者の中で最も人気のアクティビティとなっています。
 - スキー:登山同様、60%はスイス人旅行者であり、残りのほとんども中央ヨーロッパからの旅行者が占めています。
 - ラフティング(※2):イギリス人旅行者に好まれています。
 - パラグライダー:韓国人旅行者に好まれています。
 - その他の危険を伴うアクティビティ:国外の旅行者が80%を占め、20%はスイス人旅行者です。また、ヨーロッパ人旅行者はアジア人旅行者よりも危険を伴うアクティビティを好む傾向にあります。

<新型コロナウイルス感染症の拡大後>

- 顧客の半数以上はスイス人旅行者、それ以外も近隣諸国からの旅行者がほとんどを占めています。

出典:アドベンチャーツーリズムを扱うスイスの事業者・DMO・ガイドへのヒアリング
※1 中東・ベルシア湾岸地域における湾岸協力理事会の加盟国6か国(UAE、サウジアラビア、オマーン、バーレーン、カタール、クウェート) ※2ラフトを使用し、川下りをおこなうレジャーアクティビティ

スイスにおける主力地域の特徴： ベルン州の紹介(3/3)


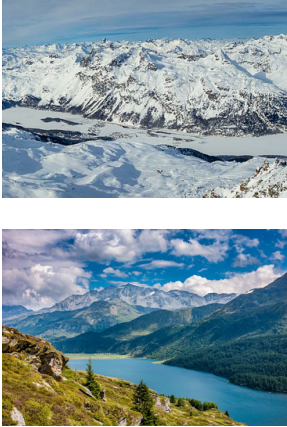
アドベンチャーツーリズムの特徴に関する現地関係者ヒアリング結果(「インターラーケン」の例) (2/2)

<p>滞在日数</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国外からの旅行者は大概、スイス以外の国での滞在も合わせて1週間ほどの旅行計画を立てるため、「インターラーケン」での滞在平均は1.7日と短くなっています。 ・ 一方で、アドベンチャーアクティビティを主目的に「インターラーケン」を訪れる旅行者の滞在期間は約2～3日で、同地域内の観光名所である「ユングフラウ」を主目的に「インターラーケン」を訪れる旅行者よりも長く滞在する傾向にあります。
<p>宿泊施設の傾向</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 山系のアクティビティである登山やスキーを体験する旅行者はホテルよりもより自然に近い形で宿泊体験ができる宿泊施設等にて滞在する傾向にあります。
<p>中心的な価格帯(※)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 旅行者1人1日あたりの支出額の傾向は、出身国・地域の傾向により異なります。 <p>＜平均的な支出額の例＞</p> <ul style="list-style-type: none"> - 欧州 <ul style="list-style-type: none"> ・ オランダ: 130 CHF (約16,000円) ・ スイス: 140 CHF (約17,000円) - アジア <ul style="list-style-type: none"> ・ 韓国: 210 CHF (約26,000円) ・ インド: 310 CHF (約39,000円) ・ マレーシア: 320 CHF (約40,000円) ・ シンガポール: 330 CHF (約41,000円) - 中東 <ul style="list-style-type: none"> ・ アラブ首長国連邦: 420 CHF (約52,000円)

出典: アドベンチャーツーリズムを扱うスイスの事業者・DMO・ガイドへのヒアリング
 ※ 2022年2月時点レート(1CHF(スイスフラン)=125円)を使用

スイスにおける主力地域の特徴： グラウビュンデン州の紹介



地域の概要

<p>主な アドベンチャー ツーリズム資源</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ アルプス山脈 ・ 谷 ・ 湖 ・ 国立公園 	<p>所在地</p>	
<p>主要エリア</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「アローザ」、「ダヴォス」、「オーバーエンガディン」、「サンモリッツ」、「ポントレジーナ」、「ウンターエンガディン」、等 		
<p>地域の概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 937の名峰と150の谷、615の湖という大自然に加えて、多彩な歴史や文化を誇るスイス最大の州であり、スイスの国民的な物語「ハイジ」や「ウルスリの鈴」の舞台となっています。 ・ 「ダヴォス」や冬季オリンピックが過去に2回開催された「サンモリッツ」など、スイス屈指の山岳リゾートを持ち、夏季はハイキング、冬季はウィンタースポーツが盛んな地域です。 		
<p>地域の魅力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 世界遺産の路線を持つパノラマ観光列車も通っており、絶景が魅力です。 		
<p>代表的な アクティビティ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ハイキング/トレッキング <ul style="list-style-type: none"> - 約80kmに及ぶハイキングコースがスイス唯一の国立公園内に整備され、手つかずの自然を歩くハイキングが人気 - 高山植物が咲く初夏やカラマツが紅葉する秋など季節毎に異なる体験ができることも魅力の一つ ・ サイクリング/マウンテンバイク <ul style="list-style-type: none"> - ハイキング同様、コースが整備されているのに加え、公共交通機関も発達しており地域間を移動しやすいことも魅力 ・ ウィンタースポーツ <ul style="list-style-type: none"> - 「ラークス」や「サンモリッツ」といった世界有数のスキーリゾート地を保有し、富裕層も含む多くの旅行客が訪れる - 数百kmにわたるコースが整備され、高い標高でのウィンタースポーツが盛ん 	<p>エリアのイメージ(※)</p> 	

出典：アドベンチャーツーリズムを扱うスイスの事業者・DMO・ガイドへのヒアリング、スイス観光局ウェブサイト
 ※ 画像はPixabayから取得

スイスにおける主力地域の特徴： ヴァレー州の紹介(1/2)

地域の概要

<p>主な アドベンチャー ツーリズム資源</p>	<ul style="list-style-type: none"> • アルプス山脈 • 谷 • 氷河、等 	<p>所在地</p>	
<p>主要エリア</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 「ツェルマツト」、「シオン」、「アレッチ地方」、「ポルト・デュ・ソレイユ地方」、等 		
<p>地域の概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> • ヴァレー州は、小さい村が多数存在する山岳地帯であり、ハイキングやスキーが主なアクティビティ • 最近ではマウンテンバイクやトレイルのコース強化にも注力している 		
<p>地域の魅力</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 各地域は小さく、静かで落ち着いたスイスらしい雰囲気の魅力の地域 • また、気候が良く天候に左右されにくいのもヴァレー州のアドベンチャーツーリズムの魅力 		
<p>代表的な アクティビティ</p>	<ul style="list-style-type: none"> • ハイキング/トレッキング <ul style="list-style-type: none"> - アルプス山脈が続く、山岳地帯であり、夏にヴァレー州を訪れる多くの旅行者はハイキング/トレッキングを目当てに訪れる • スキー <ul style="list-style-type: none"> - 山岳地帯であり、冬には国内や近隣諸国のリピーターがスキーの為に訪れる - また、スキー場のゲレンデ外を半日から1日かけて滑るスキーツーリングも人気のアクティビティとなっている • その他のアドベンチャーアクティビティ <ul style="list-style-type: none"> - 地元ケーブルカー会社が運営するジップライン(※1)や、ロッククライミングの一種であるヴィア・フェラータ(※2)、パラグライダーも提供されている - また、最近ではトレイルやマウンテンバイクのコースを強化するなど、旅行者が楽しめるコンテンツを充実させる取組が進んでいる 	<p>エリアのイメージ (※3)</p> 	

出典：アドベンチャーツーリズムを扱うスイスの事業者・DMO・ガイドへのヒアリング、スイス観光局ウェブサイト
 ※1 森の中等に架けられたワイヤーロープを滑車で滑り降りるアクティビティ ※2 固定された足場やロープを使用し行うロッククライミング ※3 画像はPixabayから取得

スイスにおける主力地域の特徴： ヴァレー州の紹介(2/2)

ヴァレー州の特徴に関する現地関係者ヒアリング結果

顧客属性	<ul style="list-style-type: none">• ヴァレー州でアドベンチャーツーリズムを提供する地域の一つであるナンダ地方では、1年あたり約100万人の旅行者がハイキングやスキーを目的に訪れます。• また、スキーで有名な地域として知られているため、スキー経験者が訪れる傾向にあります。• ヴァレー州の各地域は小規模で、宿泊施設をはじめ、大勢の旅行者を受け入れるキャパシティが整備されていないため、大人数の旅行ではなく、家族や友人等の少人数旅行者をターゲットとしています。• ヴァレー州を訪れる旅行者は、新型コロナウイルス感染症の拡大以前から、スイス国内からの旅行者が半数以上を占めています。<ul style="list-style-type: none">- スイス国内の旅行者は、感染症拡大前は50～70%、感染拡大後は60～90%を占めています。- 国外からの旅行者も、英国やフランス、オランダ等の近隣諸国が多くを占めます。- アジアや北米等、遠方からの旅行者は数%にとどまります。
滞在日数	<ul style="list-style-type: none">• 旅行者タイプや季節にも寄りますが、全体的に、ハイキングを目的に訪れる旅行者よりもスキーに訪れる旅行者の方が長く滞在する傾向にあります。• 遠方から訪れる旅行者は、スイスや欧州の他の地域も巡るため、ヴァレー州には数日間の滞在であることが一般的ですが、クリスマスシーズンには1週間ほど滞在する旅行者も多いです。
宿泊施設の傾向	<ul style="list-style-type: none">• 5つ星ホテルがない地方も存在し、旅行者は4つ星ホテルからロッジ、山小屋など様々な場所に滞在しますが、一番多いのは3つ星ホテルでの滞在となっています。• また、この地方では私有のアpartメントが旅行者に貸し出されているところも存在し、数週間そこで滞在する旅行者も多くなっています。
中心的な価格帯(※)	<ul style="list-style-type: none">• ツアーやアクティビティを予約しない旅行者が多いことから、ツアーやアクティビティではなく、どの宿泊施設を利用するかによって価格帯は左右されます。• ヴァレー州内の「サースタル」では1日あたり約60～620CHF(約7,500～77,000円)が使用されます。

出典：アドベンチャーツーリズムを扱うスイスの事業者・DMO・ガイドへのヒアリング
※ 2022年2月時点レート(1CHF(スイスフラン)=125円)を使用

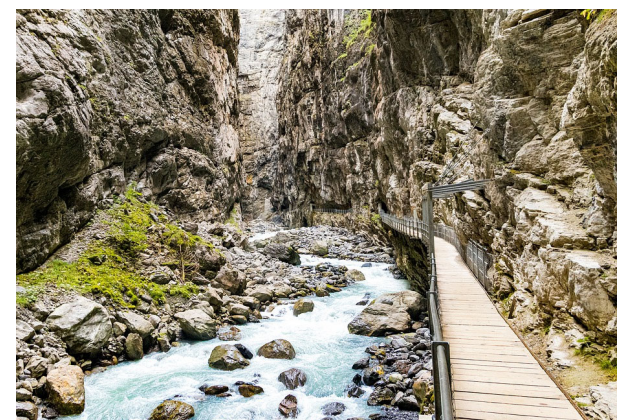
スイスにおける主力地域のツアー例①: Adventure Extravaganza(ベルン州)(1/2)

ツアー例①の概要

ツアー概要

ツアー名		Adventure Extravaganza
ツアー内容	価格(※1)	750USD(約86,000円)
	日数	3泊
	提供時期	10月
	難易度	高
付随特典	保険有無	不明
	食事有無	有(一部ランチ除く)
	宿泊有無	有(ホテル)
ツアーの特徴		<ul style="list-style-type: none"> 「インターラーケン」、「グリンデルワルト」周辺の山脈、渓谷の壮大な自然を活用 スリルがあり、体力が求められるアクティビティを主に提供している 郷土料理の食事体験や鉄道での移動も含まれており、文化的な体験も提供

ツアー内容・エリアのイメージ(※2)



スイスにおける主力地域のツアー例①: Adventure Extravaganza(ベルン州)(2/2)

ツアー例①の行程

日程	時間	所要時間	アクティビティ				主な活用資源	詳細
			ハード	ソフト	その他	主な内容		
1日目	16:00	3H	○	○		ジップライン、ターザンスイング、ウッドブリッジ(※1)等	森林	<ul style="list-style-type: none"> 森を活用する8つの難易度のコースを用意 アクティビティに必要な装備は全て事業者が用意し、安全上の注意事項を案内
	19:00	-			○	ディナー	-	<ul style="list-style-type: none"> レストランにて伝統的なスイス郷土料理を提供
2日目	8:30	8H	○			キャニオニング(※2)	谷	<ul style="list-style-type: none"> スイスでも有数の峡谷である「クリシュリーレ」でのアクティビティを提供 体力に自信のある人向けの内容になっている
	19:30	-			○	ディナー	-	<ul style="list-style-type: none"> 地元の小さなレストランでの食事を提供
3日目	8:30	1H			○	鉄道での移動	-	<ul style="list-style-type: none"> 「インターラーケン」から「グリンデルワルト」に移動
	9:30	6H		○		ハイキング	山	<ul style="list-style-type: none"> 「シニゲ・プラッテ」(標高1967m)から「ファウルホルン」(標高2680m)周辺でのハイキングを提供 山上湖「バッハアルプゼー」を望むことができる
	16:00	1H	○			ジップライン	山	<ul style="list-style-type: none"> 地上50mの場所で最高時速84km/hの体験を提供 安全のため、35-125kgの体重制限を設置
	17:00	1H		○		サイクリング	山	<ul style="list-style-type: none"> 自転車ホテルまで移動
	20:00	-			○	ディナー	-	<ul style="list-style-type: none"> ホテルでのディナーを提供
	9:00	3H	○			キャニオニング	谷	<ul style="list-style-type: none"> 「ローゼンラウイ氷河渓谷」でのキャニオニングジャンプの体験を提供

出典: Adventure Travel Trade Associationウェブサイト

※1 ジップラインは森の中等に架けられたワイヤーロープを滑車で滑り降りるアクティビティ、ターザンスイング・ウッドブリッジは森林の中で行うアクティビティ ※2 渓谷を流れる川をボートやカヌーを使わずに下るアクティビティ

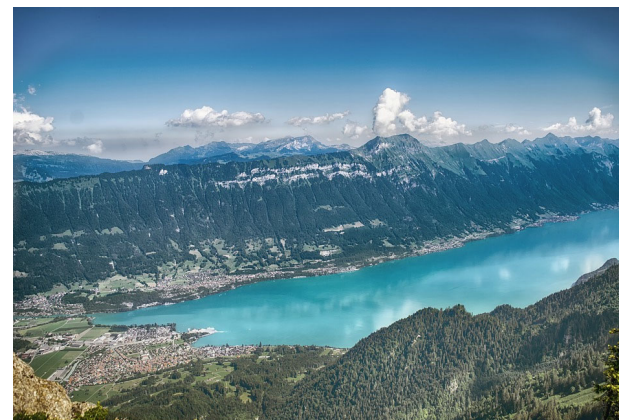
スイスにおける主力地域のツアー例②： Highlights of Bern & Interlaken(ベルン州)(1/3)

ツアー例②の概要

ツアー概要

ツアー名		Highlights of Bern & Interlaken
ツアー内容	価格(※1)	950USD(約110,000円)
	日数	4泊
	提供時期	10月
付随特典	難易度	中
	保険有無	不明
	食事有無	有(3食全て)
	宿泊有無	有(ホテル)
ツアーの特徴		<ul style="list-style-type: none"> チーズ製造見学や市街地ツアーなど、文化的な内容も重視したツアーを提供 短時間で体験できる小負担なアクティビティが多い 総アクティビティ数は10以上と様々な体験が可能なツアーとなっている

ツアー内容・エリアのイメージ(※2)



出典: Adventure Travel Trade Associationウェブサイト
 ※1 2022年2月時点レート(1USD(米ドル)=115円)を使用 ※2 画像はPixabayから取得

スイスにおける主力地域のツアー例②： Highlights of Bern & Interlaken (ベルン州) (2/3)

ツアー例②の行程 (1/2)

日程	時間	所要時間	アクティビティ				主な活用資源	詳細
			ハード	ソフト	その他	主な内容		
1日目	16:00	2H		○		サイクリング	市街地	<ul style="list-style-type: none"> ユネスコ無形文化遺産に登録されている「ベルン」市内の観光を提供 「ベルン」のシンボルである、「熊」の公園ベアピットへの訪問も含まれている
	19:15	-			○	ディナー	-	<ul style="list-style-type: none"> 熊を眺めながらの食事体験を提供
2日目	7:30	1H			○	鉄道での移動	-	<ul style="list-style-type: none"> 「ベルン」市内から「フットヴィール」市内へ移動
	9:00	約3H		○		工場見学 サイクリング	市街地	<ul style="list-style-type: none"> eバイク工場見学とそのeバイクを使用した「アフォルテルン」市内の自転車観光を提供
	11:45	約1H			○	チーズ製造見学	-	<ul style="list-style-type: none"> エメンタールチーズ発祥の地でチーズの製造工程を見学できるツアーを提供 お土産としてチーズの購入も可能
	13:30	1.5H		○		サイクリング	丘 森林	<ul style="list-style-type: none"> スイスでも有数のeバイクのサイクリングルート「ハーツルート」でのサイクリング体験を提供 アルプス山脈麓の景色を楽しめる
	15:00	1H		○		「プラツゲン (Platzgen)」 (※1)	-	<ul style="list-style-type: none"> 「ベルン」伝統のスポーツ体験を提供
	19:30	-			○	ディナー	-	<ul style="list-style-type: none"> 穀物倉庫を改修した高級レストランでの食事体験を提供

スイスにおける主力地域のツアー例②： Highlights of Bern & Interlaken (ベルン州) (3/3)

ツアー例②の行程 (2/2)

日程	時間	所要時間	アクティビティ			主な内容	主な活用資源	詳細
			ハード	ソフト	その他			
3日目	9:00	1H	○			ジップライン (※1)	森林	・「ガントリッシュ自然公園」内のロープパークでのアクティビティを提供
	10:30	1H		○		ハイキング	自然公園	・自然公園内でのショートハイキングを提供
	15:00	2H		○		セグウェイ(※2)	山・市街地	・セグウェイでの「インターラーケン」観光を提供
	19:00	-			○	ディナー	-	・伝統のレストランでフォンデュやラクレットの食事体験を提供
4日目	8:30	0.5H			○	鉄道での移動	-	・「インターラーケン」から「グリンデルワルト」に移動
	10:00	1H		○		ジップライン	山	・地上50mの場所で最高時速84km/hの体験を提供 ・安全のため、35-125kgの体重制限を設置
	11:00	2.5H		○		ゴンドラ体験 ハイキング	山・湖	・ゴンドラで移動と、バツハアルプ湖周辺のハイキングを実施
	15:00	1H		○		サイクリング	山・村	・「グリンデルワルト」村内に向かい、美しい風景を楽しむサイクリングを提供
	16:00	1.5H		○		ウォーキング	村	・「グリンデルワルト」村の観光ツアーを提供
	20:00	-			○	ディナー	-	・地元の小さなレストランでの食事を提供
5日目	9:00	5H	○			ラフティング (※3)	湖	・アルプス三大北壁の一つ「アイガー」から「ブリエンツ湖」にかけてのラフティング体験を提供 ・アクティビティに必要な備品は自身で用意する必要あり

出典: Adventure Travel Trade Associationウェブサイト

※1 森の中等に架けられたワイヤーロープを滑車で滑り降りるアクティビティ ※2 電動立乗り二輪車 ※3 ラフトを使用し、川下りをおこなうレジャーアクティビティ

スイスにおける主力地域のツアー例③： Lake & Bike in Eastern Switzerland (グラウビュンデン州)(1/2)

ツアー例③の概要

ツアー概要

ツアー名		Lake & Bike in Eastern Switzerland
ツアー内容	価格(※1)	600USD(約69,000円)
	日数	3泊
	提供時期	10月
	難易度	中
付随特典	保険有無	不明
	食事有無	有(朝食除く)
	宿泊有無	有(ホテル)
ツアーの特徴		<ul style="list-style-type: none"> ・ スイス屈指の山岳リゾートであるダヴォスやアローザの自然を満喫するツアー ・ マウンテンバイクとサイクリングがメインとなっている ・ 日中の行程は余裕があり、各地域のナイトライフも楽しめる設計になっている

ツアー内容・エリアのイメージ(※2)



出典: Adventure Travel Trade Associationウェブサイト
 ※1 2022年2月時点レート(1USD(米ドル)=115円)を使用 ※2 画像はPixabayから取得

スイスにおける主力地域のツアー例③： Lake & Bike in Eastern Switzerland (グラウビュンデン州)(1/2)

ツアー例③の行程

日程	時間	所要時間	アクティビティ				主な活用資源	詳細
			ハード	ソフト	その他	主な内容		
1日目	16:00	1.5H	○			マウンテンバイククライミング	森林	• 森林の中のバイクパークで様々な難易度で楽しめるマウンテンバイクコースを提供
	19:00	-			○	ディナー	-	• スイス料理も楽しめるホテル内のレストランでの食事体験を提供
	21:30	-		○		ナイトライフ体験	村	• 「ダヴォス」村内のナイトライフを楽しむことも可能なオプションを提供
2日目	10:00	2H	○			マウンテンバイク	山	• 「ゴートシュナー」にて約6km長のコースでマウンテンバイクが体験できるアクティビティを提供 • トレイルまたはフリーライド(※1)の経験保有が条件
	12:00	-			○	ランチ	-	• 「ゴートシュナー」山麓のレストランでの食事体験を提供
	16:00	3H	○			マウンテンバイク	山	• 「ルイノータ溪谷」を見下ろせる展望台までマウンテンバイクでの移動を実施
	20:00	-			○	ディナー	-	• 山上のレストランでの食事体験を提供
	22:30	-			○	ナイトライフ体験	村	• 「ラークス」でのバーやクラブといったナイトライフ体験をオプションで提供
3日目	9:00	4H		○		ハイキング	平地	• 「ラークス」での湖や山を眺めることのできる難易度の低いハイキング体験を提供
	15:30	~3H	○	○		ジップライン(※2)、ウッドブリッジ等	森林	• マウンテンリゾート地の「アローザ」のロープパークで森林を活用したアクティビティを提供
4日目	9:30	4H		○		サイクリング	平地	• 「アローザ」をサイクリングで巡るガイド付きツアーを提供

出典: Adventure Travel Trade Associationウェブサイト

※1 自然のままの地形を滑り、テクニックやスタイルを競うアクティビティ ※2 森の中等に架けられたワイヤーロープを滑車で滑り降りるアクティビティ

スイスにおける主力地域のツアー例④: Explore the Engadin Valley, the Swiss National Park region (グラウビュンデン州) (1/2)

ツアー例④の概要

ツアー概要

ツアー名		Explore the Engadin Valley, the Swiss National Park region
ツアー内容	価格(※1)	700USD (約80,000円)
	日数	3泊
	提供時期	10月
付随特典	難易度	中～高
	保険有無	不明
	食事有無	有(朝食除く)
	宿泊有無	有(ホテル)
ツアーの特徴		<ul style="list-style-type: none"> • エンガディン地方の文化や自然を体験できる幅広いタイプのアクティビティを提供 • 総数は少なく、1つのアクティビティに時間をかけることが可能 • 山だけでなく、湖などの自然資源も活用している

ツアー内容・エリアのイメージ(※2)



出典: Adventure Travel Trade Associationウェブサイト
 ※1 2022年2月時点レート(1USD(米ドル)=115円)を使用 ※2 画像はPixabayから取得

スイスにおける主力地域のツアー例④: Explore the Engadin Valley, the Swiss National Park region (グラウビュンデン州) (2/2)

ツアー例④の行程

日程	時間	所要時間	アクティビティ				主な活用資源	詳細
			ハード	ソフト	その他	主な内容		
1日目	17:00	-			○	ディナー	-	・「オーバーエンガディン」の景色を楽しめる食事体験を自家発電の山上ホテルで提供
2日目	9:00	2H	○			ロッククライミング	山	・ヴィア・フェラータと呼ばれる固定設備のある岩壁を登る高難易度なアクティビティを提供
		5H		○		ハイキング	氷河	・「モルテラッチ氷河」での7マイル程の下り坂ハイキングを提供
3日目	~10:30	-		○		サイクリング	湖・平地	・オプションで早朝のeバイクでのサイクリング体験を提供 ・「ポントレジーナ村」から「シュターツ湖」、「サンモリッツ」周辺の景観を楽しむコース
	11:00	1日			○	スイス国立センターで学習	-	・「スイス国立公園」内のビジターセンターでその土地の歴史等を学ぶ体験を提供
4日目	9:00	半日		○		サイクリング	山・国立公園	・「スイス国立公園」や「エンガディン」の村の景色を楽しむ10kmほどのサイクリングを提供
					○	鉱泉浴体験	鉱泉	・サウナやプールも整備された鉱泉を楽しむ入浴体験を提供 ・中世から発見されている鉱泉を使用している
					○	ランチ	-	・「エンガディン」特有の食事体験を提供

目次

I. 顧客像調査編

II. スイス編

1章 アドベンチャーツーリズムの特徴

2章 アドベンチャーツーリズムに対する取組内容

III. ニュージーランド編

(1) 体制整備 関係者の全体像と役割(1/2)

関係者の役割

アドベンチャーツーリズムのツアー提供にあたり、スイスでは、DMOとコンテンツサプライヤーが全ての推進フェーズの対応を行い、主体的に役割を果たしています。明確な役割分担の下、ガイドも含めた各関係者が密接に連携しています。

◎ : 主体として携わっている
○ : 関与している
空白: 関与していない

業務領域	1	2	3	4	5
	コンテンツ造成	環境整備	情報発信	販売	提供
スイス政府観光局(※1)	○ (市場データ収集・分析等)	○ (使用許可発行等)	○ (スイス全体の情報発信等)		
DMO(※2)	◎ (データ収集・情報共有等)	◎ (土地使用許可取得等)	◎ (地域の営業活動等)	◎ (事業者への助言、販売等)	○ (ガイド雇用、商品提供等)
コンテンツサプライヤー	◎ (商品造成等)	◎ (土地使用許可取得等)	◎ (自社商品の営業活動等)	◎ (価格設定、販売等)	◎ (ガイド雇用、商品提供等)
ランドオペレーター				○ (宿泊施設、交通の手配等)	
ガイド					◎ (商品提供、緊急時対応等)

スイスのアドベンチャーツーリズムでは、コンテンツサプライヤーやDMOがランドオペレーターの機能を担うことが多い

出典: アドベンチャーツーリズムを扱うスイスの事業者・DMO・ガイドへのヒアリング
 ※1 Switzerland Tourism(スイス政府観光局) ※2 DMOとは、Destination Management/Marketing Organizationの略称。
 日本では、「観光地域づくり法人」と呼ばれ、観光地域づくりの舵取り役を担う法人と位置付けられている。

(1) 体制整備 全体像と関係者の役割(2/2)

各推進フェーズで主体となる関係者の役割と概要

スイスでは、DMO(※)が収集する情報を基に、各地域のコンテンツサプライヤーが適したコンテンツを造成し、DMOが中心となって商品の情報発信や販売経路形成、販売を行っています。

* 前のページで◎がついている関係者を記載

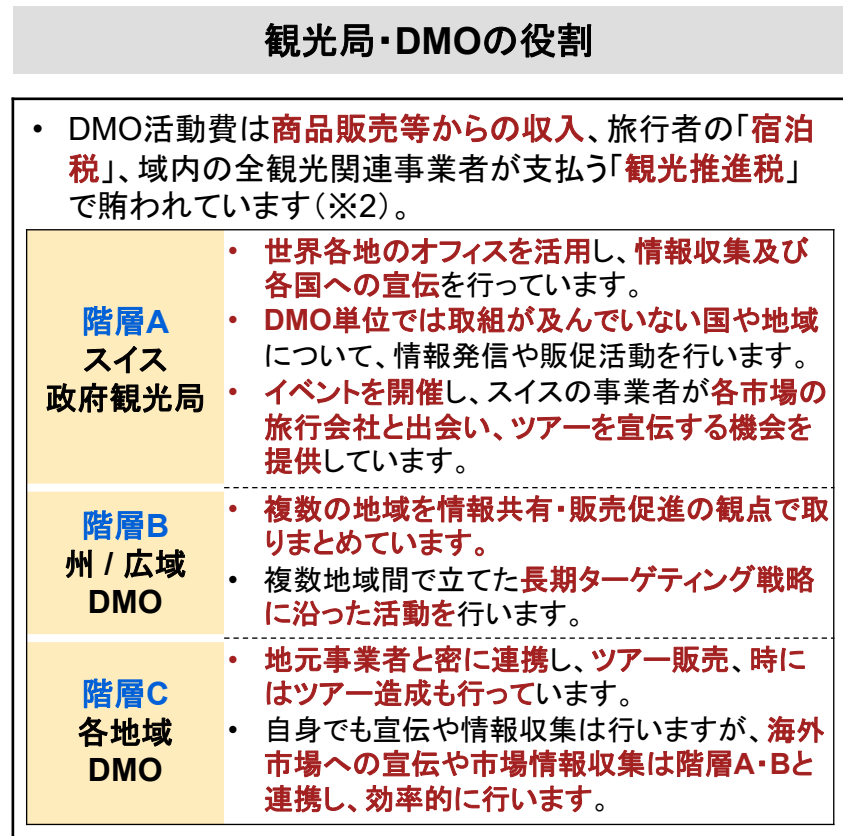
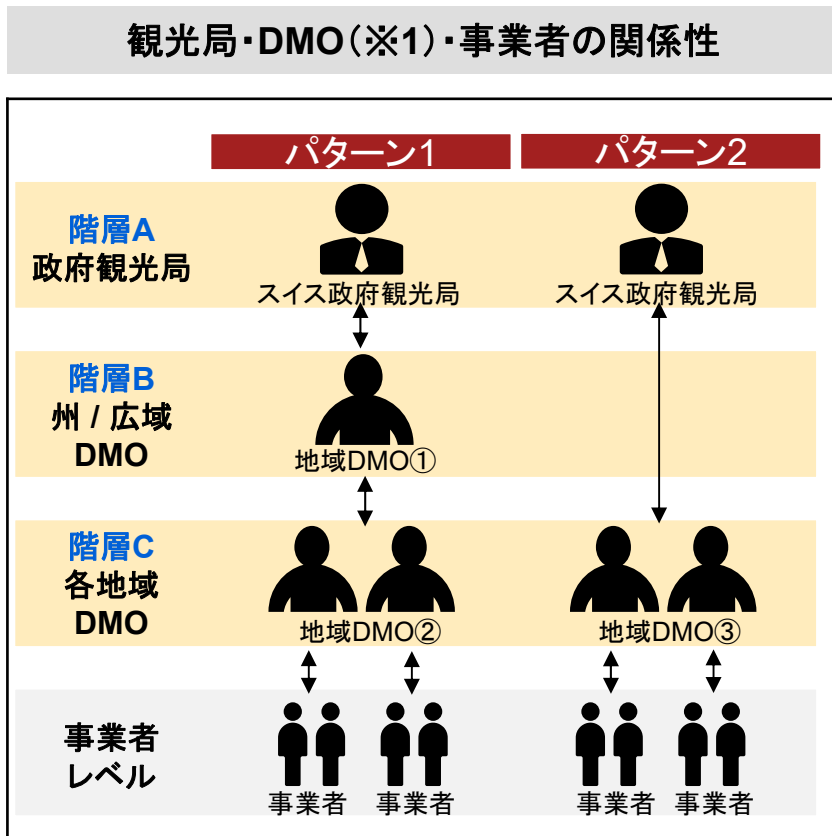
主な推進フェーズ	関係者*	機能・役割概要
① コンテンツ造成	DMO	<ul style="list-style-type: none"> 顧客市場を一番理解しているため、定期的に地元のアドベンチャーツーリズム事業者と会議を開き、市場の最新情報を共有しています。 一部の地域ではDMOが地元事業者と連携し、コンテンツを造成することもあります。
	コンテンツ サプライヤー	<ul style="list-style-type: none"> DMOから得た市場情報やフィードバック及び自身のデータを基に商品を造成します。 時に他のコンテンツサプライヤーと組み、商品を提供します。
② 環境整備	DMO	<ul style="list-style-type: none"> 行政や土地所有者、環境保護団体等から許可をとり、書類作成や支払いを通じて、環境整備を行います。
	コンテンツ サプライヤー	
③ 情報発信	DMO	<ul style="list-style-type: none"> ターゲット市場の旅行会社や関係者を訪問、誘致する等、地域を代表し、営業活動を行います。ウェブサイトも運営し、スイスの情報発信を行っています。 自社商品の情報発信を実施。特に、自社公式ウェブサイト、ソーシャルメディアなど、オンラインでの情報発信に力を注力する傾向がある。
	コンテンツ サプライヤー	
④ 販売	DMO	<ul style="list-style-type: none"> 事業者に対し、商品の価格設定についてアドバイスをを行います。 また、アドベンチャーツーリズムの商品は直販での購入者が多いため、自身のウェブサイトにおいても事業者や自身の商品の販売を行っています。 コストに加え、旅行会社・DMOのアドバイス、地域内の類似商品の価格等を基に商品の価格を設定します。 安全証明を取得し、免責事項等でのリスク管理も徹底し、商品を販売します。
	コンテンツ サプライヤー	
⑤ 提供	コンテンツ サプライヤー	<ul style="list-style-type: none"> 資格を持ったガイドを直接雇用もしくはガイド事業者と連携し、商品の提供を行います。 山岳ガイド、アクティビティガイド、インストラクター等はそれぞれの役割に沿って、安全な商品の提供に貢献します。緊急時の対応も基本ガイドが行います。
	ガイド	

出典: アドベンチャーツーリズムを扱うスイスの事業者・DMO・ガイドへのヒアリング
 ※DMOとは、Destination Management/Marketing Organizationの略称。日本では、「観光地域づくり法人」と呼ばれ、観光地域づくりの舵取り役を担う法人と位置付けられている。

(1) 体制整備 各DMOの関係性と役割

DMOの関係性

スイス観光局を頂点に、各地域のDMO間でピラミッド型の関係性が構築されており、明確な機能分担の下、効率的にアドベンチャーツーリズムを推進しています。地域が連携して行うことが効果的なことは協力し、そうでないものは個別に対応して情報共有を図る体制です。



出典: アドベンチャーツーリズムを扱うスイスの事業者・DMO・ガイドへのヒアリング
 ※1 DMOとは、Destination Management/Marketing Organizationの略称。日本では、「観光地域づくり法人」と呼ばれ、観光地域づくりの舵取り役を担う法人と位置付けられている。
 ※2 収入: 商品の販売やウェブサイトでの商品販売手数料。宿泊税: スイス国内での宿泊時に全ての外国人旅行者が支払う税金。観光推進税: 業界、従業員数、ビジネス規模等によって支払額は変動し、情報発信・宣伝での利用を目的とする。

(2) コンテンツ造成 DMOの市場調査・分析活動の概要

DMOによる顧客市場の調査・分析に関する取組内容

スイスでは州/広域/各地域DMOが、顧客市場の調査・分析において重要な役割を担っています。複数の地域間で会議を行い、長期目線でのターゲティング戦略を立てている地域も存在します。その戦略に沿い、地域一丸となって効率的な情報収集・分析を実現し、地域内のコンテンツサプライヤーへ情報共有を行っています。

DMO(※)による 顧客市場分析の 目的

市場ごとに異なる顧客ニーズを把握し、各アドベンチャーツーリズム事業者が、ターゲット市場に的確に訴求できるコンテンツの造成・販売・提供を行うための支援をすること

DMOによる情報収集と活用の概要

- 州/広域DMO(前述)または、それらが存在しない地域では各地域DMO(前述)が、年齢・所得・国籍等様々な観点で顧客情報を収集し、市場の理解を行っています。
- DMOが収集し、分析する主なデータは以下です。
 - スイス観光局が収集しているデータ
 - 公開されている市場レポート
 - そのエリアの宿泊施設等の顧客データ
 - 他国にあるオフィスを使用した現地の情報
- 定期的に収集した情報を基に分析したデータを地域のコンテンツサプライヤーに共有しています。

州/広域DMOによる顧客市場の調査・分析

体制	• 前述のDMO体制図のパターン1
概要	計画策定 • 州/広域DMO管轄エリア内の各地域DMOでの合同会議の実施 • 「ターゲット顧客設定(「家族」・「行動的なスキープレイヤー」・「雪愛好者」・「自然愛好者」)」や「各市場の注力度合い」等を含めた3年間の長期目線での戦略の立案
	実施 • 州/広域DMO主体での戦略に沿った市場調査・データ分析の実施 • 地域で定めた戦略外の市場調査・分析は各地域DMOが予算範囲で実施
協同実施のメリット	• 市場調査・分析活動コストの削減 • 効果的なキャンペーンの実現

出典: アドベンチャーツーリズムを扱うスイスの事業者・DMO・ガイドへのヒアリング
 ※ DMOとは、Destination Management/Marketing Organizationの略称。日本では、「観光地域づくり法人」と呼ばれ、観光地域づくりの舵取り役を担う法人と位置付けられている。

(2) コンテンツ造成 コンテンツを造成する上での考え方

スイスにおけるアドベンチャーツーリズムの「体験価値」

スイスのアドベンチャーツーリズム旅行者は「特別な体験」を求めており、「文化体験」等も最近のトレンドです。これまでアクティビティ単体での提供が多かったコンテンツサプライヤーも、他事業者と協力しアクティビティの中に文化的要素を取り入れつつあります。

- 近年までは、専ら体を動かすアクティビティを中心としたツアーの提供が主流でしたが、近年は、より「特別な体験」を求めるアドベンチャーツーリズム旅行者が増加しています。そのようなトレンドを受けて、これまでアクティビティ単体での提供を中心としていたコンテンツサプライヤーも、他事業者と協力しアクティビティの中に、その地域ならではの要素を取り入れたコンテンツを開発しつつあります。
- 近年、アドベンチャーツーリズム旅行者からのニーズが高まっている「特別な体験」の代表例としては、以下のようなものが挙げられます。
 - その地域ならではの「自然」や「文化」が学べる(以下、実例)
 - スイス独特の高山植物や野生動物について、アクティビティガイドによる説明を聞く
 - 登山時に、アクティビティガイドからそのスポットにまつわる歴史を学ぶ
 - ハイキングの行程で、地方の特産物を生産する地域や展示する博物館へ立ち寄る
 - 様々なアクティビティ体験の際に、郷土料理を食す体験を組み込む
 - その地域の地元の人と交流する(以下、実例)
 - 地域について理解が深い地元のホテルやレストランのスタッフと交流する
 - ソフトアクティビティの最中に地元の人と会話を交わす体験をする
 - サステナブルな旅行を行う(以下、実例)
 - 「Swisstainable(※)」で認証されているアドベンチャーツーリズム事業者やホテルを利用する

(3) 環境整備 自然環境の活用

環境整備の実態

スイスにおいても、アドベンチャーツーリズムで活用したい自然環境については、所有者や管理者等の関係者から予め合意を得る必要があります。特に、新規のエリアやツアーについては、騒音や環境保全上の懸念により、地元の権利者から反対されることが多く、時間のかかる複雑なプロセスになる傾向があります。

自然環境の利用における取組

- スイスにおいても日本と同様に、アドベンチャーツーリズムで使用するエリアの所有者や管理者が、行政や組織など、複数にまたがるケースが多く存在します。
- 新規でアクティビティやツアーを実施する場合、使用する土地の所有者や管理者である行政又は個人、環境保護団体など、地域の権利者から合意を得ることに加えて、場合によっては使用料を支払う必要があります。
- 土地所有者や管理者から使用許可を得て、新規のアクティビティやツアーのルートを公式に地図に記載し、公表することができるようになるまでには数年を要することがあります。よくある課題としては、日本同様に以下が挙げられます。
 1. 全ての関係者を洗い出し、連絡すべき担当者を見つけ出すことが困難な場合が多い
 2. 自然環境や生活環境を旅行者から守りたいと考える関係者は多く、交渉が円滑に進まない
 3. 煩雑な手続きが発生する
- 一方で、一度許可を得ると、同様の所有者、管理者等の関係者にアプローチすれば良く、標準化されたプロセスになるので交渉は比較的スムーズに行われます。

(3) 環境整備 アクセス・二次交通

スイスにおける移動手段の特徴

スイスには、山岳鉄道やゴンドラに加え、交通機関の共通パスなど、アドベンチャーツーリズム旅行者の移動利便性を向上させる様々なインフラが整備されています。

移動手段に関する取組

- スイスには鉄道、バス、湖船、山岳交通及び都市交通約300社が協力して実現した約27,000kmに及ぶ「スイストラベルシステム」(右記参照)が存在します。
- 「スイストラベルシステム」は公共交通を用いたスイス旅行を推進しており、外国人旅行者(※1)は山岳も含め、異なるエリア間・同地域内を簡単に移動することができます。
- また、「トラベルパス」を保有する旅行者は「スイストラベルシステム」交通網内ほとんどの路線を乗り放題で使用することができます。
- そのため、スイスのアドベンチャーツーリズム旅行者の多くは鉄道、バス、湖船、山岳交通及び都市交通といった公共交通機関を利用して移動を行う傾向にあります。

交通システム「スイストラベルシステム」

「スイストラベルシステム」の概要

正式名称	Swiss Travel System Ltd.
設立年	2011
概要	<ul style="list-style-type: none"> • スイス連邦鉄道、スイス政府観光局、その他5つの私鉄によって設立 • 250社以上の国内公共交通事業者からの分担金により運営されている • スイスの公共交通の海外マーケティング及び乗車券販売が目的

トラベルシステムが提供する「トラベルパス」の概要

価格(※2)	1日当たり29~77CHF(約3,600~9,600円)
サービス内容	<ul style="list-style-type: none"> • 国内主要鉄道、湖船、バス及び90都市の都市交通の乗り放題に加え、山岳交通も半額または無料で乗車可能 • スイス国内500か所の美術館等が無料

(3) 情報発信 情報発信活動の全体像

情報発信に関する取組内容

アドベンチャーツーリズムの情報発信活動において、DMOはターゲット市場訪問・ツアー体験提供・観光レップの設置等を通して、主に物理的な接点を通じたスイス全体のプレゼンス向上に取り組んでいます。一方、個々の事業者は、「Google Ads」を通じた自社公式ウェブサイト、ソーシャルメディアなど、オンラインでの情報発信に力を注力する傾向にあります。

主体	情報発信活動
スイス 政府観光局	<ul style="list-style-type: none"> 各DMOと連携し、スイス全体の情報発信をスイス観光局公式ウェブサイトや各国のオフィスを通じて行います。
DMO(※1)	<ul style="list-style-type: none"> 州/広域DMO(前述)または、それらが存在しない地域では各地域DMO(前述)が自身の地域や地域で提供される商品について以下の方法で関係者に情報発信を行います。 <ul style="list-style-type: none"> 定期的なターゲット市場の訪問 ターゲット市場関係者へのツアー体験提供 観光レップ(※2)を活用した各国での営業活動の実施 一部地域では、市場分析に基づき最適な組み合わせで組成された有カメディア媒体の出稿枠をスイス観光局がまとめて購入し、それらを州/広域DMO経由で各地域DMO間で共有することで、コスト効率の高い出稿を実現しています。 それにより、各地域は海外のターゲット市場に対して費用対効果の高い情報発信が可能となっています。
事業者	<ul style="list-style-type: none"> 事業者側では自身の商品に関する情報発信のため、以下のような取組を行っています。 <ul style="list-style-type: none"> 宣伝に特化した専門部隊の設置 検索エンジン結果ページに表示されるウェブ広告「Google Ads(※3)」の活用 自社ウェブサイト及びTikTok(※4)やInstagram(※5)等の自社アカウントの活用 体験者の口コミの推奨

出典：アドベンチャーツーリズムを扱うスイスの事業者・DMO・ガイドへのヒアリング

※1 DMOとは、Destination Management/Marketing Organizationの略称。日本では、「観光地域づくり法人」と呼ばれ、観光地域づくりの総取り役を担う法人と位置付けられている。

※2 自治体等の代理として、海外現地でツアー商品販売や地域のPRを行う。※3 Googleが提供する広告配信サービス

※4 ByteDanceが提供する動画に特化したメディアサービス ※5 Metaが提供する写真・動画に特化したメディアサービス

(4) 情報発信 情報発信(ファクトシート)

ファクトシートを使用した情報発信に関する取組内容

B2B (※1)での営業ツールの1つとして、多くのコンテンツサプライヤーは「ファクトシート」(いわゆる「MIC」(※2))と呼ばれる資料を作成しています。これらの情報はターゲットの興味やカルチャーに合わせて作成されます。

ファクトシート(※3)の概要

概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> 海外旅行会社への販売など、B2Bにおける商品販売時のマーケティングツールまたは旅行者に正しい情報を伝えるためのツールとしてファクトシートが作成されます。 このようなファクトシートはターゲット市場の興味やカルチャーに沿って作成されます。
作成者	<ul style="list-style-type: none"> コンテンツサプライヤー
作成タイミング	<ul style="list-style-type: none"> ツアー造成後
作成言語	<ul style="list-style-type: none"> 英語
配布対象	<ul style="list-style-type: none"> ツアー/コンテンツを販売したい商談相手 ツアー/コンテンツの購入を検討中の顧客/購入者
配布方法	<ul style="list-style-type: none"> 商談時の資料として提示

典型的なファクトシートの内容例

項目	内容
名称	アクティビティの名称や地名などわかりやすいツアーの名称を記載。
ハイライト	アクティビティやエリアの特徴を写真と共に説明。
対象者	アクティビティの対象者を記載。
含まれるもの	器具やガイド、飲み物等付随するサービスを記載。
持ち物	アクティビティに必要な持ち物を記載。
参加条件	参加に必要なスキル、年齢、体重等を記載。
所要時間	移動時間も含めた所要時間を記載。
日時	アクティビティの日程、開始時間のオプションを記載。
催行人数	参加者数を記載。
価格	顧客タイプ別の価格を記載。
有益情報	エリア特徴や特徴的な体験、天候の注意等を記載。
提供者情報	提供者の名前と連絡先を記載。
写真	アクティビティが実施される場所の写真やアクティビティ実施時の写真を掲載。
地図	アクティビティが実施周辺エリアの地図を掲載。

出典:アドベンチャーツーリズムを扱うスイスの事業者・DMO・ガイドへのヒアリング
 ※1 Business to businessの略。企業間取引のこと。※2 Minimum Information to Client
 ※3 商品の情報を簡潔にまとめた文書

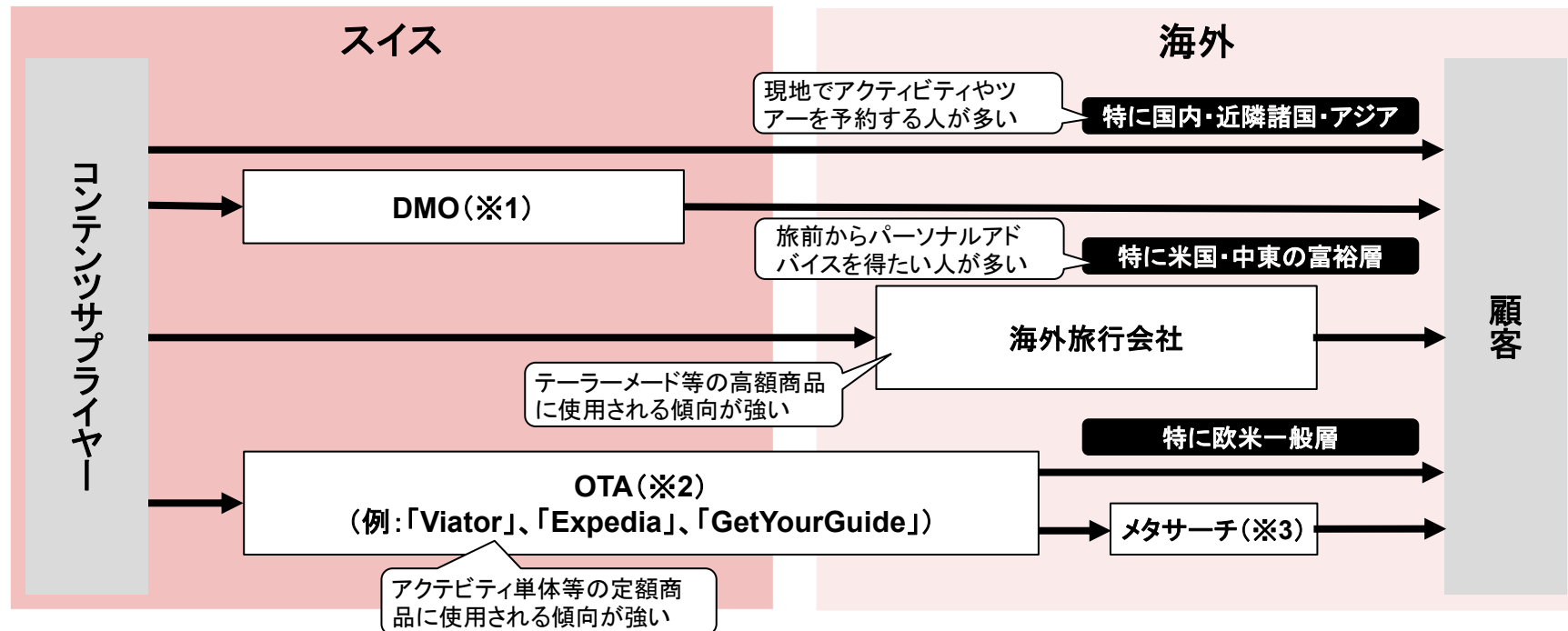
(5) 販売 販路形成

活用されている販売経路

スイスの外国人旅行者に向けたアドベンチャーツーリズム販路は、直販、旅行会社経由、OTA経由が主となっています。スイスの主要顧客層の一つである米国人旅行者は、富裕層ほど旅行会社を通じて手配を行い、一般層は「Viator」等のOTAを通じた購入が多い傾向にあります。

スイスでの販路図

商品販売の流れ →



出典: アドベンチャーツーリズムを扱うスイスの事業者・DMO・ガイドへのヒアリング

※1 DMOとは、Destination Management/Marketing Organizationの略称。日本では、「観光地域づくり法人」と呼ばれ、観光地域づくりの舵取り役を担う法人と位置付けられている。

※2 Online Travel Agent (オンライン・トラベル・エージェント) ※3 複数の旅行予約サイトを横断して検索すること

(5) 販売 価格設定

価格設定

アクティビティやツアーの価格は、基本的にコストと利益を積み上げて決定されます。その上で、地域内の競争環境や海外から見た際の相場観等を基に調整が行われます。また、安価な商品では安全に不安を感じる顧客もいるため、多くの地域や事業者は、安価で提供しようという意識はありません。

移動手段に関する取組

- スイスでは、アクティビティやツアーの価格は**基本的にコンテンツサプライヤーがコストと利益を積み上げて決定**しています。
- 例えば、**ガイド単価と所要時間、必要なガイド数、装備、食費等を積算**し、価格設定を行います。**アクティビティを試行し**、コストを計算する場合もあります。
- その上で、以下の要素も考慮し、最終価格を決定します。
 - **顧客にとっての安全面での安心感**: アドベンチャーツーリズム旅行者の多くは、**安い商品は安全ではないと思う傾向**にあります。
 - **類似商品の価格**: 同じエリアにおいても**競合が多数存在**することが多くあります。その場合、ツアー・アクティビティの**品質を担保できる範囲で、競争力のある価格設定**を心がけます。
 - **旅行会社やDMOのアドバイス**: 様々な市場をよく理解しているDMOや旅行会社に、アドバイスを求めます。設定価格が適正かどうか等を相談し、それらの意見を反映します。

アクティビティ・ツアーの価格例

アクティビティ・ツアー	所要時間	価格(※1)
キャニオニング(※2)	3時間	139CHF (約17,000円)
ヴィア・フェラータ(※3)	3~4時間	149CHF (約19,000円)
ラフティング(※4)	4.5時間	129CHF (約16,000円)
氷河ハイキング	4~5時間	215CHF (約27,000円)
ハイキング	1日	145CHF (約18,000円)
スノーシューイング(※5)	1日	195CHF (約24,000円)

出典: アドベンチャーツーリズムを扱うスイスの事業者・DMO・ガイドへのヒアリング、Outdoor Switzerland公式ウェブサイト
 ※1 2022年2月時点レート(1CHF(スイスフラン)=125円)を使用 ※2 渓谷を流れる川をボートやカヌーを使わずに下るアクティビティ ※3 固定された足場やロープを使用し行うロッククライミング ※4 ラフトを使用し、川下りをおこなうレジャーアクティビティ ※5 スノーシューを履いて雪原や森をハイキングするアクティビティ

(5) 販売 販売管理

販売管理についての実施内容

世界中の顧客に対して多数の販売経路を通じて商品を販売するスイスの事業者の間では、効率的な販売管理を行うために、販売管理ソフトを利用することが一般的です。

販売管理の取組

- 複数のウェブ上のチャネルで商品を販売している一部の事業者は、販売管理ソフトを導入しています。

主な機能

- 空席、満員等の予約状況の一括管理
- ガイド、車等のリソースの一括管理
- 予約確定メールの自動送信の実施

利用メリット

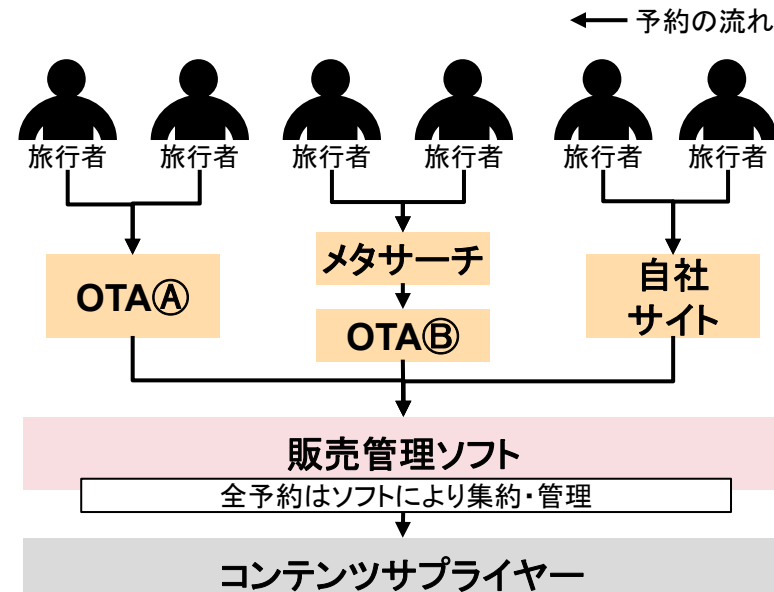
- オーバーブッキングやメール送信漏れ等の予約関連ミスの削減
- 販売管理の煩雑さ、作業工数の抑制による人的コストの削減

代表的なソフト

- TrekkSoft(欧州最大)
- activitar(主にアフリカで展開)
- Anchor(主に北米、英国で展開)
- Bókun(TripAdvisor傘下、日本においても展開)
- Prioticket(オランダ発のプレイヤー)
- Redeam(米国発のプレイヤー)
- Regiondo(ドイツ発のプレイヤー)、等

販売管理ソフトの利用イメージ

- 各サイトを通じた予約は一括で販売管理ソフトにより管理されます。



(5) 販売 リスク管理(法規制・認定制度)

注意すべきリスク管理に関連する規制/認定制度とその経緯(1/3)

スイスでは、1999年に発生した事故をきっかけに、アドベンチャーツーリズム事業者やガイド事業者に対し、安全性に関する厳格な規制の遵守や証明書の取得等を義務付けています。

	リスク管理に関連する規制・認定制度		国によるリスク管理強化の背景
	法規制	認定制度	
制度名称	<ul style="list-style-type: none"> 山岳ガイド及びその他リスクの高いアクティビティ主催者に対する条例(※1) 	<ul style="list-style-type: none"> Quality Programme of Swiss Tourism 	<ul style="list-style-type: none"> 1999年、スイスベルン州アルプス付近の渓谷でキャニオニングを体験していた18人の旅行者及びガイド3人が悪天候により亡くなる事故が起きました。 この出来事に伴う裁判で、事故を起こした事業者が安全対策を怠っていたことが判明しました。 <ul style="list-style-type: none"> 従業員が遵守すべき安全ガイドラインを作成していなかった その土地に不慣れな従業員がおり、そのような従業員に天候についての指示を与えていなかった この事故を受け、スイスはアドベンチャー安全基金を立ち上げ、従業員教育やインフラ使用に関する安全基準を設けるなど、安全への取組を強化しています。 2019年からは「リスクの高いスポーツ」を提供する事業者・ガイドに対する既存ルールが見直され、以前より厳しいルールが適用されています。
主体組織	<ul style="list-style-type: none"> Federal Department of Defense, Civil Protection and Sport (DDPS)(※2) 	<ul style="list-style-type: none"> スイス観光連盟、スイス政府観光局 	
制度概要	<ul style="list-style-type: none"> リスクの高いアクティビティ主催者はスイス省庁の一つであるDDPSによって定められたライセンスの取得が必要 山岳ガイドや登山インストラクター等には指定のディプロマ(※3)やスイスマウンテンガイド協会のコース修了が必須 	<ul style="list-style-type: none"> 観光分野の事業者のサービス品質を保証するため、一定のトレーニングや基準を満たした事業者に対して認定を実施 認定はレベルI~IIIの3段階 	

出典: アドベンチャーツーリズムを扱うスイスの事業者・DMO・ガイドへのヒアリング、スイス連邦政府公式ウェブサイト (<https://www.stv-fst.ch/en/labels/quality-programme>)、スイス観光連盟公式ウェブサイト (<https://www.myswitzerland.com>)
 ※1 Ordinance on Mountain Guides and Organisers of other High-Risk Activities
 ※2 スイス連邦政府の省庁の一つ ※3 特定の課程の修了に伴い発行される証明書

(5) 販売 リスク管理(法規制・認定制度)

注意すべきリスク管理に関連する規制/認定制度とその経緯(2/3)

制度名称		山岳ガイド及びその他リスクの高いアクティビティ主催者に対する条例(※1)	制度内容	基準	<ul style="list-style-type: none"> 以下の最低認証要件を満たすこと - 安全管理システムが、規定水準であること - リスク分析テンプレートを用いて、規定する目標達成のための措置を講じていること - 認定された指導者/補助者によってアクティビティが行われること
主体の情報	組織名	Federal Department of Defense, Civil Protection and Sport (DDPS)			
	政府との関係	スイス連邦政府省庁の一つ			
	管轄省庁	Federal Department of Defense, Civil Protection and Sport (DDPS)			
対象の活動		<ul style="list-style-type: none"> 山登り スキー、スノーボード及び類似のスノースポーツ用具を使用したツーリング 凍った滝や急な氷のクライミング マルチピッチロッククライミング キャニオニング(※2) ボートまたはカヌー、カヤック、リバーボード、フニャック、チューブなどのスポーツ用品を使用した水上スポーツ。 バンジージャンプ ヴィア・フェラータの使用(※3) <p>【以下は一定以上の難易度のみ対象】</p> <ul style="list-style-type: none"> アルペンハイキング スノーシューツアー(※4) ゲレンデ外スキー 流水でのラフティング(※5) 	取得プロセス	<ol style="list-style-type: none"> 居住地又は州当局に申請書を提出 申請書及び添付書類の審査 10日以内に可否の決定 	
			ガイドの要件	ガイドの種類(山岳ガイドや登山インストラクター等)によって要件が定められており、指定のディプロマやスイスマウンテンガイド協会のコース修了が必須となる	
			改定・更新	有無	あり
				頻度	最長5年

出典: スイス連邦政府公式ウェブサイト(<https://www.stv-fst.ch/en/labels/quality-programme>)

※1 Ordinance on Mountain Guides and Organisers of other High-Risk Activities ※2 渓谷を流れる川をボートやカヌーを使わずに下るアクティビティ ※3 固定された足場やロープを使用し行うロッククライミング ※4 スノーシューを履いて雪原や森をハイキングするアクティビティ ※5 ラフトを使用し、川下りをおこなうレジャーアクティビティ

(5) 販売 リスク管理(法規制・認定制度)

注意すべきリスク管理に関連する規制/認定制度とその経緯(3/3)

制度名称		Quality Programme of Swiss Tourism	
主体の 情報	組織名	スイス観光連盟、スイス政府観光局	
	政府との 関係	<ul style="list-style-type: none"> スイス観光連盟: 業界団体 スイス政府観光局: スイス連邦政府下の機関 	
	管轄 省庁	Federal Department of Economic Affairs, Education and Research/ State Secretariat for Economic Affairs)	
	財源	<ul style="list-style-type: none"> 観光連盟加盟企業による会費や提供サービスによる収入 	
対象の活動		旅行関連サービス提供者	
認定の分類		【レベル I】	
		<ul style="list-style-type: none"> サービスの品質を重視 レベル IIは内部的な効果を持ち、従業員のモチベーションを高める 	
		【レベル II】	
		<ul style="list-style-type: none"> レベル Iを取得し、さらに改善する意志がある場合は、レベル IIを取得可能 	
		【レベル III】	
		<ul style="list-style-type: none"> 包括的な品質マネジメントシステムを確立している企業が取得可能 	
認定の基準		【レベル I・II】	
		<ul style="list-style-type: none"> 指定のトレーニング/モジュールの受講、アセスメントの実施 	
		【レベル III】	
		<ul style="list-style-type: none"> ISO9000(※1)シリーズやEFQMモデル(※2)等の品質管理システムの確立 	
認定プロセス		【レベル I・II】	
		<ol style="list-style-type: none"> 1. トレーニング/セルフスタディの実施 2. モジュールの受講 3. オンラインアセスメントの実施 4. オンライン申請 5. 認証の取得 	
		【レベル III】	
		<ol style="list-style-type: none"> 1. 品質管理システムを確立し、申請 2. 認証の取得 	
審査員		— (記述なし)	
改定・ 更新	有無	あり	
	頻度	3年	
免許認定状況		1998年以降、9173件のラベルを授与	

出典: スイス観光連盟公式ウェブサイト(<https://www.stv-fst.ch/en/labels/quality-programme>)
 ※1 国際標準化機構による品質マネジメントシステムに関する規格の総称 ※2 The European Foundation for Quality Management によって定義された品質管理のためのフレームワーク

(5) 販売 リスク管理(免責)(1/2)

販売時におけるリスク管理の実践内容(免責)

スイスでは、体験者個人の責任を重視し、実施時のウェーバーフォーム(※1)や購入時の利用規約・条件への同意を徹底しています。また、ウェーバーフォームを活用する事業者は、政府のスポーツ局(BASPO)や弁護士のレビューを受け、記載内容の適切性を担保しています。

ウェーバーフォーム

- アドベンチャーアクティビティを提供する多くの事業者は旅行者に**ウェーバーフォーム(Wavier Form)への同意・サイン**を求めています。

確認内容例:

- ✓ 健康上問題がないこと
- ✓ 法定年齢に達しており、薬物中毒など、精神的問題がないこと
- ✓ 健康を害する可能性を理解し、そのような場合アクティビティを辞退すること
- ✓ 主催者がイベントの中止権を持つことを理解し、指示に従うこと
- ✓ 主催者の故意や過失以外の事故は本人の責任であること
- ✓ カメラ等持ち物の破損に主催者は一切責任を持たないこと

- また、事業者はウェーバーフォームを以下のような**第三者に確認し、内容の適切性を担保**することが一般的です。
 - **弁護士**: 法的有効性の確認と法的なアドバイスを弁護士に依頼します。
 - **BASPO**: DDPS(※2)の一部であるスポーツ局(BASPO)に**記載内容に抜け漏れがないかの確認**を依頼します。

利用規約・条件

- ウェーバーフォームなど、特別な書類を用意していないアドベンチャーアクティビティを提供する事業者も存在します。
- そのような場合、**予約時の利用規約・条件(Terms & Conditions)で体験者個人の責任への同意**を求めています。旅行者は**アクティビティを予約する際に、それらを読み、「承諾」にチェックを入れる必要**があります。



アクティビティでの事故は旅行者自身の責任です。事業者は責任は持ちません。



環境整備上の不備については事業者が責任を持ちます。そのため、事業者も保険に加入しています。

(5) 販売 リスク管理(免責)(2/2)

スイスにおける実際のウェーバーフォームの例

Declaration of consent (persons over 18)

(Activity/date/location of the event)

(Surname/first name/date of birth/address)

→ For minors, use the form "Declaration of consent for minors".

1. Consent to participate in risk-related activity

I hereby declare that I am in **good health** and, in particular, not affected by any of the following health conditions which exclude me from participating: Eye surgery / Hypertension / Chronic diseases of the ear with balance disorders / Heart problems / Epilepsy / Increased cardiovascular risk / Neurological problems / Whiplash / Pregnancy. I meet the requirements to participate in the activity; in particular, there are no obstacles related to my person or health. Persons who are particularly at risk according to the FOPH (BAG) with regard to the Covid 19 virus (coronavirus) are advised not to participate on any of our trips. In case of symptoms or signs of a Covid 19 disease according to the FOPH (BAG), participation in all activities must be refrained from.

Furthermore, I declare that I am of **legal age** and of full **mental capacity** and that I am not under the influence of **drugs (light or hard), alcohol, psychotropic drugs or other medicines** that could degrade my consciousness.

I am aware that the activity may affect my health and that I may withdraw from it at any time. Furthermore, I pledge that I will act according to the instructions of _____ which reserves the right to cancel the activity/tour at any time.

I **waive all rights of action or recourse** with regard to any damage or accidents suffered in connection with the event, in particular contractual and tort claims against the Organiser, unless the accident or damage is due to intent or gross negligence on the part of the Organiser. The Organiser hereby accepts this waiver.

The Organiser rejects any liability for damage to any carried objects such as cameras, mobile phones, glasses, sunglasses, etc.

I am aware that I am not insured by the Organiser.

Should one of these provisions be ineffective, this shall not result in the ineffectiveness of the entire Agreement, unless it can be assumed that the Agreement would not have been concluded at all without the ineffective provision.

The Terms and Conditions and the Privacy Policy of _____ shall apply.

The place of jurisdiction is the registered office of the Organiser. Swiss law shall apply.

With my signature, I confirm that I understand and accept item 1. With my signature, I also confirm that I have been given the Terms and Conditions and the Privacy Policy and that I understand them.

(Place/date)

(Signature)

(5) 販売 リスク管理(保険)(1/2)

スイスのアドベンチャーツーリズムにおける保険の実態

スイスの事業者は企業として保険に加入し、スイス国民も保険に加入しています。一方で、国外からの旅行者の保険加入は任意であり、加入状況の確認は事業者によって異なります。保険加入を求めない場合においても、ウェーバーフォームや利用規約・条件で個人の責任について明記しています。

	対事業者	対旅行者	
		スイス人(詳細は次頁)	外国人
保険加入義務	○	○	×「個人の責任」として任意 (事業者は推奨)
保険タイプ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門職業賠償保険(※1) 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 連邦健康保険 2. 障害・職業病保険 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「危険スポーツ・アドベンチャーアクティビティ」に特化した保険
関連法律	<ul style="list-style-type: none"> ・ 山岳ガイド及びその他リスクの高いアクティビティ主催者に対する条例(※2) 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 連邦健康保険法 2. 事故保険法 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特になし
加入の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 過失による訴訟等から企業活動を守るため 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 病気の補償 2. 怪我の補償 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 病気や怪我の補償 ・ 天候等によるキャンセルの補償 ・ 携行品損害の補償
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 複数の保険に加入している場合があり、高額な保険料を支払っている ・ 国内保険会社の取り扱いが少ないため、保険商品はブローカー(※3)を通し、海外から購入されることが多い 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国民は民間の保険会社に月々保険料を支払い、補償を受ける 2. 事業者保険。スイス国内の企業に雇用され、条件を満たすスイス人は勤務外の怪我の補償も受けることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保険への加入は推奨され、免責で確認する事業者も存在 ・ 確認しない場合においても、免責で「個人の責任」については必ず記載 ・ 基本的な海外保険ではアドベンチャーアクティビティの多くはカバーされないことが多い

出典: アドベンチャーツーリズムを扱うスイスの事業者・DMO・ガイドへのヒアリング、各種文献調査
 ※1 professional indemnity insurance ※2 Ordinance on Mountain Guides and Organisers of other High-Risk Activities ※3 手数料を受け取り、取引の仲介を行う会社・人のこと

(5) 販売 リスク管理(保険)(2/2)

参考) スイス国民に対する保険の実態

スイス人旅行者には、スイスの法律により義務付けられた2つの保険によって病気や怪我の補償が行われます。そのため、旅行中の怪我や病気に対する特別な保険への加入は必要ありません。

スイスのアドベンチャーツーリズムにおける保険の考え方と実態

スイスには法律で定められた保険が2つ存在しています。そのため、国内の多くのアドベンチャーツーリズム旅行者はそのような保険で守られているため、怪我や病気に関して特別な保険への加入は必要ありません。

	1. 基礎健康保険	2. 障害・職業病保険
正式名称	「Basic Health Insurance」	「Accident and Occupational Disease Insurance」
義務の有無	・ 連邦健康保険法(※1)により国民の加入は義務	・ 事故保険法(※2)により国内事業者の加入は義務
支払主	・ スイス国民	・ スイス国内の事業者
仕組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国民は民間保険会社に月々保険料を支払う ・ 月額会社や州によって異なり、低所得者には州からの補助金が出る ・ 個人は「自己免責額」を設定し、月々の負担と医療費の自己負担の割合を調整できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業者に雇用されている従業員の為の保険 ・ 事業者はビジネスタイプや収入等様々な条件により計算された保険料を支払う必要がある ・ 危険な業務を伴う事業者の保険料は高い傾向にある
補償範囲	<ul style="list-style-type: none"> ・ 病気 ・ 病気からくる怪我 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 勤務中の怪我や勤務によって生じる怪我・病気 ・ 1週間に8時間以上同雇用主の下で働く従業員には、勤務外の事故についても補償される ・ 基本はアクティビティでの怪我也カバーされる

出典: アドベンチャーツーリズムを扱うスイスの事業者・DMO・ガイドへのヒアリング、Ch.Ch公式ウェブサイト(スイス連邦、カントンによって提供されている情報ポータルサイト)、連邦内務省保健局ウェブサイト
 ※1 The Swiss Federal Health Insurance Act ※2 Accident Insurance Act

(6) 提供 事故発生時の対応

ツアー催行中に事故が発生した場合の対応

事故発生時の対応に関する意思決定は、その場にいるアクティビティガイドが行う場合が多いため、アドベンチャーツーリズム事業者は、一般的に、事故発生時の対応について遵守すべきガイドラインや訓練を用意しています。事故発生時には、民間の航空救助隊「Rega」を活用するほか、一部エリアではスキー場等の救護室を整備し、地元のタクシー会社や病院と連携して対応しています。

アドベンチャーツーリズム事業者の取組

【事故に対する備え】

- 事業者はガイドに対して、年に一回安全のための講習会を実施しています。
- また、リスクマネジメントに関するガイドラインを用意しています。

【事故発生時の対応】

- 基本緊急時の対応は現場にいるガイドが行うため、アクティビティガイドは強い痛み止め等も入っている救急箱をツアー時に携帯します。
- アクティビティガイドは事故発生時にはまず状況を判断し、「Rega」(右記参照)や事業者本部に連絡を取りつつ、怪我人の対応を行います。
- 天候等の問題で、救助が遅れる場合にはガイド自身による応急処置・場所の移動が求められます。

その他民間企業の取組例

【航空救助隊「Rega」の活用】

- 山での緊急時には任意の国民による「会費」によって運営されている民間の航空救助隊が使用されます。
- 好天候時にはヘリコプターでスイス国内のどこにおいても約15分で現場に到着、搬送を行います。
- 利用料として数十万円の高額な支払いが発生しますが、会員は無料であり、会員でなくても保険に加入していればカバーされることが多いです。

【スキー場による救急室の設置】

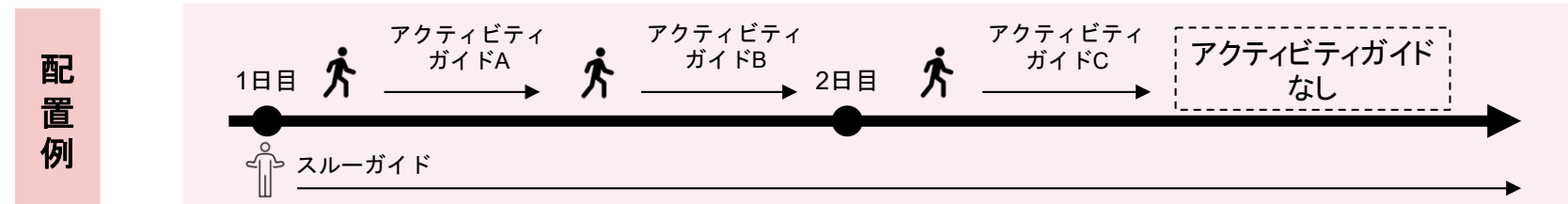
- 一部スキー場では場内に救護室を設置しています。
- そのようなスキー場は地元の医療機関やタクシー会社とパートナーシップを結んでおり、緊急時の対応が潤滑に行われるような仕組みを整備しています。
- DMOとしてもこのようなスキー場とはパートナーシップを組み、情報交換を行っています。

(6) 提供 ガイドの種類と配置

ガイドの種類と配置

スイスのアドベンチャーツーリズムでは、旅行者の体験価値を最大化させ、快適・安全な旅行をサポートする役割として、大きく、スルーガイド(トラベルコンシェルジュ)、アクティビティガイドの2つが存在します。

	ガイドの種類	主な役割・概要	資格要否	起用される場面	主な雇用形態
主な種類	スルーガイド (トラベル コンシェルジュ)	<ul style="list-style-type: none"> スケジュール管理も含め、旅行者の旅行内での全般的な世話を担う 訪れるエリアを熟知しており、適切なアドバイスを行う 	特になし	主に北米の富裕層のツアー旅行時	<ul style="list-style-type: none"> フリーランス
	アクティビティ ガイド	<ul style="list-style-type: none"> 安全なアクティビティ体験ができるようサポートを行う スキル指導や知識共有も旅行者に合わせて行う 	アクティビティ毎に定められたスイスの法律に基づく資格	あらゆるアクティビティ実施時	<ul style="list-style-type: none"> フリーランス フルタイム (オールシーズン雇用) パートタイム (期間雇用)



出典:アドベンチャーツーリズムを扱うスイスの事業者・DMO・ガイドへのヒアリング

(6) 提供 アクティビティガイドに期待される機能・技能

アクティビティガイドに求められるスキル

アクティビティガイドには資格の取得に加え、多言語能力、アクティビティへの深い知見・経験、土地の理解、インターパーソナル能力等様々な能力が求められます。また、緊急時の責任の対応もガイドが行うため、そのあたりの知識・判断力も重要です。

カテゴリー	スキル	概要
知識・技能	アクティビティに対する知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 旅行者の安全を守るために、アクティビティ内容はもちろん、使用する器具等について深い知見・能力が求められます。 多くのガイドは自身でアクティビティ関連の趣味を持ち、豊富な経験を体得しています。
	エリアの知識	<ul style="list-style-type: none"> 随時適切な判断を下すために、気候も含め、山や川等の使用するエリアに関する深い知識が求められます。 そのため、特に山岳ガイドはその地域に長く住む人が多いです。 また、多くの旅行者は歴史、高山植物、野生動物等について学ぶことを望むため、説明できるよう知識を身に着ける必要があります。
コミュニケーションスキル	多言語能力	<ul style="list-style-type: none"> スイスでは、国内や近隣諸国からの旅行者が多いことから、英語に加え、公用語であるドイツ語・フランス語を始めとする複数の言語を話せることが求められます。
	エンターテイメント性	<ul style="list-style-type: none"> 旅行者が楽しめるような工夫ができる事も必要です。 旅行者に心を許してもらい、何でも相談してもらえるような環境作りが大切になります。
	共感力	<ul style="list-style-type: none"> アクティビティは時に精神的な負担を伴いますが、そのような状況で旅行者に寄り添い、モチベーションを与えることが大切になってきます。
緊急時の対応能力	緊急時の判断力	<ul style="list-style-type: none"> 天候や旅行者の状態等を見極め、適切な判断を下すことが求められます。 現場にいるガイドが緊急時の対応を行うことが一般的であり、ガイドに求められる最も重要なスキルの1つです。

(6) 提供 アクティビティガイドの雇用形態

アクティビティガイドの雇用

スイスのアクティビティガイドの多くは、アクティビティガイド事業者にフルタイム又はパートタイムで雇用されています。また、山岳ガイドを除き、多くのアクティビティガイドは外国籍で、各国籍に応じて必要な就労資格の下、スイスで就業しています。

ガイドの雇用形態

- ガイドの雇用形態として、大きくは、**フルタイム(オールシーズン雇用)**、**パートタイム(期間雇用)**、**フリーランスが存在**します。
- 自身でツアーを組むフリーの山岳ガイドも存在しますが、多くのガイドは**ガイド事業者**に雇用されています。
- **経験豊富なガイドはオールシーズンのフルタイムで採用**される傾向にありますが、全体として**フルタイムのガイドはあまり多くありません**。
- 大手ガイド事業者では、パートタイムも含み**数百人規模のガイドを雇用**しています。
- 後述のように、**フルタイムとして雇用されるため**には、スイスで効力のあるアクティビティガイド資格の保持や多言語能力(特にスイス公用語の一つである「ドイツ語」)、豊富な経験など、**厳しい要件を満たす必要**があります。

外国人ガイドの雇用

- 山岳ガイドを除き、**多くのアクティビティガイドは外国籍**です。
- 外国人ガイドは、**国籍に応じて必要な就労資格**の下、スイスで就業しています。
- これらの就労資格は、基本的に他の職業と同様の規定であり、**アドベンチャーアクティビティに特化した、外国人の入国や就労に関する規制はありません**(ただし、実際に就業する上では、各アクティビティに求められるガイド資格や要件を満たすことが必要です)。

国籍	スイスでの就労資格
EU圏	<ul style="list-style-type: none"> • 90日以内の就労であれば、ビザは不要。 • 90日以上の場合、居住許可証を取得する必要がある。
その他	<ul style="list-style-type: none"> • 就労ビザが必要。「専門的な職業」であることや大学卒業資格が求められるため、取得は困難。

(6) 提供 アクティビティガイドの給与

アクティビティガイドの給与

アクティビティガイドの給与形態は、時給・日給・月給またはツアーごとなど、ガイドにより様々です。アクティビティガイドの給与は他の職業と比較し高水準とは言えませんが、山岳ガイドの給与水準は比較的高くなっています。

ガイドの給与形態

- アクティビティガイドの給与形態としては、**時給、日給、月給、ツアー単位**が存在します。
- **フルタイム雇用者は月給制、パートタイム雇用者は時給制**のことが多いですが、**給与形態は必ずしも常に雇用形態により決まるわけではなく、個々のガイドによっても異なります。**
- 月給制の場合は、**オフシーズンにおいても稼働日数に関わらずアクティビティガイドが安定的な収入を得られる**というメリットがあります。
- 特定のアクティビティガイド事業者に所属していても、アクティビティの種類やガイド個人の事情により、**年間に数回しか稼働しないガイドも存在し、その場合は、ツアー単位での給与**となることも多いです。
- 給与とは別に**旅行者から貰えるチップが大きな収入源**となっているアクティビティガイドも存在します。

ガイドの給与水準

- スイスのアクティビティガイドの給与水準は、他の職業と比較して、必ずしも高水準とは言えません。例外として、**山岳ガイドは需要が供給を上回っており、給与は高水準**です。

【スイスにおけるアクティビティ毎のガイド給与水準例(※1)】

- 山岳ガイド
 - 日給: 550~740CHF (約69,000~92,000円)
 - 年収: 80,000~100,000CHF (約1,000万~1,200万円)
- ラフティング(※2)
 - 日給: 350CHF (約44,000円)
- ハイキング
 - 日給: 420CHF (約53,000円)

【参考】スイス国内平均年収

- 全業種: 64,800CHF (約810万円)
- 製造業: 77,200CHF (約965万円)
- 情報通信業: 104,700CHF (約1,300万円)

(6) 提供 アクティビティガイドの働き方

ガイドの働き方

アクティビティガイドは季節性の高い職業です。オールシーズンのフルタイム雇用者は繁忙期に休みなく集中的に働き、閑散期には所属するガイド事業者の事務仕事や他の職業に従事することもあります。期間雇用者(パートタイム雇用者)やフリーランスのガイドは、閑散期には他の職業や他の国でのガイド業に従事する傾向にあります。

フルタイムのガイドの働き方の実態

【年間の労働時間】

- 通常のアクティビティガイドは1年間で平均約350件のアクティビティ・ツアーのガイドを行います。
- 山岳ガイドは1つのツアー期間が長いこともあり、1年間で平均約60～70件のツアーのガイドを行います。

【シーズン別の働き方】

- 繁忙期
 - 夏と冬が繁忙期であり、その時期に集中的に働くのが一般的で、シーズン中は週7日間働くこともあります。
 - 複数のアクティビティの資格を保有しているガイドが多く、夏はラフティング(※)、冬はスキーなど、季節によって異なるアクティビティのガイドをすることも珍しくありません。
- 閑散期
 - フルタイム雇用者は、社内事務作業、写真加工、器具レンタルセンターでの勤務等を行い、フレキシブルに働きます。
 - (参考)パートタイム雇用者やフリーランスのガイドは、他の職業や他の国でのガイド業に従事する傾向にあります。

山岳ガイドの1日の働き方イメージ

- 以下は山岳ガイドの繁忙期の1日の働き方の例です。

時間	行動
旅前	待ち合わせ場所や旅行者の個人的な要望等についてチャット(「WhatsApp」等)でやり取り
04:00	朝食
04:45	ツアー参加者と合流
11:00	ツアー参加者と頂上に到着
15:00	ツアー参加者と山小屋に到着 ツアー参加者と食事
16:00	昼寝
18:00	ツアー参加者と翌日の予定の打ち合わせ
18:30	夕食
22:00	就寝
旅後	直後にツアー中の写真をチャットで共有。 過去にツアーに参加した旅行者にもツアーや自然の写真等をソーシャルメディアで共有。

(6) 提供 アクティビティガイドの採用・確保

アクティビティガイドの採用・確保

アドベンチャーツーリズム事業者によるガイドの採用活動は、一般的な採用プロセス同様、書類選考や面接を通じて、資格や言語能力、経験等を基準として選考が行われます。山岳ガイドを除くと、一般的に需要に対するガイドの供給数は多いため、事業者にとってガイドを手配することは難しくありません。

アクティビティガイドの採用

- 募集方法
 - ウェブ求人等の一般の職業と同様の方法で求人を行っています。
 - 一部事業者では雇用しているガイドの紹介でガイドを採用するリファラル採用も導入しています。
- 書類選考・面接
 - 書類選考及び面接と一般の職業と同様のプロセスで採用活動が行われます。
 - 書類選考ではスイス認可のアクティビティガイド資格、スイスでの就労ビザ、多言語能力(特にドイツ語)、運転免許(特にバス等を運転可能な大型免許)の保有を確認します。
- 採用難易度
 - 競争率が高く、特に経験者でないとフルタイムでの採用は難しい傾向にあります。
 - リファラル採用は、一般採用に比べ採用されやすく、事業者によってはほとんどがリファラル採用で雇用を決めています。

アクティビティガイドの確保

- 【山岳ガイドの確保】
 - 山岳ガイドの給与は比較的高いものの、資格取得に数年を要することや、高いリスクが伴うことなどから、需要に対する供給が不足しています。
 - シーズン中は長期間山で生活することも多いため、家庭を持つ人や外国籍の人には向いておらず、担い手が少ないことも理由の一つです。
- 【その他アクティビティガイドの確保】
 - スイスには外国籍のアクティビティガイドが多数存在し、求人応募も多いため、山岳ガイド以外のガイドの確保はそれほど難しくありません。
 - 他の職業と比較し、給与水準が低いため、スイス人の間では決して人気の高い職業ではありませんが、外国籍のガイドにとっては、スイスの給与水準は他国に比べると高く、金銭的なメリットがあります。
 - スイスには世界中から集まるガイドのコミュニティが形成されており、アクティビティガイドにとって居心地の良い環境があります。

(6) 提供 アクティビティガイドのキャリアパス

アクティビティガイドのキャリアパス

スイスのアクティビティガイドには、一般的に、昇進制度や昇給制度が存在せず、同水準の雇用条件で現場のガイドを続ける以外のキャリアパスは整備されていないため、長期間にわたりガイドとしてのキャリアを続ける人は多くありません。

アクティビティガイドのキャリアパスの現状

- スイスのアクティビティガイドは、他の職業と比較し給与水準が高くなく、昇進制度や昇給制度も基本的には存在しないため、キャリアを継続しても、同水準の雇用条件で現場のガイドを続ける以外のキャリアパスは整備されていません。そのため、長期間に渡って続けるガイドは少なく、ほとんどのガイドは、40代になる前にキャリアチェンジをします。
- ガイドの中には、そうしたキャリアパスの現状を踏まえ、20代の一時期に趣味の延長で数年間ガイドに従事した後「本業」につく人や、家族が出来てより多くの収入を求めキャリアチェンジを行う人が多数存在します。
- 一部のガイドは、家族を持つことよりもガイドとしてのキャリアを続けることを選び、健康状態や体力が維持できる限りガイド職を続ける人もいます。こうした人の中には、マネジメントガイドやリードガイドといったガイド職内で責任のあるポジションを目指す人もいますが、全体の中では圧倒的少数派です。

(6) 提供 アクティビティガイドの能力開発

アクティビティガイドの能力開発に関する取組方

スイスでは、国や業界の制度と事業者の社内制度の両方を通じて、ガイドの能力開発が積極的に行われています。例えば、OJTの実施や安全のための講習(年に一回)などがあります。

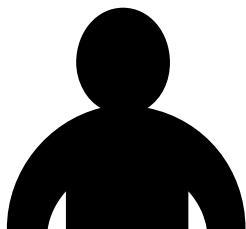
国の制度	資格取得時の 必須トレーニング	<ul style="list-style-type: none"> アクティビティガイドは法律(※2)で定められた資格取得の際、スイスアウトドア協会(※3)によるトレーニングを受ける必要があります。 トレーニングのプログラムには心理学等も含まれる場合があります。
事業者内の 制度	安全に関する 社内研修	<ul style="list-style-type: none"> 一部事業者ではアクティビティ時の安全を守るための研修を年に1度社内で行っています。 特に、バンジージャンプ、キャニオニング(※4)等の危険が伴うアクティビティのガイドはこの研修への参加は必須です。
	OJT(※1)	<ul style="list-style-type: none"> 事業者の中にはOJTを実施するところもあります。 実際の接客を行う前に先輩ガイドのアクティビティに参加し、現場での訓練を行います。
その他	自主学習	<ul style="list-style-type: none"> アクティビティガイドには上記のほか、地域の自然環境や文化、歴史への知識も求められます。 そのため、外国籍のガイドは特に経験豊富な同僚ガイドからの指導や、自主的な学習を通じて、それらの知識を習得しています。

出典:アドベンチャーツーリズムを扱うスイスの事業者・DMO・ガイドへのヒアリング

※1 On the Job Trainingの略。職場での実践を通じて行う職業教育 ※2「販売時に注意すべきリスク管理(法規制・認証制度)」に詳細記載 ※3 THE SWISS OUTDOOR ASSOCIATION(SOA)、スイスの法に従って運営されるアウトドア事業者の協会の協会であり、関係者に教育とトレーニングを提供している ※4渓谷を流れる川をボートやカヌーを使わずに下るアクティビティ

(6) 提供 アクティビティガイドの実際の例

アクティビティガイドA氏



【性別・年齢】男(30歳)

【国籍】スイス

【ガイド歴】6年

【雇用】フルタイム

【資格を保有するアクティビティ】

登山、ロッククライミング、スキーツーリング、アイスクライミング、スノーシューイング(※1)、フリーライド(※2)

【ガイドになった理由】

この土地に生まれ、この土地に育ちました。小さい頃からずっと山は生活の一部でした。人々に大好きな山を見せたいと思ってガイドになりました。

【ガイド職に関連する経験】

10歳のころから登山を始め、趣味としても続けています。国際山岳ガイド資格も保有しています。

【ガイドを続けるモチベーション】

この地を訪れる人に登山の精神を伝えたいと思っています。

アクティビティガイドB氏



【性別・年齢】女(33歳)

【国籍】英国・豪州

【ガイド歴】4年

【雇用】フルタイム

【前職】豪ラジオ放送

【資格を保有するアクティビティ】

ラフティング(※3)、スキー、バンジージャンプ、キャニオニング(※4)、そり、スノーシューイング

【ガイドになった理由】

元々アウトドアアクティビティが大好きで、それを職業にしたいと思いました。

【ガイド職に関連する経験】

ニュージーランドや英国においてもガイドをしていました。最初に資格を取ったのはラフティングでしたが、徐々に資格を増やしています。

【スイスでガイドとして働く中で感じている課題】

私は向上心があるので、昇進や昇給も含め、ガイドのキャリアパスが確立されていないことを残念に思います。また、女性ガイドが男性ガイドと対等に扱われないことを身をもって体感しており、女性ガイドの立場が低いことを残念に感じています。

出典:アドベンチャーツーリズムを扱うスイスの事業者・DMO・ガイドへのヒアリング
※1 スノーシューを履いて雪原や森をハイキングするアクティビティ ※2 自然のままの地形を滑り、テクニックやスタイルを競うアクティビティ ※3 ラフトを使用し、川下りをおこなうレジャーアクティビティ ※4 渓谷を流れる川をボートやカヌーを使わずに下るアクティビティ

目次

I. 顧客像調査編

II. スイス編

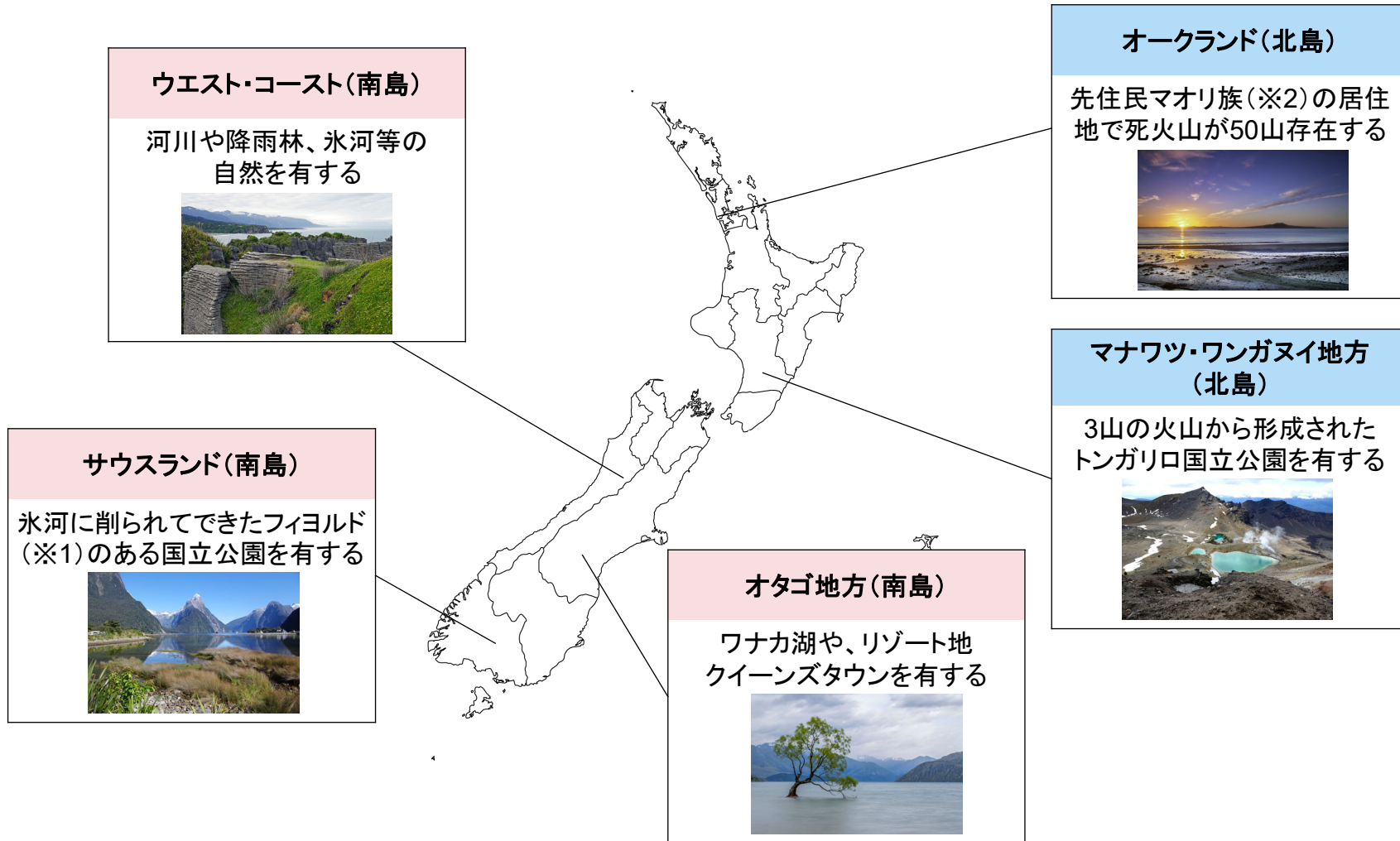
III. ニュージーランド編

1章 アドベンチャーツーリズムの特徴

2章 アドベンチャーツーリズムに対する取組内容

ニュージーランド全体のアドベンチャーツーリズム像

アドベンチャーツーリズムが提供されている代表的なエリア



出典: 100% PURE NEW ZEALAND、各種文献調査
※ 画像はPixabayから取得 ※1 氷河による浸食作用によって形成された複雑な地形の入り江
※2 ニュージーランドにイギリス入植前から住むポリネシア系の先住民

ニュージーランドの主な調査結果サマリー

【旅行者の属性】

- 独特の地形と自然資源を持つニュージーランドでは、様々なアクティビティが盛んですが、特にハイキングやサイクリング、水上スポーツが人気です。
- 新型コロナウイルス感染症の拡大前は、国外から多くの旅行者が訪れており、特に南島では、全体の約80%が米国からの旅行者でした。

【推進体制】

- コンテンツ作成から販売までコンテンツサプライヤーが行います。ニュージーランド政府観光局や地域のDMO(※)は、情報発信や販売活動において個々の事業者をサポートしています。

【リスク管理】

- アクティビティで使用する土地の多くは、ニュージーランド自然保護局によって保護・管理されており、厳しい規制が存在しています。土地の使用許可を得るためには、環境保全のための計画作成・提出や環境損害に対する第三者損害賠償保険への加入など、様々な対応を取る必要があります。
- リスク管理に関する情報サイトの運営や事業者の品質に関する称号「Qual mark」の付与など、国としてアドベンチャーツーリズムの品質管理・向上に取り組んでいます。

【アドベンチャーツーリズムに関わるガイドの確保・育成】

- ニュージーランドのアドベンチャーツーリズムでは、特定のアクティビティを担当するアクティビティガイド及びスルーガイドが旅行者の案内を担います。
- 法令上義務付けられたアクティビティガイドの資格はなく、様々な雇用形態、給与形態、働き方のガイドが存在しています。
- アクティビティ事業者に、フルタイム又はパートタイムで雇用されているガイドも存在しますが、ツアー単位で契約が可能なフリーランスも同数程度存在します。夏と冬の繁忙期に集中して働き、閑散期は別の職業に従事するガイドがほとんどです。
- アクティビティガイドの給与は基本的に高くはなく、繁忙期・閑散期に関わらず別の職業を掛け持ちすることが一般的です。年齢が若い内の数年間だけガイド職に従事する人が多く、長期間にわたりガイドを続ける人は多くありません。ニュージーランド全体として慢性的に人材不足であり、アクティビティガイドが新しい仕事を見つけることは難しくありません。

※ DMOとは、Destination Management/Marketing Organizationの略称。日本では、「観光地域づくり法人」と呼ばれ、観光地域づくりの舵取り役を担う法人と位置付けられている。

目次



-
- I. 顧客像調査編
 - II. スイス編
 - III. ニュージーランド編

1章 アドベンチャーツーリズムの特徴

2章 アドベンチャーツーリズムに対する取組内容

ニュージーランドにおける主力地域の特徴： 南島の紹介(1/3)

地域の概要

<p>主な アドベンチャー ツーリズム資源</p>	<ul style="list-style-type: none"> • フィヨルド(※1) • アルプス • 湖 	<p>所在地</p>	
<p>主要エリア</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 「ウェスト・コースト」、「サウスランド」、「オタゴ」(「ワナカ」、「クイーンズタウン」)、等 		
<p>地域の概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 南北には南アルプス山脈が存在し、南西部はフィヨルド地形となっています。 • 山岳エリアの他にもビーチや森林があり、多様な自然資源があります。 • 自然を活かしたハイキング・トレッキング・サイクリングに加え、ウィンタースポーツも盛んです。 		
<p>地域の魅力</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 総面積約26,000km²に及ぶ4つの国立公園と保護区に加え、イギリス等からの移民によって開拓された文化や街並みが魅力です。 		
<p>代表的な アクティビティ</p>	<ul style="list-style-type: none"> • ハイキング/トレッキング <ul style="list-style-type: none"> - ニュージーランドでは数千キロに及ぶ自然歩道が整備され、南島には、自然歩道を代表する9つの「グレート・ウォーク(※2)」の内、6つがあります。 - 所要日数が3~6日間となる初級から中級向けの30~80kmのトラックが複数あります。 • サイクリング/マウンテンバイク <ul style="list-style-type: none"> - ニュージーランドでは23本のサイクルトレイル「グレート・ライド(※3)」が存在し、南島にはクライストチャーチ等を中心に、その内の約半数のサイクルトレイルがあります。 - 「クイーンズタウン」、「ウェストコースト」はマウンテンバイクトレイルが有名です。 • 水上スポーツ <ul style="list-style-type: none"> - 「ワナカ湖」や「ネルソン」(※4)では、ジェットボート、セイリング、カヤック等が盛んに行われています。 	<p>エリアのイメージ(※5)</p> 	

出典:アドベンチャーツーリズムを扱うニュージーランドの事業者・DMO・ガイドへのヒアリング、「タビトモ ニュージーランド」
 ※1 氷河による浸食作用によって形成された複雑な地形の入り江 ※2 ニュージーランド自然保護局に管理されている9コースの自然遊歩道 ※3 サイクリング用ルートのうち代表的な23コース ※4 南島の北西に位置する海に面した都市
 ※5 画像はPixabayから取得

ニュージーランドにおける主力地域の特徴： 南島の紹介(2/3)

アドベンチャーツーリズムの特徴に関する現地関係者ヒアリング結果(1/2)

顧客属性

<新型コロナウイルス感染症の拡大前>

- 約80%の旅行者は米国人であり、約15%はカナダ人旅行者でした。
- その他では、オーストラリア・フランス・イギリス人旅行者といった西欧諸国からの旅行者が多く、ごく少数がアジア人旅行者でした。
- 顧客属性により、好まれるアクティビティには以下のような傾向がありました。
 - バンジージャンプ、ジップライン(※1)：米国・カナダ・アジア人旅行者に好まれる傾向があります。
 - スカイダイビング：30～45歳の比較的若い世代、特に中国とオーストラリア人旅行者に人気があります。
 - カヌー、ラフティング(※2)：若い世代に好まれる傾向にあります。
- 事前にアクティビティやツアーを予約する旅行者が多く、特にアジア人旅行者は1年ほど前から予約する傾向にあります。

<新型コロナウイルス感染症の拡大後>

- 長期間にわたり国境が閉鎖されているため、感染拡大後は、旅行者のほぼ100%がニュージーランド人(または在住者)です。ニュージーランドは欧州等からの移民が多く、ニュージーランド出身ではない国内の旅行者も多くいます。

ニュージーランドにおける主力地域の特徴： 南島の紹介(3/3)



アドベンチャーツーリズムの特徴に関する現地関係者ヒアリング結果(2/2)

滞在日数	<ul style="list-style-type: none">・ 米国やカナダ人旅行者の場合、ニュージーランドでは2週間ほどの滞在が一般的です。一方、団体ツアー等を利用し、長距離バスで移動する旅行者が多く、一か所あたりでの滞在日数は短い傾向にあります。・ ニュージーランドから比較的近いオーストラリア及びアジア人旅行者は、ニュージーランドでの滞在期間が北米からの旅行者と比べて短い傾向にあります。
中心的な価格帯(※)	<ul style="list-style-type: none">・ 旅行者の支出額の傾向は、体験するアクティビティやツアー形態により異なります。 ＜1アクティビティ・ツアーに対する支出額の例(※1)＞<ul style="list-style-type: none">- 複数日に渡るツアー<ul style="list-style-type: none">・ 14日間の行程が決まっているツアー：3,000～10,000USD(約35～115万円)・ 14日間のカスタムが可能なツアー：12,000～15,000USD(約138～173万円)- アクティビティ<ul style="list-style-type: none">・ ラフティング(※2)：160～270NZD(約12,000～20,000円)・ スカイダイビング：300～600NZD(約22,000～46,000円)・ その他のアクティビティ：199NZD(約15,000円)

出典：アドベンチャーツーリズムを扱うニュージーランドの事業者・HQS・ガイドへのヒアリング
※1 2022年2月時点レート(1USD(米ドル)=115円、1NZD(NZドル)=76円)を使用 ※2 ラフトを使用し、川下りをおこなう
レジャーアクティビティ

ニュージーランドにおける主力地域の特徴： 北島の紹介(1/3)

地域の概要

主な アドベンチャー ツーリズム資源	<ul style="list-style-type: none"> 火山 洞窟 海 	所在地	
主要エリア	<ul style="list-style-type: none"> 「オークランド」、「マナワツ・ワンガヌイ」(「トンガリロ国立公園」)、等 		
地域の概要	<ul style="list-style-type: none"> ニュージーランド最大の都市である「オークランド」を含むエリアです。 「トンガリロ」、「ナウルホエ」、「ルアペフ」の3火山を中心とした「トンガリロ国立公園」や「ワイトモ鍾乳洞」があり、火山や洞窟等の独特な自然環境が特徴です。 		
地域の魅力	<ul style="list-style-type: none"> 南島と比べて気候が温暖であり、夏に行われるアドベンチャーアクティビティを冬においてもできることが魅力の一つです。 また、北島に根付く先住民マオリ族(※1)の文化に触れられることが特徴です。 		
代表的な アクティビティ	<ul style="list-style-type: none"> ハイキング/トレッキング <ul style="list-style-type: none"> 北島はニュージーランドの自然歩道を代表する9つの「グレート・ウォーク(※2)」の内、3つがあります。 日帰りで参加可能なハイキングコース「トンガリロ・アルパイン・クロッシング」から、数日間を要するコースなど、様々なコースが存在しています。 ケービング(※3) <ul style="list-style-type: none"> 「ワイトモ洞窟」や「アラヌイ洞窟」等複数の洞窟が点在し、その中で徒歩やボートで行うケービングが人気です。 アブセイリング(※4)や暗闇の中でジップライン(※5)をすることも可能です。 水上スポーツ <ul style="list-style-type: none"> 144の島々からなる「アイランズ湾」をはじめ、沢山の島を持つため、カヤック、シュノーケリング等様々な水上スポーツの体験ができます。 	エリアのイメージ(※6) 	

出典：アドベンチャーツーリズムを扱うニュージーランドの事業者・DMO・ガイドへのヒアリング、「タビトモ ニュージーランド」
 ※1 ニュージーランドにイギリス入植前から住むポリネシア系の先住民
 ※2 ニュージーランド自然保護局に管理されている9コースの自然遊歩道 ※3 洞窟や鍾乳洞の探索
 ※4 斜度の急な岩場をロープを使用し降りるアクティビティ ※5 森の中等に架けられたワイヤーロープを滑車で滑り降りるアクティビティ ※6 画像はPixabayから取得

ニュージーランドにおける主力地域の特徴： 北島の紹介(2/3)

アドベンチャーツーリズムの特徴に関する現地関係者ヒアリング結果(北島の例)(1/2)

顧客属性

<新型コロナウイルス感染症の拡大前>

- 全体の約80~100%のツアー参加者が外国人旅行者で、特に北米の旅行者が多く、次に多いのが欧州やオーストラリア人旅行者でした。
- 外国人旅行者の約20%を占めるアジアからの旅行者では、シンガポール、香港、マニラ、中国人旅行者が多くを占めていました。
- ニュージーランドの物価が高いためハイエンドな旅行者が多く、外国人旅行者の新婚旅行にも選ばれやすい特徴があります。

<新型コロナウイルス感染症の拡大後>

- 長期間にわたり国境が閉鎖されているため、感染拡大後は、旅行者のほぼ100%がニュージーランド人(または在住者)です。ニュージーランドは欧州等からの移民が多く、ニュージーランド出身ではない国内の旅行者も多くいます。
- また、国境が閉鎖されていることで今まで国外旅行をしていたニュージーランド内の富裕層が、日常とは違うアドベンチャーを求め、比較的安全なアドベンチャーアクティビティ体験を嗜好する傾向があります。

ニュージーランドにおける主力地域の特徴： 北島の紹介(3/3)

アドベンチャーツーリズムの特徴に関する現地関係者ヒアリング結果(北島の例)(2/2)

<p>滞在日数</p>	<ul style="list-style-type: none"> 外国人旅行者はニュージーランドの様々なエリアを周遊するため、一か所の滞在日数が短い傾向にあります。 朝からアドベンチャーアクティビティやツアーを体験し、半日や1日で終わり次第、また別のエリアへ移動することも一般的です。
<p>滞在先選択の傾向(※)</p>	<ul style="list-style-type: none"> アドベンチャーツーリズムでは、複数人で同部屋となる団体ツアーもありますが、高くても個人的な空間を確保したいと考える旅行者が一般的であり、旅行者の滞在先選択傾向は以下の通り、大きく2つに整理できます。 <ul style="list-style-type: none"> 一般的なアドベンチャーツーリズム旅行者の場合、一泊約200～600USD(約23,000～69,000円)ほどのホテルに滞在します。 対して、ハイエンドなアドベンチャーツーリズム旅行者の場合、約500～1,000USD(約58,000～120,000円)ほどの比較的高級なホテルを利用します。一泊約1,500NZD(約170,000円)ほどの5つ星ホテルでの滞在が組み込まれているツアーもあります。
<p>中心的な価格帯(※)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 旅行者の支出額の傾向は、体験するアクティビティやツアー形態により異なります。 <p><1アクティビティ・ツアーに対する支出額の例(※)></p> <ul style="list-style-type: none"> サイクリング(ガイド無)：100NZD(約7,600円) サイクリング(ガイド有)：600NZD(約46,000円) カヤック(ガイド有)：390NZD(約30,000円) ハイエンド旅行者を対象としたハイキングや文化体験：980NZD(約75,000円)

出典：アドベンチャーツーリズムを扱うニュージーランドの事業者・HQS・ガイドへのヒアリング
 ※ 2022年2月時点レート(1USD(米ドル)=115円、1NZD(NZドル)=76円)を使用

ニュージーランドにおける主力地域のツアー例①: Great Walks Discovery ‘Takahe’ (南島)(1/3)

ツアー例①の概要

ツアー概要

ツアー名		「Great Walks Discovery ‘Takahe’」
ツアー内容	価格(※1)	約3,499USD(約40万円)
	日数	4泊
	提供時期	1~3月頃
	難易度	中
付随特典	保険有無	不明
	食事有無	有(3食全て)
	宿泊有無	有(クルーズ船、ロッジ)
ツアーの特徴		<ul style="list-style-type: none"> ニュージーランドを代表する自然歩道「グレート・ウォーク(※2)」全9つの内、3つを体験するツアー フィヨルド(※3)やアルプス、湖などニュージーランド独特の地形や風景を楽しむことができます

ツアー内容・エリアのイメージ(※4)



出典:「Active Adventures」ウェブサイト

※1 2022年2月時点レート(1USD(米ドル)=115円、1NZD(NZドル)=76円)を使用

※2 ニュージーランド自然保護局に管理されている9コースの自然遊歩道 ※3 氷河による浸食作用によって形成された複雑な地形の入り江 ※4画像はPixabayから取得

ニュージーランドにおける主力地域のツアー例①: Great Walks Discovery ‘Takaha’ (南島) (2/3)

ツアー例①の行程(1/2)

日程	時間	所要時間	アクティビティ				主な活用資源	詳細
			ハード	ソフト	その他	主な内容		
1日目	-	1夜		○	○	クルーズ カヤック ペンギン鑑賞	フィヨルド (※1)・湖・海	<ul style="list-style-type: none"> マナポウリ湖からフィヨルドの「ダウトフルサウンド」にかけてのクルーズ 「ダウトフルサウンド」ではカヤックやペンギンを鑑賞 クルーズ船で一夜を過ごすプラン。オプションで個室へのアップグレードが可能
2日目	朝	-		○		クルーズ	海・湖	<ul style="list-style-type: none"> 1日目のルートに戻り、マナポウリ湖に到着
	-	3-4H		○		ハイキング	山・森林・丘	<ul style="list-style-type: none"> ニュージーランドの「グレートウォーク(※2)」の1つ、「ルートバーン・トラック」でのハイキングツアー 3つの丘や世界遺産の「ミルフォード・サウンド」を望むことができるツアー
3日目	-	3-4H		○		ハイキング	山・森林	<ul style="list-style-type: none"> ニュージーランドの「グレートウォーク」の1つ、「ミルフォード・トラック」でのハイキングツアー シダや苔で覆われた森林やアダ湖での景観を楽しむ
	-	2H		○		クルーズ	フィヨルド・海	<ul style="list-style-type: none"> ハイキングの合間にはボートでフィヨルド周辺の自然観察が可能なクルージング
	-	-		○		ハイキング	フィヨルド	<ul style="list-style-type: none"> ハイキングコースとしてはマイナーな東部のフィヨルド地域でのハイキング

出典: 出典:「Active Adventures」ウェブサイト
 ※1 氷河による浸食作用によって形成された複雑な地形の入り江
 ※2 ニュージーランド自然保護局に管理されている9コースの自然遊歩道

ニュージーランドにおける主力地域のツアー例①: Great Walks Discovery ‘Takahe’ (南島)(3/3)

ツアー例①の行程(2/2)

日程	時間	所要時間	アクティビティ				主な活用資源	詳細
			ハード	ソフト	その他	主な内容		
4日目	-	-			○	鳥観察	鳥	<ul style="list-style-type: none"> 「テ・アナウ」の「バードライフパーク」で保護された希少な鳥の観察
	-	2-3H					森林・谷	<ul style="list-style-type: none"> ニュージーランドの「グレートウォーク(※1)」の1つ、「ケプラー・トラック」でのハイキングツアー 古代ブナやマキの森林でのハイキング
5日目	-	4-5H		○	○	ハイキング、マオリ族(※2)文化体験	山	<ul style="list-style-type: none"> 「ボブス・ピーク展望台」をスタート地点としたハイキングツアー 「アルプス」や湖、「クイーンズタウン」の絶景のパノラマビューを楽しむ 時間に余裕を持たせているため、周辺でランチや先住民マオリ族文化体験などを楽しむことも可能

出典: 出典:「Active Adventures」ウェブサイト
 ※1 ニュージーランド自然保護局に管理されている9コースの自然遊歩道
 ※2 ニュージーランドにイギリス入植前から住むポリネシア系の先住民

ニュージーランドにおける主力地域のツアー例②: Old Ghost Road Mountain Bike Adventure (南島)(1/3)

ツアー例②の概要

ツアー概要

ツアー名		Old Ghost Road Mountain Bike Adventure
ツアー内容	価格(※1)	約1,563USD(約18万円)
	日数	4泊
	提供時期	2~3、11月頃
	難易度	高
付随特典	保険有無	無
	食事有無	有(一部ランチ除く)
	宿泊有無	有(小屋、ロッジ、モーター)
ツアーの特徴		<ul style="list-style-type: none"> 緊急時対応が可能なガイド付きの高難度マウンテンバイクツアー 南島の有名なトレイルを走行し、山や溪谷を満喫できる体験を提供しています 自動車道が整備されていない手つかずの自然な場所での活動が主となるため、体力とマウンテンバイクのスキルが求められます

ツアー内容・エリアのイメージ(※2)



出典:アドベンチャーツーリズムを扱うニュージーランドの事業者・DMO・ガイドへのヒアリング
 ※1 2022年2月時点レート(1USD(米ドル)=115円、1NZD(NZドル)=76円)を使用 ※2 画像はPixabayから取得

ニュージーランドにおける主力地域のツアー例②： Old Ghost Road Mountain Bike Adventure (南島)(2/3)

ツアー例②の行程(1/2)

日程	所要時間	走行距離	アクティビティ				主な活用資源	詳細
			ハード	ソフト	その他	主な内容		
1日目	-	50km	○			マウンテンバイク	丘	<ul style="list-style-type: none"> 「ポート・ヒルズ」でのウォーミングアップ 南アルプス山頂やリッテルトン港周辺の海を眺めることが可能
			○			マウンテンバイク	森林・丘	<ul style="list-style-type: none"> 「クライストチャーチアドベンチャーパーク」にてコースを複数回走行
					○	ランチ	-	<ul style="list-style-type: none"> 「クライストチャーチアドベンチャーパーク」内のレストランでのランチ休憩
			○			マウンテンバイク	平地・峠	<ul style="list-style-type: none"> 「カンターベリー・プレインズ」と呼ばれる平地及び峠の「ポーターズ・パス」を通る
					○	ディナー	-	<ul style="list-style-type: none"> 宿泊場所のロッジでホストによる手作りのディナー
2日目	-	40km	○			マウンテンバイク	森林・丘	<ul style="list-style-type: none"> ロッジ併設のトレイル走行後に「クレイジーバーンの森」でのアクティビティを実施 「ホグス・バック」などの5つのコースから好きなコースを選ぶことが可能
			○			マウンテンバイク	森林・村	<ul style="list-style-type: none"> トレイル走行後は南アルプスや「アーサーズ・パス村」を通過し、宿泊地である西海岸の小さな町「リーフトン」に向かって走行
					○	ディナー	-	<ul style="list-style-type: none"> 町の伝統的なパブにて食事とビールを提供

ニュージーランドにおける主力地域のツアー例②: Old Ghost Road Mountain Bike Adventure (南島)(3/3)

ツアー例②の行程(2/2)

日程	所要時間	走行距離	アクティビティ				主な活用資源	詳細
			ハード	ソフト	その他	主な内容		
3日目	6-8H (走行時間)	30km	○			マウンテンバイク	山・森林・丘・谷	<ul style="list-style-type: none"> 歴史的な金鉱の町ライルから専用トレイルの「オールド・ゴースト・ロード」を800mほど上昇 狭く岩肌の道を走行し、「モンゴメリー山」の斜面を横切る
					○	ディナー	-	<ul style="list-style-type: none"> 標高1,200mの場所で山や湖を眺めながらガイドの手料理を楽しむディナー
4日目	6-9H (走行時間)	38km	○			マウンテンバイク	山・森林・川・丘・谷・平地	<ul style="list-style-type: none"> 「シュルテン溪谷」や「ボーンヤード」と呼ばれる平地を蛇行したり、急降下しながら進み、「マキヒヌイ川」の南支点まで走行 次にマキ森林を通り、3km下流のマキヒヌイ側の源流まで走行するハードな体験
					○	ディナー	-	<ul style="list-style-type: none"> 川の近くの景色を楽しみながら、ガイドの手料理を食べる
5日目	2-4H (走行時間)	17km	○			マウンテンバイク	山・森林・川・谷	<ul style="list-style-type: none"> 「マキヒヌイ川」から高低差の激しい道を通り、かつての鉱夫たちが通っていた道をトレイルの終点まで走行
					○	軽食	-	<ul style="list-style-type: none"> ロッジでシャワーを浴び、軽食を楽しんだ後、「クラストチャーチ」までの送迎

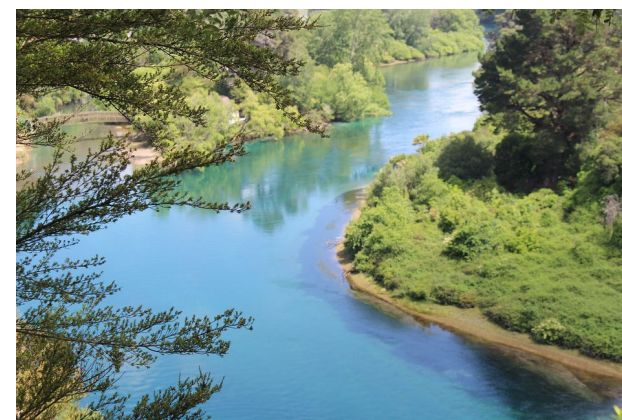
ニュージーランドにおける主力地域のツアー例③： North Island Adventure(北島)(1/3)

ツアー例③の概要

ツアー概要

ツアー名		North Island Adventure
ツアー内容	価格(※1)	約2,770USD(約32万円)
	日数	4泊
	提供時期	1月~5月、8月~12月
	難易度	中
付随特典	保険有無	不明
	食事有無	有(三食全て)
	宿泊有無	有(ホテル、ロッジ)
ツアーの特徴		<ul style="list-style-type: none"> • 様々なアクティビティを通じて北島の名所を楽しむツアー • 丸一日のハイキング、マウンテンバイク、ケービング(※3)など、体力が必要 • アクティビティには代替オプションが用意されており、参加者に応じて調整が可能

ツアー内容・エリアのイメージ(※2)



出典:「Hiking New Zealand」ウェブサイト
 ※1 2022年2月時点レート(1USD(米ドル)=115円、1NZD(NZドル)=76円)を使用 ※2 画像はPixabayから取得
 ※3 洞窟や鍾乳洞の探索

ニュージーランドにおける主力地域のツアー例③： North Island Adventure(北島)(2/3)

ツアー例③の行程(1/2)

日程	時間	所要時間	アクティビティ				主な活用資源	詳細
			ハード	ソフト	その他	主な内容		
1日目	-	3-4H		○		ハイキング	山・森林	<ul style="list-style-type: none"> 「ルアペフ火山」や「タラナキ火山」を望むことができるトレイルのハイキングツアー 「オークランド」からハイキングをスタートし、先住民マオリ族(※)の文化の中心である「ロトルア」までハイキング
2日目	-	3H	○			マウンテンバイク	山・森林・地熱地帯	<ul style="list-style-type: none"> 「タウポ火山」の地熱地帯である「ファカレワレワ」の森林内のトレイルでのマウンテンバイク 参加者それぞれのマウンテンバイクのレベルに合わせて体験
	-	-			○	ランチ	-	<ul style="list-style-type: none"> 「ファカレワレワ」の森林内でのピクニック
	-	-			○	自然体験	地熱地帯・間欠泉・温泉	<ul style="list-style-type: none"> 「ロトルア」を代表する観光名所「テプイア」で間欠泉と地熱地帯や泥温泉の見学
	-	-			○	ディナー文化体験	地熱地帯	<ul style="list-style-type: none"> 地熱を活かした先住民マオリ族伝統のハンギ料理を、マオリ族の伝統的なパフォーマンスを鑑賞しながら食べる
3日目	-	3H		○		ハイキング	山・森林・湖	<ul style="list-style-type: none"> 「ロトルア」の南にある「レインボーマウンテン」の原生林を通り、火口湖を望むことができるハイキングツアー
	-	1H		○		ハイキング	川・湖	<ul style="list-style-type: none"> ランチ後、ニュージーランドで最長の川、「ワイカト川」沿いを歩き、北島の心臓と呼ばれる「カルデラ湖」を臨む

ニュージーランドにおける主力地域のツアー例③： North Island Adventure(北島)(3/3)

ツアー例③の行程(2/2)

日程	時間	所要時間	アクティビティ				主な活用資源	詳細
			ハード	ソフト	その他	主な内容		
4日目	-	8H		○		ハイキング	山・湖・森林・地熱地帯	<ul style="list-style-type: none"> ニュージーランドで最良と言われているハイキングコース、「トンガリロ・アルパイン・クロッシング」での日帰りハイキングツアー 「トンガリロ国立公園」を歩き、エメラルドレイクや溶岩といった独特の景色を楽しむことができる 体力に自信のない人のためには別のルートも提供
	-	-			○	温泉体験	地熱地帯	<ul style="list-style-type: none"> 地熱から出る自然温泉での温泉体験
5日目	-	2H	○			ケービング(※)	洞窟	<ul style="list-style-type: none"> 「ワイトモ洞窟」探検 地下の川で浮き輪を使って流れる、滝を滑り落ちる等のスリリングな体験 安全のため、参加者はヘルメットやウェットスーツの着用が必須 ケービングを望まない人のためにウォーキングのオプションも用意

目次

I. 顧客像調査編

II. スイス編

III. ニュージーランド編

1章 アドベンチャーツーリズムの特徴

2章 アドベンチャーツーリズムに対する取組内容

(1) 体制整備 関係者の全体像と役割(1/2)

ニュージーランドでは、アドベンチャーツーリズムのツアー提供にあたり、コンテンツサプライヤーが主体となっています。ニュージーランド政府観光局やDMOは、コンテンツ造成や環境整備、情報発信において役割分担を行いながら、ツアー事業者をサポートしています。

◎ : 主体として携わっている
○ : 関与している
空白 : 関与していない

業務領域	1 コンテンツ造成	2 環境整備	3 情報発信	4 販売	5 提供
ニュージーランド政府観光局	○ (トレンド等のデータを提供)	○ (使用許可発行等)	◎ (国内全体の情報発信等)	○ (「Qual Mark(※1)」の付与等)	
DMO(※2)	○ (トレンド等のデータ提供)	○ (規制等の情報提供等)	◎ (エリアの情報発信)		
コンテンツサプライヤー	◎ (商品造成等)	◎ (土地使用許可取得等)	◎ (営業活動の実施等)	◎ (価格設定、販売等)	◎ (ガイド雇用、商品提供等)
ランドオペレーター				○ (販売)	
ガイド					◎ (商品提供、緊急時対応等)

出典: アドベンチャーツーリズムを扱うニュージーランドの事業者・DMO・ガイドへのヒアリング
 ※1 P34,35「リスク管理: 法規制」にて詳細説明有 ※2 Destination Management Organization(デスティネーション・マネジメント・オーガニゼーション)の頭文字の略。

(1) 体制整備 関係者の全体像と役割(2/2)

ニュージーランドでは、コンテンツ造成から提供までを一貫して行うコンテンツサプライヤーが多くいます。多くのアドベンチャーツーリズム事業者は、ニュージーランド政府観光局及びDMOのサポートを得ることでより幅広い顧客へ安心して安全な商品の提供を実現しています。

* 前のページで◎がついている関係者を記載

主な推進フェーズ	関係者*	機能・役割概要
1 コンテンツ造成	コンテンツ サプライヤー	<ul style="list-style-type: none"> 予約管理システムを使用した顧客データの統合・蓄積に加え、販売時のキャンペーンで登録される参加者のデータを蓄積・分析し、コンテンツに反映しています。 ニュージーランド政府観光局から提供される、ターゲット市場に関するデータ等を活用し、コンテンツ造成を行うことがあります。
2 環境整備	コンテンツ サプライヤー	<ul style="list-style-type: none"> 行政機関や土地所有者から土地の許可を取得し、環境整備を行います。
3 情報発信	ニュージー ランド 政府観光局 DMO(※2)	<ul style="list-style-type: none"> ニュージーランドで過ごす休暇の魅力を、様々な国に向けて発信しています。また、「100% Pure New Zealand」(※1)を運営し、集客をしています。 国内の事業者と国外の旅行会社がマッチングできる商談会を開催しています。 特定地域に関する情報発信を行います。
	コンテンツ サプライヤー	<ul style="list-style-type: none"> ターゲット市場や顧客を設定し、主にデジタルメディアを活用した情報発信を行います。
4 販売	コンテンツ サプライヤー	<ul style="list-style-type: none"> コスト、競合の価格設定、提供価値等を考慮した価格設定を行います。 ウェーバーフォーム(※3)の使用や保険の加入等を通じて、販売時のリスク管理を徹底しています。
5 提供	コンテンツ サプライヤー	<ul style="list-style-type: none"> ガイドを雇用し、アクティビティの技術や安全性の向上に向けた育成を行います。 多くの事業者が、安全性に関するガイドラインを用意し、毎年講習会を実施しています。
	ガイド	<ul style="list-style-type: none"> 顧客が満足できる商品の提供に貢献し、緊急時の対応も行います。

出典:アドベンチャーツーリズムを扱うニュージーランドの事業者・DMO・ガイドへのヒアリング

※1 ニュージーランド政府観光局によるニュージーランド旅行者向け情報サイト

※2 DMOとは、Destination Management/Marketing Organizationの略称。日本では、「観光地域づくり法人」と呼ばれ、観光地域づくりの舵取り役を担う法人と位置付けられている。

※3 免責同意書

(2) コンテンツ造成 顧客市場の調査・分析に関する取組内容

ニュージーランドでは、アドベンチャーツーリズム事業者が、自社の顧客情報に基づき、独自で市場動向等を分析することが一般的です。ニュージーランド政府観光局及び各地域のDMOも、対象市場のマクロな情報やアドバイスを事業者提供しています。

事業者による データ収集・顧客 市場分析の目的

- ・ 顧客ニーズの把握とニーズを訴求したコンテンツの造成の実現
- ・ ターゲットの明確化とそれに基づく集客の実現

プレーヤー	主に収集・分析する情報種類	情報収集・分析のアプローチ・活用方法
ニュージーランド 政府観光局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 対象市場のマクロな動向（人気の旅行先、嗜好される旅行内容、等） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ターゲットである旅行者の傾向把握のため、競合市場が選ばれる理由等について調査し、情報の蓄積をしています。例えば、「なぜ北米旅行者は日本でスキーを行うのか」についてリサーチをしています。 ・ 上記のようなデータ収集は規模やコストの観点から個々の事業者には難しいため、国内の事業者に情報を共有しています。
DMO(※)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 管轄エリアを訪れる旅行者に関するマクロな動向 ・ 国の規制など、事業者には有益な情報 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 管轄エリアを訪れる旅行者の市場に関する動向を調査し、事業者へ情報共有を行います。 ・ また、アドベンチャーツーリズム関連の規制等に関する動向についても、地域の事業者に情報提供を行います。
事業者 (活動の主体)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個々の顧客のミクロな情報 ・ 上記に基づく対象市場の動向 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ツアーの予約時に様々な個人情報を入力してもらい、顧客データをデータベースとして蓄積することで、ターゲティングや情報発信の材料としています。特にリピート客の情報が重視されています。 ・ 多くの事業者は予約管理システムで顧客情報を一括管理しています。 ・ また、ツアー予約者のデータ以外にも、当選者が出るようなキャンペーンを実施し、応募した顧客のデータを分析に活用しています。

出典：アドベンチャーツーリズムを扱うニュージーランドの事業者・DMO・ガイドへのヒアリング
 ※ DMOとは、Destination Management/Marketing Organizationの略称。日本では、「観光地域づくり法人」と呼ばれ、観光地域づくりの舵取り役を担う法人と位置付けられている。

(2) コンテンツ造成 アドベンチャーツーリズムの「体験価値」

ニュージーランドを訪れるアドベンチャーツーリズム旅行者は、「非日常的な体験」や「その土地ならではのストーリー」を求めており、「自然」や「文化」を強く感じることでできるコンテンツが人気です。

アドベンチャーツーリズムの体験価値

- 数年前まではアクティビティのみを主目的とする旅行者が多く存在していましたが、近年では「非日常的な体験」や「その土地ならではのストーリー」を求める旅行者が増えています。
- そのようなトレンドの中で、アドベンチャーツーリズム事業者は、「文化的体験」や「安全な冒険」、「複数の体験の組み合わせ」等を付加価値としたコンテンツを造成し、旅行者のニーズに対応しています。
- 「非日常的な体験」や「その土地ならではのストーリー」への取組の代表例としては、以下のようなものが挙げられます。
 - 「非日常的な体験」をする(以下、实例参考)
 - 日常では経験しない、少し「危険」な体を動かすアクティビティを自然の中で体験する
 - ハイキングに体力的なハードルを感じ、挑戦できなかった層を「自然の中での健康的なウォーキング」と称したアクティビティで取り込む
 - その地域ならではの「自然」や「文化」が学べる(以下、实例参考)
 - 地域に根付くアールデコの建築物の見学をサイクリングツアーの一部として体験する
 - 地元のワインセラーをサイクリングで巡るツアーを体験する
 - 先住民のマライ民族と実際に話し、マライの文化や歴史について学ぶ
 - カヤックのアクティビティ体験時に、土地の形状や自然環境についての説明を受ける

(3) 環境整備 自然環境の活用に向けた整備

ニュージーランドにおいても、アクティビティに使用予定の土地について、所有者や管理者等から許可を得る必要があります。国立公園や先住民の居住エリアには特別な規制があり、事前承認が必須となる場合が多く、承認プロセスには数年を要することもあります。

自然環境の利用における取組

- アドベンチャーツーリズムで使用される土地の多くは、**行政機関や個人によって所有・管理**されており、**所有者が複数にまたがるケースも多く存在**します。
- 新規でアクティビティやツアーを造成する場合、**利用したい土地の所有者や管理者である行政機関または個人から許可を得る必要**があります。
- **承認プロセスは長期間にわたり**、土地の利用申請からアクティビティを開始するまでに、**2～3年かかる場合**もあります。
- また、**自然環境を守るため、特に厳しい規制が存在するエリア**があり、下記の通り**事前承認手続**が必要となります。

特に厳しい規制が存在するエリアと必要なアクション	
規制対象 エリア例	• 国立公園、先住民のマオリ族(※1)の居住区、人気のトレイルルート等
管理者	• ニュージーランド自然保護局(※2)
必要な アクション	<ul style="list-style-type: none"> • 環境保全のための計画の提出 • 環境に損害が及んだ場合の修復費用を拠出するための第三者損害賠償責任保険への加入 • 政府が作成したマニュアルの遵守

参考) 土地所有者の義務

- 「WorkSafe New Zealand (※3)」が定める条例(※4)において、全ての事業者は労働環境の安全・健康管理を義務付けられており、土地所有者も条例の対象となります。
- そのため、所有する土地においては、合理的に実行可能な限り、人間の健康や安全に対するいかなるリスクも排除していくことが義務付けられています。

出典: アドベンチャーツーリズムを扱うニュージーランドの事業者・DMO・ガイドへのヒアリング
 ※1 ニュージーランドにイギリス入植前から住むポリネシア系の先住民 ※2 ニュージーランド政府の公共サービスの一つ
 ※3 ニュージーランド政府の認可法人 ※4 the Health and Safety at Work Act 2015

(4) 情報発信 情報発信に関する取組内容

ニュージーランド政府観光局は、ニュージーランドのアドベンチャーツーリズムを推進するため、メディアの活用やイベントの開催を通して、国外へ向けた情報発信を行います。DMOは、各地域に関するより詳細な情報発信や地域内の事業者に対するサポートを実施しています。

主体	情報発信活動
ニュージーランド 政府観光局	<ul style="list-style-type: none"> • 政府観光局はニュージーランド全体の魅力を世界に発信するために、主体的に以下の活動を行います。 1. メディア等を活用したニュージーランドに関する情報発信 <ul style="list-style-type: none"> • 事業者やDMOがリーチしづらい遠方の市場に対しても情報発信を行います。 • 他国の観光局とタイアップし、メディア関係者やソーシャルメディアのインフルエンサーを活用して互いに国の情報発信を行います。 2. 国外での旅行会社を対象にした商談会(トレードイベント)の開催 <ul style="list-style-type: none"> • 欧州やアジアでイベントを開催し、国外旅行会社にニュージーランドの情報を提供します。 3. 国内外の旅行会社をニュージーランドに招待する「トレント(Trenz)」の開催 <ul style="list-style-type: none"> • 2年に一度、国内外の旅行会社をニュージーランドに招待し、国内のコンテンツサプライヤーと引き合わせるためのイベントを開催しています。 • 国内のコンテンツサプライヤーは自社商品を発表し、そこで国内外の旅行会社と契約を結びます。
DMO(※)	<ul style="list-style-type: none"> • 管轄するエリアについての情報発信を行います。 • デジタルの活用が得意ではない事業者に対しては、ウェブサイトの活用方法やデジタルを活用した効果的な情報発信に関する講座を提供しています。 • 一部エリアでは、地域の事業者に対して情報発信に必要な資金援助を行います。
事業者	<ul style="list-style-type: none"> • 事業者は自社が提供する商品に関する情報発信を行います。 • 現在はほとんどの情報をオンラインかつ多言語で用意し、デジタルでの情報発信に力を入れています。 • 他事業者と協力し、ソーシャルメディアを利用した情報発信を行うこともあります。

出典:アドベンチャーツーリズムを扱うニュージーランドの事業者・DMO・ガイドへのヒアリング
 ※ DMOとは、Destination Management/Marketing Organizationの略称。日本では、「観光地域づくり法人」と呼ばれ、観光地域づくりの舵取り役を担う法人と位置付けられている。

(4) 情報発信 ファクトシート

B2B(※1)での営業ツールの1つとして、スイスや日本同様、多くのコンテンツサプライヤーは「ファクトシート」(いわゆる「MIC」(※2))と呼ばれる資料を作成しています。コンテンツサプライヤーは、旅行会社の目に留まり、コンテンツを理解してもらうため、シンプルでわかりやすい資料を用意するよう心掛けています。

ファクトシートの概要

概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> コンテンツサプライヤーは旅行会社に「ファクトシート」を使用して商品の情報を提供します。 多くの商品を扱う大手旅行会社担当者の目に留まり、コンテンツを理解してもらえるよう、シンプルでわかりやすいファクトシートを心がけています。
作成者	<ul style="list-style-type: none"> コンテンツサプライヤー
作成タイミング	<ul style="list-style-type: none"> ツアー造成後
作成言語	<ul style="list-style-type: none"> 英語
配布対象	<ul style="list-style-type: none"> ツアー/コンテンツを販売したい商談相手 ツアー/コンテンツの購入を検討中の顧客/購入者
配布方法	<ul style="list-style-type: none"> 商談時の資料として提示

ファクトシートの内容例

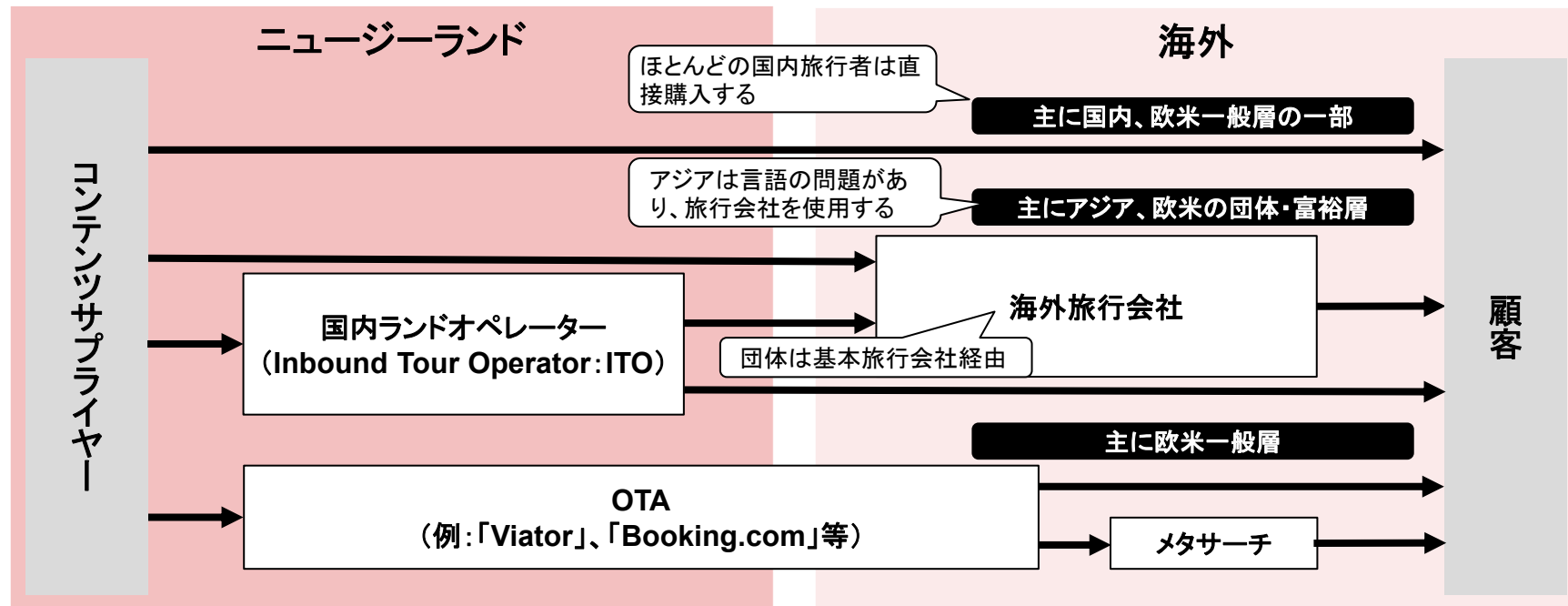
項目	内容
名称	地域名やツアー名を記載。
ハイライト	ツアーに含まれるアクティビティや主な見どころを箇条書きで提示。
ツアータイプ	プライベートツアー/グループツアーを記載。
所要時間	大まかな所要時間を記載。
期間	ツアーの日数を記載。
価格	顧客タイプ別の価格を記載。
移動手段	ツアー時に使用する移動手段を記載。 (例:クーラー付きベンツ)
集合場所	ピックアップ可能な場所の情報を提示。 (例:空港やホテルでのピックアップが可能)
写真	アクティビティが実施される場所の写真やアクティビティ実施時の写真を掲載。
表彰	過去に授与されたアワードや「Qual Mark」(※3)、サステナビリティへの取組をコラム的に記載

出典:アドベンチャーツーリズムを扱うニュージーランドの事業者・DMO・ガイドへのヒアリング
 ※1 Business to businessの略。企業間取引のこと
 ※2 Minimum Information to Client。商品の情報を簡潔にまとめた文書
 ※3 P34,35「リスク管理:法規制」にて詳細説明有

(5) 販売 活用される販売経路

最も一般的なルートは、海外の旅行会社や、海外への販売を行うInbound Tour Operator (ITO)を経由した販売となり、国外旅行者の大半はこのルートで商品を購入しています。米国の旅行者など、言語の障壁がなく、団体旅行やテーラーメイドのツアーを購入しない旅行者は、OTAを使用したり、直接コンテンツサプライヤーから購入する場合があります。

ニュージーランドでの販路図 商品販売の流れ →



(5) 販売 価格設定の考え方

アクティビティやツアーの価格は、多くの場合、コストと利益の積算や市場相場で決定されます。文化的体験や自然環境についての学習機会など、アクティビティ体験以外の「付加価値」を提供できると判断した場合は、他の事業者よりも高く価格を設定することがあります。

価格設定の方法

- ニュージーランドのアドベンチャーツーリズムにおける価格設定は**事業者の経験に依存する部分も大きい**ですが、傾向としては、**主に以下の2つの方法が存在**します。
 1. **コストと利益の積算**
 - **ツアーの運営に必要なコストを計算し、ツアー価格を設定**します。
 - 例えば、サイクリング1日ツアーの場合、レンタル自転車の価格、ツアーに含まれるランチコースの価格、ワインセラーでのテイスティングの価格、ガイド報酬、利益などを積算します。
 2. **市場相場の参照**
 - 同じアクティビティを提供する**他事業者の価格設定を参考に価格を設定**します。
 - 自社のツアーに、**他事業者のツアー以上の「付加価値」が盛り込まれていると判断**した場合には、**他事業者よりも高い価格を設定**します。
 - 例えば、アクティビティを実施する**エリアの土地形状、自然環境、文化等を学ぶ機会を提供すること**で、**アクティビティだけを**提供する他事業者よりも**20～25%ほど価格を高く設定**しています。
- また、日頃から市場のトレンドを観察し、**価格の調整**を行います。

(5) 販売 販売管理に関する取組

多数の販売経路を通じて商品を販売するニュージーランドの事業者の間では、効率的な販売管理を行うため、「IBIS」や「Rezdy」等の販売管理ソフトを利用することが一般的です。

利用されている販売管理ツール

- 様々な商品を多数のチャネルで販売していることが一般的であり、多くの事業者が予約を一括管理できる販売管理ソフトを導入しています。
- 販売管理ソフトを使用することにより、事業者は在庫管理、予約受付メールの送信、顧客データの一括管理等を効率化し、人的コストを削減しています。
- 以下はニュージーランドの事業者が実際に使用しているニュージーランド国内の販売管理ソフトの例です。

【「Rezdy」】

- ニュージーランドを拠点とし、販売管理ソフトを提供する大手事業者です。
- 1カ月99～249NZD(約7,600～19,000円)(※1)でサービスを提供しています。
- 主なサービスとして、リアルタイム在庫管理や予約受付メールの送信に加え、車両や従業員等のリアルタイムでのリソース管理、支払管理、データ分析があります。

【「IBIS」】

- ニュージーランドを拠点とし、販売管理ソフトを提供する事業者です。
- 利用料金は基礎料金が存在し、追加するサービス、ソフトの売上貢献度合いによって変わるようになっています。
- 基本的には「Rezdy」と同様のサービスを提供していますが、国内最大のEFTPOS(※2)事業者とも提携しており、安全な支払いを担保しています。

(5) 販売 リスク管理(法規制・認定制度)

注意すべきリスク管理に関連する規制と認定制度

アドベンチャーツーリズム事業者は、法律で事業者登録が義務付けられています。その他、労働安全衛生・航空・海上・犯罪・環境についても規制が定められています。認定制度については「Qual Mark」があり、ランクに応じたマークが付与されています。

		主な法律・制度名	概要
法規制	労働安全衛生に関する法律 (アドベンチャーアクティビティ事業者向け)	<ul style="list-style-type: none"> 「The Health and Safety at Work (Adventure Activities) Regulations 2016」 	アドベンチャーアクティビティ事業者に対して 事業者登録を義務付け るとともに、登録のための手続を規定
	労働安全衛生に関する法律 (全事業者向け)	<ul style="list-style-type: none"> 「The Health and Safety at Work Act 2015」 	全事業者を対象に、 職場のあらゆる側面 における リスク管理 について規定
	航空に関する法律	<ul style="list-style-type: none"> 「Civil Aviation Act 1990」 「Airport Authorities Act 1966」 「Aviation Crimes Act 1972」 	航空輸送業務、運航業務に関わる従業員 に関する規定
	海上安全法	<ul style="list-style-type: none"> 「Maritime Transport Act 1994」 「Local Government Act 1974」 	水難事故、海上での機械設備による事故 を防止するための規定
	犯罪に関する法律	<ul style="list-style-type: none"> 「Arms Act 1983」 「Crimes Act 1961」 「Evidence Act 2006」 「Harassment Act 1997」 「Victims' Rights Act 2002」 	銃器、被害者の権利、ハラスメント 等に関する規定
	環境に関する法律	<ul style="list-style-type: none"> 「The Conservation Act 1987」 「The National Parks Act」 「Walking Access Act 2008」 「Resource Management Act」 	保護区や国立公園 などにおける安全に関する規定
	認定制度	<ul style="list-style-type: none"> 「Qual Mark」 	旅行関連ビジネスに対して4つの基準で評価を行い、 ランクに応じたマーク を付与

(5) 販売 リスク管理(法規制・認定制度)

参考) The Health and Safety at Work (Adventure Activities) Regulations 2016」
(法規制)の詳細

制度名称		The Health and Safety at Work (Adventure Activities) Regulations 2016	基準	<ul style="list-style-type: none"> 事業者は、安全監査に合格し登録をする必要があります 事業者は、安全管理計画を作成し、指定の安全管理機関にて監査を受けます 				
概要		アドベンチャーアクティビティ事業者に対して 事業者登録を義務付ける とともに、登録のための手続を規定						
主体の 情報	組織名	WorkSafe New Zealand			取得 プロセス	<ul style="list-style-type: none"> 安全管理システムの実行及び書類作成 指定監査機関からの安全監査に合格し、安全監査証明書を取得 安全監査機関がWorkSafeに証明書を提出 登録機関が登録可否を決定 		
	政府との関係	ニュージーランド政府の認可法人(クラウンエンティティ)(※1)						
	管轄省庁	Ministry of Business, Innovation, and Employment						
	財源	収入より徴収される「Working Safer Levy」	ガイドの要件	一部のアクティビティのガイドについてのみ、ガイド免許取得要件あり(※3)				
対象の活動		<ul style="list-style-type: none"> 主な対象の活動は以下の通り(※2) <ul style="list-style-type: none"> - バンジージャンプ - 氷河ウォーキング - ロッククライミング(屋外) - ラフティング - スキューバダイビング 等 	改定・更新	<table border="1"> <tr> <td>有無</td> <td>あり</td> </tr> <tr> <td>頻度</td> <td>毎年100ドルの支払い(監査の有効期限は最長3年)</td> </tr> </table>	有無	あり	頻度	毎年100ドルの支払い(監査の有効期限は最長3年)
有無	あり							
頻度	毎年100ドルの支払い(監査の有効期限は最長3年)							

出典: WorkSafe HP (<https://www.worksafe.govt.nz/>)

※1 2004年のクラウンエンティティ法に基づいて設立された、中央政府と国有企業以外の、政府関係機関。WorkSafe New ZealandのボードメンバーはWorkplace Relations and Safety担当大臣により指名される ※2 該当のアクティビティ詳細はWorkSafe HP (<https://www.worksafe.govt.nz/topic-and-industry/adventure-activities/what-is-an-adventure-activity/>)を参照 ※3 ホワイトウォーターラフティングについては、New Zealand raft guide awardの取得が求められる

(5) 販売 リスク管理(法規制・認定制度)

参考「Qual Mark」(認定制度)の詳細(1/2)

制度名称		「Qual Mark」
概要		旅行関連ビジネスに対して4つの基準で評価を行い、 ランクに応じたマーク を付与
主体の 情報	組織名	「Qual Mark」
	政府との 関係	ニュージーランド政府の認可法人(クラウンエンティティ)(※)である「ニュージーランド観光局(Tourism New Zealand)」の品質保証機関
	管轄 省庁	Ministry of Business, Innovation, and Employment
	財源	政府、主要業界団体
対象の活動		「Qual Mark」付与(有料)を希望する旅行関連サービス提供者

認定の 分類

【金賞「Gold Sustainable Tourism Business Award」】

- 全てのサービスにおいて卓越した顧客体験を提供する優れたビジネスに与えられます
- ニュージーランドの観光産業を世界レベルの持続可能な観光地にするために先導的な役割を果たしていることが求められます

【銀賞「Silver Sustainable Tourism Business Award」】

- 旅行者の期待を上回る洗練されたビジネスに与えられます
- 積極的なリーダーシップ・改善による持続可能な観光業提供への取組が求められます

【銅賞「Bronze Sustainable Tourism Business Award」】

- 「Qual Mark」が設定するすべての基準を最低限満たす場合に与えられます

出典:「Qual Mark」HP (<https://www.qualmark.co.nz/>)

※ 2004年のクラウンエンティティ法に基づいて設立された、中央政府と国有企業以外の、政府関係機関。Tourism New Zealandのボードメンバーは観光大臣により指名される。

(5) 販売 リスク管理(法規制・認定制度)

参考「Qual Mark」(認定制度)の詳細(2/2)

認定の基準	【経済】 <ul style="list-style-type: none"> ・ オペレーションマニュアルの管理・使用頻度 ・ 予約・支払いにおけるクオリティ ・ 顧客に対する情報の正確さ・共有方法、等 	認定プロセス <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業者が申し込み、費用の支払い ・ ツーリズムビジネスアドバイザー(※)が訪問し審査を実施 ・ 結果の連絡
	【社会・人々】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 法の順守も含むジョブマネジメント ・ サービス水準 ・ スタッフへのトレーニング、等 	審査員 <ul style="list-style-type: none"> ・ ツーリズムビジネスアドバイザーが審査を実施 ・ ホスピタリティ、宿泊施設管理、体験型観光商品の管理などの経験を持ち、アセスメントに必要なトレーニングを受講
	【環境・文化】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 資源の活用方法 ・ ウェイストマネジメント、等 	更新・改定頻度 <p>毎年更新料の支払い及び審査を実施 (新型コロナウイルス感染症の影響により2020・2021年は費用免除)</p>
	【健康・安全・ウェルネス】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 報告・記録の実施 ・ 調査・改善の実施 ・ スタッフの知識・トレーニング・貢献、等 	免許認定状況 <p>1857事業者が取得</p>

出典:「Qual Mark」HP (<https://www.qualmark.co.nz/>)

※: ホスピタリティ、宿泊施設管理等の経験をもち、指定のトレーニングを受けたアドバイザー

(5) 販売 リスク管理(ポータルサイトの活用)

ニュージーランドでは、観光業界団体が、アドベンチャーツーリズムのリスク管理に関する各種情報や書類テンプレート等をまとめたポータルサイトを運営しています。アドベンチャーツーリズム事業者はこのサイトを活用することで、販売時のリスク管理に努めています。

リスク管理ポータルサイト「Support Adventure」の概要

正式名称	Support Adventure
運営関係者	<ul style="list-style-type: none"> 運営主体: <ul style="list-style-type: none"> ➢ Tourism Industry Aotearoa(※1) ➢ Recreation Aotearoa(※2) 承認: WorkSafe New Zealand(※3)
目的	<ul style="list-style-type: none"> The Health and Safety at Work Regulations(※4)で指定されるアクティビティ提供事業者に、安全な事業運営のための情報等を共有し、リスク管理をサポートするため
主な項目・コンテンツ	<ul style="list-style-type: none"> 「リスク管理」: <ul style="list-style-type: none"> - 安全な環境整備に関する情報 - リスク管理のプロセスに関する情報、等 「優れた取組(Good practice)」: <ul style="list-style-type: none"> - 複数のガイドラインの紹介 - 緊急時の対応についてのアドバイス、等 「ツール・テンプレート」(右記参照): <ul style="list-style-type: none"> - 各項目で必要な書類のテンプレートの添付 - 標準作業手順書(SOP)・ベストプラクティス紹介 「リーガル」: 関連する法律の紹介

サイト内に掲載のテンプレートの概要

- 「Support Adventure」には、事業者による書類提出や管理が必要な項目に関して「WorkSafe New Zealand」による監修を受けたテンプレートが用意されています。
- 事業者はそれらをダウンロードし、必要な個所を自身の情報に書き換えることができます。
- 以下は用意されているテンプレートの例です。
 - 安全管理計画
 - リスクの理解に関するフォーム
 - 標準作業手順書(SOP)関連のチェックリスト・フォーム
 - 従業員の情報管理書
 - 従業員の安全管理会議アジェンダ
 - 事故報告書
 - 器具管理表、等

(5) 販売 リスク管理(免責)(1/3)

販売時におけるリスク管理の実践内容(免責)

事業者は顧客に「リスクの理解に関するフォーム」や「利用規約・条件」への同意を義務付けていることが一般的です。情報ポータルサイト「Support Adventure」のテンプレート等を活用し、弁護士のレビューを受けることで適切な記載内容を担保しています。

免責によるリスク管理①: リスクの理解に関するフォーム

- アドベンチャーアクティビティ提供事業者の多くは旅行者に「**リスクの理解に関するフォーム(Understanding the Risks form)**」への**同意・サイン**を求めています。
- 内容例:
 - ✓ 健康上問題がないこと
 - ✓ 事故発生時に治療を受けることを同意すること
 - ✓ アクティビティ中止権は主催者が持つことを理解し、指示に従うこと
 - ✓ 持ち物の紛失・破損に対して主催者は責任を負わないこと
 - ✓ 死亡・傷害・不慮の事故・損害・損失について、土地所有者は責任を負わないこと
 - ✓ 器物や備品を破損した場合は本人が賠償すること
 - ✓ アルコールや薬物を摂取していないこと
 - ✓ メール送付等のマーケティング活動、アクティビティ時に撮影された写真のマーケティング目的での利用を許可すること
- 事業者は、情報ポータルサイト「Support Adventure」にて公開されているテンプレートを参考にすることが可能ですが、作成にあたっては**弁護士によるアドバイスを求めることが推奨**されています。

免責によるリスク管理②: 利用規約・条件

- リスクの理解に関するフォームを用意していない事業者も存在します。
- その場合、**利用規約・条件(Terms & Conditions)**にて**リスクについて言及し、免責同意**を求めています。旅行者は**アクティビティを予約する際に承諾する必要があります**。

過失訴訟の原則禁止について

- ニュージーランドではACC制度(※)により傷害補償を受ける代わりに、**加害者に対する不法行為訴訟を原則として禁止**しています。
- そのため、アクティビティで傷害を負った場合、原則、**参加者は事業者への訴訟ができません**。

(5) 販売 リスク管理(免責)(2/3)

「リスクの理解に関するフォーム」テンプレート

情報ポータルサイト「Support Adventure」にて、事業者向けの「リスクの理解に関するフォーム」テンプレートが掲載されています。事業者は黄色ハイライト部分の事業者名・アクティビティ名を変更し活用することが可能です。

Terms of use

This Risk Disclosure Template has been developed by SupportAdventure and is provided as an example only. Use of this document is at the recipient's own risk. We strongly suggest operators seek their own independent legal advice prior to using this template.

UNDERSTANDING THE RISKS

I accept that this activity inherently involves risks and potential hazards. The risks and hazards include, but are not limited to *customise to suit the activity: eg rolling or flipping the ATV, hitting obstacles (such as trees, rocks or other riders) or being hit by other riders, falling off the ATV, and equipment failure.*

I am aware that participating in the *four-wheel motorbike activities* offered by **ABC Adventures Limited** can be hazardous if they are not conducted with care, control and responsibility. I acknowledge that these risks could result in my injury (physical or mental) or even death.

Medication/health conditions

- I have informed the staff of **ABC Adventures Limited** (or will, prior to undertaking the activity) of any medical conditions, previous injuries and any medication I am currently taking which may affect my ability to *undertake the activity.*
- I confirm I am physically fit and able to participate in the activities and I have not been advised otherwise by a qualified medical person.
- I consent to receive any medical treatment that may be deemed necessary by **ABC Adventures Limited** in the event of injury, accident or illness while undertaking the activities.
- I understand it is my responsibility to disclose any conditions (health or otherwise) that may affect the safety and enjoyment of myself and those around me.

Conditions of participating in activity

- I agree to ride with care, and obey the rules set out by **ABC Adventures Limited** and instructions given by the guide (or a representative of **ABC Adventures Limited**), at all times.
- I accept that if I do not adhere to the instructions and rules, or if I act dangerously, recklessly or in a way that might endanger myself or others, **ABC Adventures Limited** may remove me from the activity. If this occurs, I acknowledge I will not receive a refund.
- I accept that **ABC Adventures Limited** reserves the right to cancel this activity if it becomes concerned for my safety, or the safety of another person.
- I agree to wear appropriate clothing and use/wear all safety clothing and equipment (as required by the guide) at all times when participating.

Limited liability of **ABC Adventures Limited**

- I understand that if I act recklessly or intentionally, and don't follow the rules or instructions set out by **ABC Adventures Limited** and the guide, which I have been made aware of, **ABC Adventures Limited** will not be held responsible for any injury, damage or loss I cause to myself/my property, or another person/their property, resulting from my action (or lack of action).

(5) 販売 リスク管理(免責)(3/3)

「リスクの理解に関するフォーム」テンプレート

情報ポータルサイト「Support Adventure」にて、事業者向けの「リスクの理解に関するフォーム」テンプレートが掲載されています。事業者は黄色ハイライト部分の事業者名・アクティビティ名を変更し活用することが可能です。

Terms of use

This Risk Disclosure Template has been developed by SupportAdventure and is provided as an example only. Use of this document is at the recipient's own risk. We strongly suggest operators seek their own independent legal advice prior to using this template.

Liability of landowner

- I agree that the owner(s) of the land on which the activity is conducted will not be held responsible for any death, injury, misadventure, damage to or loss of property caused in whole or part by these activities.

Damage to property or equipment

- In the event that I damage any of the clothing or equipment, or other property owned by **ABC Adventures Limited** or a landowner, I agree to pay to **ABC Adventures Limited** (or the landowner) all costs associated with repairing the damage.

Drugs/Alcohol

- I confirm I am not under the influence of intoxicating alcohol or drugs (be they legal or illegal) which may in any way impair my ability to undertake the activity.

Marketing

- I give **ABC Adventures Limited** permission to send me emails and/or post relating to ABC Adventures Limited events and promotions, as well as the right to use all photos and videos of me taken during the activity for promotional and social media purposes.

PARTICIPANT SIGN-OFF

I agree that by signing this 'Understanding the Risks form':

- I accept there are inherent risks and hazards associated with participating in the activity and I understand what these risks are (including serious harm and death);
- I am physically and mentally fit to participate and there is nothing I am aware of that will affect my ability to safely drive the vehicle, or impact the safety of other riders.
- I wish to proceed with the activity at my own risk.

Full name

Signature

Date

(5) 販売 リスク管理(保険)

「ニュージーランドのアドベンチャーツーリズム」における保険

ツアー事業者は自然保護地区でアクティビティを行う場合、損害賠償保険に加入することが義務付けられています。一方、外国人旅行者の保険加入は任意となっています。保険に加入しない場合も傷害についてはACC制度により補償されますが、病気・天候によるキャンセル等については補償されません。

	事業者	国籍問わず全ての旅行者
保険加入義務	△ 保護地区でアクティビティを行う場合は賠償責任保険加入が義務	○ (全ての旅行者が自動的に傷害補償制度の対象となるため加入手続きは不要)
保険タイプ	<ul style="list-style-type: none"> 賠償責任保険 	<ul style="list-style-type: none"> 傷害補償制度(ACC制度(※1))
関連法律	<ul style="list-style-type: none"> 環境に関する法律に明記はないものの、保護地区でのアクティビティ実施許可を得る過程で加入が求められます。 	<ul style="list-style-type: none"> Accident Compensation Act 2001
加入の目的	<ul style="list-style-type: none"> 自然環境を破壊した際の賠償費用を補填するため 	<ul style="list-style-type: none"> 事故等による傷害に対する補償のため
概要	<ul style="list-style-type: none"> 賠償責任保険の保険料は年間1,000NZD(約76,000円)(※2)程度です。 ニュージーランド企業の保険を直接購入する場合や、ブローカー(※3)を通じて保険に加入する場合があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ACC制度によりアドベンチャーアクティビティによる傷害についても補償されます。 ACC制度では病気、天候等によるキャンセル、携行品損害等については補償されていないため、事業者は保険への加入を推奨しています。

出典: アドベンチャーツーリズムを扱うニュージーランドの事業者・DMO・ガイドへのヒアリング
 ※1 詳細は次ページ参照 ※2 2022年2月時点レート(1USD(米ドル)=115円、1NZD(NZドル)=76円)を使用
 ※3 手数料を受け取り、取引の仲介を行う会社・人のこと

(5) 販売 リスク管理(保険)

参考)ACC制度制定の経緯と制度内容

ニュージーランドのACC制度は、アドベンチャーアクティビティ中の傷害についても補償される制度となっており、補償対象は外国人旅行者も含まれます。

制度制定の経緯	制度内容														
<ul style="list-style-type: none"> 制度制定前は、事故等発生時に、被害者は加害者の過失を証明しなければ、損害についての賠償を加害者から得ることはできませんでした。 上記の問題点を指摘した1969年の「人身傷害の補償に関する王立委員会調査報告書」(※1)が基礎となり、次の考え方を基に制度が制定されました。 <ul style="list-style-type: none"> - 当事者間の訴訟による解決では、事故直後の被災者のリハビリテーションは妨げられるとともに、事故を未然に防ぐ効果的な役割を果し得ない - このような結果を避けるためには社会保障のシステムが不可欠 	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="969 627 1182 691">制度名</td> <td data-bbox="1182 627 1966 691">事故補償法 (Accident Compensation Act)</td> </tr> <tr> <td data-bbox="969 691 1182 775">運営主体</td> <td data-bbox="1182 691 1966 775">事故補償公社 (Accident Compensation Corporation) (※2)</td> </tr> <tr> <td data-bbox="969 775 1182 860">財源</td> <td data-bbox="1182 775 1966 860">事故の態様ごとに異なるが、各種賦課金(雇用者・自動車所有者、就労者等)、政府支出、等</td> </tr> <tr> <td data-bbox="969 860 1182 983">対象者</td> <td data-bbox="1182 860 1966 983"> <ul style="list-style-type: none"> ニュージーランドにいるすべての人 (外国人旅行者含む) 海外にいるニュージーランド人 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="969 983 1182 1067">対象の事故</td> <td data-bbox="1182 983 1966 1067">自動車事故・労災事故といった事故の形態に関わらず全ての被害者</td> </tr> <tr> <td data-bbox="969 1067 1182 1190">補償内容</td> <td data-bbox="1182 1067 1966 1190">治療費・リハビリテーション費用、所得補償、後遺障害に対する一時金、死亡事故に対する補償(葬祭費補助金、遺族補助金等)</td> </tr> <tr> <td data-bbox="969 1190 1182 1390">制度のメリット</td> <td data-bbox="1182 1190 1966 1390"> <ul style="list-style-type: none"> 加害者の故意・過失に関わらず補償する代わりに、加害者に対する不法行為訴訟を原則として禁止(※3)することで訴訟制度における時間的・経済的コストを削減 原因・責任追及より、事故補償の迅速性を優先し、被災者の早期回復と社会復帰に要する期間を短縮 </td> </tr> </table>	制度名	事故補償法 (Accident Compensation Act)	運営主体	事故補償公社 (Accident Compensation Corporation) (※2)	財源	事故の態様ごとに異なるが、各種賦課金(雇用者・自動車所有者、就労者等)、政府支出、等	対象者	<ul style="list-style-type: none"> ニュージーランドにいるすべての人 (外国人旅行者含む) 海外にいるニュージーランド人 	対象の事故	自動車事故・労災事故といった 事故の形態に関わらず 全ての被害者	補償内容	治療費・リハビリテーション費用、所得補償、後遺障害に対する一時金、死亡事故に対する補償(葬祭費補助金、遺族補助金等)	制度のメリット	<ul style="list-style-type: none"> 加害者の故意・過失に関わらず補償する代わりに、加害者に対する不法行為訴訟を原則として禁止(※3)することで訴訟制度における時間的・経済的コストを削減 原因・責任追及より、事故補償の迅速性を優先し、被災者の早期回復と社会復帰に要する期間を短縮
制度名	事故補償法 (Accident Compensation Act)														
運営主体	事故補償公社 (Accident Compensation Corporation) (※2)														
財源	事故の態様ごとに異なるが、各種賦課金(雇用者・自動車所有者、就労者等)、政府支出、等														
対象者	<ul style="list-style-type: none"> ニュージーランドにいるすべての人 (外国人旅行者含む) 海外にいるニュージーランド人 														
対象の事故	自動車事故・労災事故といった 事故の形態に関わらず 全ての被害者														
補償内容	治療費・リハビリテーション費用、所得補償、後遺障害に対する一時金、死亡事故に対する補償(葬祭費補助金、遺族補助金等)														
制度のメリット	<ul style="list-style-type: none"> 加害者の故意・過失に関わらず補償する代わりに、加害者に対する不法行為訴訟を原則として禁止(※3)することで訴訟制度における時間的・経済的コストを削減 原因・責任追及より、事故補償の迅速性を優先し、被災者の早期回復と社会復帰に要する期間を短縮 														

出典:アドベンチャーツーリズムを扱うニュージーランドの事業者・DMO・ガイドへのヒアリング、J-STAGE 災害情報 No.17-2 2019 ※1 Report on Royal Commission of Inquiry, Compensation for Personal Injury in New Zealand ※2 政府認可法人(クラウンエンティティ) ※3 加害者の悪意が強い場合や制度の対象外とされた傷害・精神的傷害といったケース対しては不法行為訴訟が許される

(6) 提供 事故発生時の対応

ツアー催行中に事故が発生した場合の対応

事業者は事故発生時に備えて、リスクマネジメントガイドラインの作成が法律により義務付けられています。事故発生時はその場にいるアクティビティガイドが、ガイドライン及び訓練内容に沿って対応を行います。

アドベンチャーツーリズム事業者の取組

【事故に対する備え】

- 事業者は法律により**リスクマネジメントガイドラインの作成**が義務付けられており、事故だけではなく、自然災害や新型コロナウイルス感染症が発生した場合の対応についても定めています。
- また、毎年**シナリオを変えて訓練**を実施し、事故発生時に対応できるようにしています。
- アクティビティガイドは、**救急処置についてのライセンス**を取得し、**隔年で更新**をしています。

【事故発生時の対応】

- 緊急時の対応は、基本的にはアクティビティ現場にいる**ガイドがガイドラインに沿って**行います。
- まず**緊急電話へ連絡**し、ヘリコプター等の**レスキューの要請**を行います。水上での事故の場合は、「Coastguard」(右記参照)への救助要請を行います。

その他民間企業の取組例

【「Coastguard」の活用】

- ニュージーランドの民間の海洋捜索救助機関です。
- 会員は年会費を支払うことにより、救助費は無料となりますが、**会員でない場合は1時間280NZD(約21,280円)(※)のコストが発生**します。

自然災害発生時の対応について

- アクティビティ中に自然災害が発生した場合についても、事故発生時同様、**リスクマネジメントガイドラインに沿って対応**しています。
- アクティビティ実施前の自然災害により、実施が困難となる場合、事業者は**旅程の変更等の対応**を柔軟に行います。

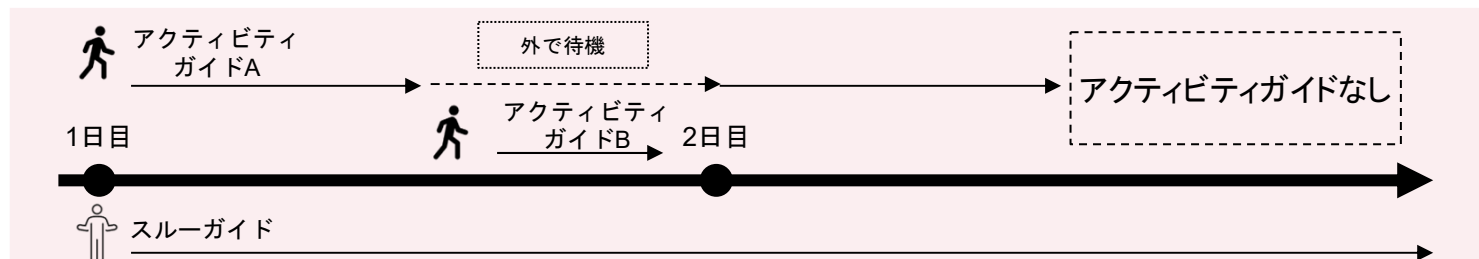
(6) 提供 ガイドの種類と配置

ニュージーランドのアドベンチャーツーリズムでは、旅行者の体験価値を最大化させ、快適・安全な旅行をサポートする役割をスルーガイド(トラベルコンシェルジュ)とアクティビティガイドが担います。

ガイドの種類	主な役割・概要	保有資格例	起用される場面	配置比率
スルーガイド (トラベルコンシェルジュ)	<ul style="list-style-type: none"> 旅行全日程にて、全般的なサポートを実施 	<ul style="list-style-type: none"> 運転免許 	高価格帯ツアー (非英語圏からの 中高年層の旅行者 に多い傾向)	<ul style="list-style-type: none"> ガイドと旅行者の 人数比率は事業者が独自に決定
アクティビティ ガイド	<ul style="list-style-type: none"> ① 担当アクティビティのガイド <ul style="list-style-type: none"> 安全なアクティビティ体験ができるようにサポート 旅行者に合わせスキル指導や知識の共有 ② 他アクティビティ・体験時のサポート <ul style="list-style-type: none"> ツアー内に担当外のアクティビティや体験等が組み込まれる場合に、行程に付き添い移動や時間管理等のサポートを実施 担当外アクティビティ実施時は待機 	<ul style="list-style-type: none"> Pre-Hospital Emergency Care(※) アクティビティ 資格 運転免許 	あらゆる アクティビティ 実施時	<ul style="list-style-type: none"> ガイドと旅行者の 人数比率は事業者が独自に決定 ガイドの経験等によって臨機応変に対応 【人数比率例】 (旅行者:ガイド) <ul style="list-style-type: none"> カヤック 9:1 サイクリング 8:1

主な
種類

配置
例



出典: アドベンチャーツーリズムを扱うニュージーランドの事業者・DMO・ガイドへのヒアリング
※ 緊急時の対応に関するファーストエイドの資格

(6) 提供 アクティビティガイドに期待される機能・技能

アクティビティガイドには、旅行者の安全を確保しつつ、楽しい体験を提供するため、アクティビティの知識・技能やエリアに関する深い知見に加え、高いコミュニケーションスキルや危機管理能力が求められます。また、成長意欲や素直さといった要素も必要です。

カテゴリー	スキル	概要
知識・技能	アクティビティに対する知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> アクティビティ上級者にも教えることができる水準であることが求められます。 安全なアクティビティを提供するために使用する器具への深い理解が必要です。器具の構造を理解し、修理することができるガイドも存在します。
	エリアの知識	<ul style="list-style-type: none"> 旅行者への説明のため、文化、地形、歴史など、エリアに関する知識が求められます。アクティビティガイドの中には環境学や地質学の学位を保有する人もいます。 事業者によってはニュージーランドに数年以上居住している人のみを採用します。
コミュニケーションスキル	フレンドリーさ	<ul style="list-style-type: none"> どのような旅行者とも意思疎通し、楽しませることができるスキルが求められます。
	話し上手さ	<ul style="list-style-type: none"> 歴史やアクティビティについて旅行者が楽しめる伝え方ができることが望ましいです。
緊急時の対応能力	危機意識の高さ	<ul style="list-style-type: none"> アクティビティの危険さを認識し、安全を常に意識することが必要です。 緊急時の対応について自ら学び、備え、臨機応変に対応する力を身に着けることが求められます。
その他	素直さ	<ul style="list-style-type: none"> 嘘やごまかしは時に大きな事故を招く可能性があるため、間違いを認め、改善することができる素直さが求められます。
	成長意欲	<ul style="list-style-type: none"> 緊急時の対応、アクティビティやエリアへの知識等を常に学習し、上達するための努力ができる強い成長意欲が必要です。

(6) 提供 アクティビティガイドの雇用形態

ニュージーランドでは、ガイド事業者やコンテンツサプライヤーにフルタイム又はパートタイムで雇用されているガイドと、フリーランスのガイドが同数程度存在します。法令上、特定の資格は義務付けられていないため、大学生やガイド未経験者も雇用されます。就労ビザの関係から、30歳以上の外国人の雇用はあまり一般的ではありません。

ガイドの雇用形態

- ガイドの雇用形態として、大きくは、**フルタイム、パートタイム、フリーランスが存在**します。
 - ガイド事業者の従業員として雇用されたガイドと、フリーランスのガイドは、同数程度存在すると言われています。
- 【フリーランス】
- フリーランスの場合、事業者とツアー単位でガイド契約を行うため、**ガイドの質や新型コロナウイルス感染症などの外的要因によって契約を打ち切られる**ことがあります。
- 【フルタイム・パートタイム】
- ガイド事業者に雇用されているガイドも存在しますが、**多くはコンテンツサプライヤーに雇用**されています。
 - フルタイム雇用かパートタイム雇用かは**経験・資格の有無**によって決定され、同一事業者で**勤続期間の長いガイドはフルタイムで雇用される傾向**にあります。

ガイドの属性

- ニュージーランドでは**アクティビティガイドに法令上定められた資格はなく、大学生等の未経験者を雇用する事業者も存在**します。
- 就労ビザの取得が難しいため、ワーキングホリデービザを利用出来ない**30歳以上の外国籍のアクティビティガイド**はあまり**多くありません**。**30歳未満の外国籍のガイドは、ワーキングホリデービザを活用**することが一般的です。

ワーキングホリデービザの概要

対象年齢	• 18～30歳（一部の国は35歳まで）
対象国	• 約45カ国
期間	• 12カ月あるいは23カ月
条件	• 帰りのチケットを買う金銭的余裕がある • 働くことが主旨ではなく、休暇が目的である
概要	• 指定の期間、ニュージーランドでの滞在が可能であり、仕事に就くことも可能

(6) 提供 アクティビティガイドの給与

アクティビティガイドの給与形態は、時給・日給・月給またはツアーごとで、アクティビティやガイドにより様々です。アクティビティガイドの給与は他の職業と比較して高くはなく、副業/兼業が一般的です。

ガイドの給与形態

【アクティビティガイド全体の傾向】

- アクティビティガイドの給与形態としては、**時給、日給、月給、ツアー単位が存在**します。
- 欧米からの旅行者による**チップも収入源**となっています。

【フルタイム雇用者の給与形態】

- **フルタイム雇用者は多くの場合月給制**です。
- **昇給制度がある事業者も存在**しますが、多くの場合、**給与レベルは数年で頭打ち**を迎えます。

【パートタイム雇用・フリーランスの給与形態】

- フルタイム雇用者以外は、**ツアー単位の支払いが一般的**です。
- **ツアー単位の支払いは事業者にとってフレキシブルでメリット**がありますが、**ガイドの収入が不安定**となる一因です。

ガイドの給与水準

- ニュージーランドのアクティビティガイドの給与水準は、**他の職業と比較して高くはなく、副業や兼業を行うことが一般的**です。
- **リスクの高いアクティビティのガイドは多少給与が高い傾向**にありますが、**基本はニュージーランドの最低賃金に近い1時間当たり20～30NZD**(約1,500～2,300円)(※1)となっています。

【アクティビティ毎のガイドの給与例(※1)】(全て日給)

- クライミング: 900NZD(約69,000円)
- ラフティング(※2): 400～500NZD(約31,000～38,000円)
- ハイキング: 600NZD(約46,000円)

【参考】ニュージーランド国内平均年収

- 観光・サービス業: 50,000NZD(約380万円)
- 製造業: 48,000NZD(約370万円)
- 金融業: 65,000NZD(約500万円)
- メディア業: 70,000NZD(約540万円)

(6) 提供 アクティビティガイドの働き方

アクティビティガイドは季節性の高い職業です。フルタイム雇用者は、繁忙期には1日に複数のツアーを率いるなど集中的に働く一方で、閑散期には別の仕事に就くことが一般的です。また、パートタイム雇用者には大学生も存在し、夏休みや冬休みだけ働くというケースもあります。

ガイドの働き方

【一般的なガイドの働き方】

- アクティビティの種類にもよりますが、準備や後片付け、送迎等に時間を要するため、半日ツアーで6～7時間、1日ツアーであれば10時間ほどのシフトで働きます。
- ニュージーランドでは、アクティビティガイドは、繁忙期、閑散期に関わらず、副業・兼業を行うことが一般的です。
- 副業・兼業としては、レストランなどのホスピタリティ産業、自営業、研究者等様々です。

【シーズン別の働き方】

- **繁忙期**
 - 夏と冬が繁忙期であり、その時期に集中的に働くことが一般的です。シーズン中は週4日ほどガイドとして働き、1日に複数のツアーをこなすこともあります。
 - パートタイム雇用の大学生が夏休みや冬休みだけ働くケースもあります。
- **閑散期**
 - 多くのガイドは、閑散期には別の職業に従事します。

フルタイム雇用ガイドの1年の働き方

- 以下はあるフルタイム雇用のアクティビティガイドの1年の働き方の例です。

時期	行動
5月	<ul style="list-style-type: none"> • 雇用主がいる北島で、カヤックガイドとしてフルタイムで働く • 忙しくない時期には副業としてレストランで働く
6月	
7月	
8月	
9月	
10月	<ul style="list-style-type: none"> • 休暇 • 雪の降る南島エリアに移動し、スキーガイドとしてフルタイムで働く
11月	
12月	
1月	
2月	<ul style="list-style-type: none"> • 休暇
3月	
4月	

(6) 提供 アクティビティガイドの採用・確保

アドベンチャーツーリズム事業者によるガイドの採用活動は、一般的な採用プロセス同様、書類選考や面接を通じて行います。法令上、雇用時の保有が義務付けられている資格がないため、アクティビティ経験よりも人間性や常識を重視する傾向にあります。

アクティビティガイドの採用

- 募集方法
 - ウェブ求人等の一般の職業と同様の方法で求人を行っており、**オンライン人材エージェント**を利用しています。
 - 一部事業者では**同業者や友人の知り合い等**を採用するリファラル採用も導入しています。
 - また、**商談会(トレードイベント)**等で別職業に従事する、**ガイドの適正がありそうと思われる人を勧誘する事業者も存在しています。**
- 書類選考・面接
 - 書類選考や面接など、**一般の職業と同様のプロセス**で採用活動が行われますが、**標準化された形式はなく、カフェ等で面接を行い、行動観察を行うこともあります。**
 - **雇用時の資格保有は必須でないこともあり、人間性や常識、ガイドとしてのポテンシャルを重視する事業者が多いようです。**
 - 事業者が採用時に重視するポイントとして、以下のような例が挙げられます。
 - 過去の経験や自信に囚われず、**会社に合わせて働くことができるか**
 - 準備や片付けといったアクティビティ以外の**地味な作業に対して、真剣に取り組むことができるか**
 - **地理や歴史に関連する知識や学位**を保有しているか
- 採用難易度
 - 都市部と地方部で状況は異なりますが、通常は、**若い外国人のガイドが多く存在するため、採用はあまり難しくありません。**
 - 新型コロナウイルス感染症の影響で、**国内ガイドの離職や外国人ガイドの減少が進み、現在はガイドが不足しています。**

(6) 提供 アクティビティガイドのキャリアパス

アクティビティガイドは、若いうちの数年間をガイドとして過ごし、その後、別の職業に従事することが一般的です。ニュージーランドでは、キャリアチェンジに対する肯定的な考え方や慢性的な労働者不足の状況があり、30代中盤までは他の仕事を見つけることは難しくありません。

アクティビティガイドのキャリア

- ニュージーランドのアクティビティガイドは、他職業と比較して給与が高くはなく、昇進や昇給にも限りがあり、現場のガイドを続ける以外のキャリアパスはほとんど整備されていません。
- また、繁閑差が激しいことやツアー単位での給与支払いが一般的であることから、複数の仕事を掛け持ちせざるを得ないガイドが多く存在します。
- そのため、学生アルバイトや本業に就くまでの経験として数年間ガイドに従事し、20代後半～30代前半にかけてキャリアチェンジをする人が多くなっています。
- ニュージーランドでは、20代で定職に就かず、海外生活を含め様々な経験を積むことは肯定的に捉えられています。また、人口が少なく慢性的な人手不足であるため、次の職業を見つけることは難しくありません。
- 一部のガイドは、30代以降も健康状態や体力が維持できる限りガイドとしてのキャリアを続けることを選びます。単身であれば問題ありませんが、家族がいる場合、家族からの理解が得られないことや、拠点が決まらないために家が借りられないという問題に直面することもあります。

(6) 提供 アクティビティガイドの能力開発

ニュージーランドでは、主に国の制度や事業者内の制度を通じて、アクティビティの技能や安全管理に関するガイドの能力開発が行われています。多くのガイドは、地域の自然や文化について自主的に学んでいます。

国の制度	緊急時の対応のための研修	<ul style="list-style-type: none"> 「WorkSafe New Zealand」で定められた「Pre-Hospital Emergency Care(※1)」の3日間の研修に2年毎に参加する必要があります。
	ガイド資格取得のための研修	<ul style="list-style-type: none"> 業界認定の資格を発行するNZOIA(※2)は資格取得のためのトレーニングをアクティビティ毎に提供しています。 資格取得は必須ではありませんが、ガイドは2日間程の講習を約400NZD(約31,000円)(※3)で受講できます。
事業者内の制度	マニュアルの用意	<ul style="list-style-type: none"> リスク管理、必要な器具の使い方、ツアーを行う地域の歴史や地理等のマニュアルを用意し、ガイドに共有している事業者もあります。
	社内研修の実施	<ul style="list-style-type: none"> 比較的規模の大きな事業者では、働き方や業務内容、知識の付け方についての研修を社内で実施しています。
その他	外部団体による研修	<ul style="list-style-type: none"> 上記の「NZOIA(※2)」資格取得のための研修を様々な組織が提供しており、一部の事業者は研修に自身のガイドを参加させています。
	自主学習	<ul style="list-style-type: none"> 意識の高いガイドは、アクティビティだけでなく、ツアーを行う地域の歴史や地理について旅行者に説明ができるよう、書籍や先輩ガイドからの教えを通じて、自主的な学習を行います。

出典：アドベンチャーツーリズムを扱うニュージーランドの事業者・DMO・ガイドへのヒアリング、「NZOIA」ウェブサイト、「New Zealand RED CROSS」ウェブサイト
 ※1 緊急時の対応に関するファーストエイドの資格 ※2 国内の業界規範のアウトドアの証明書発行を行う団体
 ※3 2022年2月時点レート(1USD(米ドル)=115円、1NZD(NZドル)=76円)を使用

(6) 提供 アクティビティガイドの実際の例

アクティビティガイドA氏



基礎プロフィール:

【性別・年齢】男(35歳)

【国籍】米国

【家族】妻、子供(2歳)

【学歴】学士号(地理学専攻)

【ニュージーランド居住歴】5年

職務経歴:

【アウトドア産業歴】15年

【前職】林業、スキーパトロール、
子供向けキャンプの指導

【雇用】フルタイム

【副業】レストラン従業員、
スキーパトロール

【資格を保有するアクティビティ】

カヤック、スキー

【その他保有する資格】

Pre-Hospital Emergency Care(※1)、雪崩業務従事者資格(※2)

【ガイドになった経緯・理由】

両親が林業を営んでおり、大学卒業後は林業に従事していました。元々、楽しい場所に出かけることが好きで、1人で自然の中にいる時間が落ち着くと感じていました。

自分のように1人で自然の中にいることを好まない友人が多く、そのような友人たちを色々な場所に案内していました。それがガイドになったきっかけです。

【趣味】

私はニュージーランド人ではありませんが、ニュージーランドの地形や自然について学ぶことが好きで、時間のあるときはよく図書館に行き、勉強しています。

大学では地理学を専攻していました。おかげで天候についての知識があり、地図を正しく読むことができるので、初めての土地においても旅行者を安全に案内することができます。

【ガイドを続けるモチベーション】

人々をわくわくする場所に連れていき、新しいものを見せることや、人生最高の時間を提供することに喜びを感じています。この仕事はこれからも続けたいと思っており、ビザが取得できればいつか日本においてもガイドとして働きたいです。

【ガイド職で感じている問題】

ガイド職は給与が高くはなく、副業をせずに生活することが難しい職業です。そのため、家族からの理解を得るのは難しいです。また、国によって求められる資格が異なるため、希望する国ですぐに働けるわけではありません。

資料集

<顧客像調査>

- 「Shaping the Future of Adventure and Cultural Travel」
(国際金融公社、Adventure Travel Trade Association)
(<https://www.ifc.org/wps/wcm/connect/bdfbba38-8a01-4247-bb23-bd1184c1ef6d/Fiji-Shaping+the+Future+of+Adventure+and+Cultural+Travel.pdf?MOD=AJPERES&CVID=mU2lcam>)
- 「2019年度アドベンチャートラベルコンテンツ造成事業最終報告書」(北海道運輸局)
(<https://www.tb.mlit.go.jp/hokkaido/content/000179988.pdf>)

<スイス編>

- Adventure Travel World Summit, Switzerland 2012 (ATTA)
(<https://www.adventuretravel.biz/events/summit/switzerland-2012/>)
- アウトドア業界団体「Swiss Outdoor Association」
(<https://www.swissoutdoorassociation.ch/de>)
- スイス政府観光局によるサステナビリティ推進プログラム「Swisstainable」
(<https://www.myswitzerland.com/en-id/planning/about-switzerland/sustainability/>)
- スイス最大規模のアドベンチャーツーリズム事業者「Outdoor Switzerland」(<https://outdoor.ch/en/>)
- リスク管理に関連する認定制度「Quality Programme of Swiss Tourism」(スイス連邦政府)
(<https://www.stv-fst.ch/en/labels/quality-programme>)
- スイス観光連盟 (<https://www.myswitzerland.com>)
- スイス連邦・カントンによる情報ポータルサイト「the Swiss Authorities online」
(<https://www.ch.ch/en/>)

<ニュージーランド編>

- ニュージーランド政府観光局によるニュージーランド旅行者向け情報サイト「100% PURE NEW ZEALAND」
(<https://activeadventures.com/>)
- サイクリング、ウォーキングに特化したアドベンチャーツーリズム事業者「Adventure South」
(<https://www.adventuresouth.co.nz/>)
- ハイキングに特化したアドベンチャーツーリズム事業者「Hiking New Zealand」
(<https://hikingnewzealand.com/>)
- 労働環境の安全性等に関する監査を行うニュージーランド政府の認可法人「WorkSafe」
(<https://www.worksafe.govt.nz/>)
- 旅行関連ビジネスの品質評価「Qual Mark」
(<https://www.qualmark.co.nz/>)
- リスク管理ポータルサイト「Support Adventure」
(<https://www.supportadventure.co.nz/>)

令和3年度
新たなインバウンド層の誘致のためのアドベンチャーツーリズム推進事業
【アドベンチャーツーリズムナレッジ集別冊】
海外調査結果
令和4年3月

<編集・発行>

国土交通省 観光庁 観光地域振興部 観光資源課
【住所】 〒100-8918 東京都千代田区霞が関2-1-2
【電話】03-5253-8111(代表)

- 本調査結果に記載されている諸外国の取組内容は、令和4年(2022年)2月末時点の情報である。